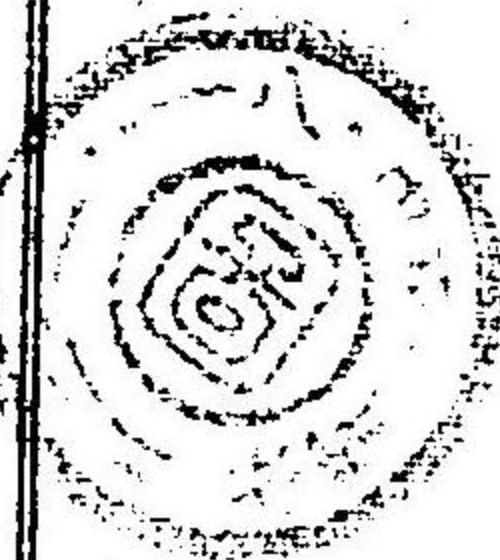


N 215029

中西牛郎著

宗義革命論

東京 博文堂發行



叙言

余嚮キニ我邦佛教ノ衰頽スルヲ慨シ。竊ニ自ヲ揣ラス
獨カヲ振ツテ之ヲ挽回セント欲シ。大聲疾呼日夜奔走
シテ。其僧侶及ヒ信徒ヲ警醒セシムルニ盡カシタリ。
然レモ未タ尺寸ノ功ヲ奏スルニ能ハス。以爲ラク余此
精神アリ之ヲ口ニシテ一地方ノ佛教徒ニ告ルハ。寧ロ
之ヲ筆シテ全天下ノ佛教徒ニ訴フルニ若カズト。此ニ
於テ宗教改革論ト題スル一大議論ヲ起草スルニ企
ルニ至ル。而シテ又タ以爲ラク余ガ佛教ヲ擴張スルハ
獨リ其教ヲ日本ニ挽回スルニ止ラス。遂ニ進ンデ四海

ニ光被セシメント欲スルノ目的ナレバ。先ツ佛教ガ世界文明ノ大氣運ト如何ナル關係ヲ有スルカヲ論明セザル可ラス。佛教若シ世界文明ノ全局ニ於テ勝利ヲ占ムルモノナレバ日本ニ於テモ遂ニ勝利ヲ占メザル可ラス。佛教若シ世界文明ノ全局ニ於テ敗績ヲ取ルモノナレバ日本ニ於テモ遂ニ挽回ス可ラス。故ニ聊カニテモ此問題ヲ解釋スルハ方今ノ急務ナリト。此レ佛教改革論ニ先ンジテ此論ヲ公ニスル所以ナリ。顧フニ此書區々タル小冊子ニ過ギズ。而シテ此大問題ヲ解釋スルノ任ニ當ルハ或ハ「ナイフ」ヲ以テ巨材ヲ削ルノ朝ヲ

免レザルニ似タリ然レモ。微密ニ本論ノ事實ト推論トヲ考フルモノアラバ。必ズ叨リニ此書ヲ擯斥セザルナリ。

然レモ余ハ敢テ此論ヲ以テ耶佛二教ノ教理ヲ論評セんと欲スルニアラス。余ガ耶佛二教ヲ委シク論評スルノ書ハ。當サニ他日ヲ待チテ之レヲ公ニス可シ。蓋シ余ガ佛教ヲ觀ル或ハ世人ト其看ヲ異ニスルモノナキニアラス。余ガ耶蘇教ヲ觀ルモ亦タ或ハ世人ト其看ヲ異ニスルモノナキニアラス。特ニ近頃世ニ著名ナル佛教活論ハ其卓見往々余ヲシテ感服セシムルニ足リ。且ツ

該著者ハ予ガ畏敬スル所ナリト雖モ。其佛教ヲ論ズル
 ニ至リテハ余ガ所見ト或ハ吻合セズ。此レ蓋シ讀者ノ
 此書中ニ於テ感觸スル所ナラン。嗟呼余ノ無學不才豈
 ニ著作ヲ以テ自ラ任ズルモノナランヤ。然レモ佛陀ノ
 予ニ與ヘタル感化ハ遂ニ余ヲシテ黙セント欲シテ黙
 ス可ラザルモノアリ。讀者乞フ幸ニ余ガ微志ヲ諒セヨ。
 若シ人アリ本書ニ於テ叙述スル耶蘇教ノ衰頽ヲ徵ス
 ル事實ヲ以テ尋常ニシテ奇トスルニ足ラズト云ハバ。
 余ハ將サニ一言以テ之ニ對ヘテ曰ハントス。世間尋常
 ノ事實ホド勢力アルノ事實ハアラズト。而シテ歐米佛
 教ノ近況通信ニ至リテハ。本書ハ實ニ西京海外宣教會
 ニ負フ所アリ。讀者若シ詳細ヲ委サント欲セバ。近日該
 會ヨリ發兌スル海外佛教事情ヲ一讀スルノ勞ヲ執ラ
 ザル可カラズ。

明治二十二年一月熊本ニ於テ

記者誌ス

Gautama Buddha Sakya Muni has ennobled
the whole human race. His fame is our common
inheritance. His Law is the law of Justice,
providing for every good thought, word, and deed
its fair reward; for every evil one its proper
punishment. His Law is in harmony with the
voices of nature, and the evident equilibrium of the
universe.

HENRY S. OLCOTT.

In point of age, therefore, most other creeds are youthfull compared with this venerable religion, which has in it the eternity of a universal hope, the immortality of a boundless love, an indestructible element of faith in final good, and the proudest assertion ever made of human freedom.

EDWIN ARNOLD.

宗教革命論

目次

宗教革命ノ原因ヲ論ス

第一章 宗教心ノ分析

第二章 宗教ハ顯示ニヨリテ立ツモノナリ

第三章 宗教ノ進化

第四章 眞理ニ合スル純全ナル宗教

宗教革命ノ現象ヲ論ス

第五章 道理ノ女神

第六章 耶蘇教ト理學ノ軋轢

第七章 宗教改革ノ結果

第八章 耶蘇教ノ前途

第九章 哲學ト宗教

第十章 佛教ノ振興

宗教革命ノ結局ヲ論ス

第十一章 我邦ト佛教トノ關係

第十二章 舊佛教ヲ一變シテ新佛教トナサザル可ラズ

宗教革命論

中西牛郎著



第一章 宗教心ノ一分

宗教心ハ分拆

ハ說ヲ爲シテ曰ク宗教ニ二種アリ一ハ自然教

泰西ノ學士動輒ス

テ顯示教 (Revealed Religion) ナリ蓋シ自然教ナルモ

救世主其他尋常人間ニ超絶シタル能力ヲ有スル

モノ、訓誨顯示ヲ待タズ直チニ人間固有ノ天性ニ淵源シ適當ナル境

遇ニ應ジテ伸暢發達シ人性自然ノ美花ヲ開キタルモノニ外ナラズ恰

モ猶ホ物數ヲ計フレバ數理的ノ思想生シ天然及ヒ人工ノ美ヲ觀レバ

美術的ノ觀念生シ自他交際ノ關係起レバ道德的ノ感情生ズルガ如ク

ナルモノアラシカ然レモ所謂顯示教ナルモノハ之ニ反シ聖賢神佛豫

言者、救世主、其他人間ガ想像シテ尋常人間ノ能力ニ超絶シタルモノガ、人間智力ノ逆モ討究シ能ハザル所ヲ顯ハシ、其永遠無窮ノ命運ヲ示スモノナリ、故ニ之ヲ約言スレバ、自然教ハ哲學ノ範圍ヲ出ル能ハズ、蓋シ哲學ナルモノハ人間智識ノ最高巔ニ達シタルモノナリト雖モ、猶ホ人間智力道理ノ及ブ所ヲ限界トシテ、此レヨリ以テハ一步ト雖モ進ムコト能ハズ、若シ哲學ニシテ智力道理ノ範圍外ニ彷徨スルアラバ、此レ一種ノ想像タルニ過ギザルナリ、然レモ天下古今ノ宗教ヲ總論スルニ吾輩未ダ其自然教ニ基カザルノ宗教アルヲ見ザルナリ、亦タ未ダ其顯示教ヲ有セザルノ宗教アルヲ見ザルナリ、然ラバ則チ自然顯示トハ宗教ノ二大要素ニシテ偏廢ス可ラズ、特ニ怪ム我邦學者往々佛教ヲ以テ哲學教トシ、耶穌教ヲ以テ天啓教トナシ、以テ二教ノ優劣ヲ論ゼントスルモノアリ、然レモ吾輩ノ所見ヲ以テスレバ、耶佛二教俱ニ人間自然ノ天性ニ基クニ至リテハ、敢テ異ナルトナシ、亦タ其顯示ヲ包含スルニ至リ

テモ敢テ異ナルトナシ、之ヲ要スルニ顯示ナルモノハ宗教ノ一大要素ナリ、此要素ヲ欠クキハ宗教亦タ宗教タルノ價值ヲ有セズ、然レモ此要素ヲ需要スルモノハ人性自然ノ宗教心ナリ、故ニ彼ノ自然教ナルモノハ之ヲ稱シテ宗教心ノ發達ナリト云ハザル可ラズ、而シテ宗教心及ビ顯示ノ性質ヲ知ラザルモノハ、未ダ真正ノ宗教ヲ論定スルニ足ラザルナリ、然ラバ則チ宗教心トハ如何ナルモノゾ、人間自然ノ天性カ其適當ナル境遇ニ應ジテ發達スルモノナリ、然ラバ則チ宗教心ヲ發達セシム可キ適當ナル境遇トハ如何ナルモノゾ、第一時ノ古今ヲ問ハズ、土ノ東西ヲ論セズ、凡ソ人間ハ宇宙萬有ノ終始變化ハ如何ナルモノナルカ、人間ノ生ヤ焉クヨリ來ルカ、其死ヤ焉クニ往クカ、宇宙ト人間ハ如何ナル關係ヲ有スルカノ問題ヲ生ゼザルハナシ、此レ則チ智力ヨリ生ズルノ宗教心也、第二人間ノ懼ル、所ハ死ヨリ大ナルハナシ、又其知ラザル所ヨリ

甚キハナシ。而シテ死ハ人間ノ免レザル所ナリ。死後ノ事ハ人間智識ノ版圖ニ入ラザルモノナリ。故ニ此點ニ於テ人間ハ自ラ其薄弱ナルヲ感シ。現世ト來世トヲ論セズ。必ズ常住不變ナルモノニ依頼スルノ念アラザルハナシ。此レ則チ感情ヨリ宗教心ヲ生ズルモノ也。第三人間ハ形體的ノ欲望アリ。精神的ノ欲望アリ。此二者其性質ヲ異ニスト雖モ。其際限ナキニ至リテハ同一ナリト云ハザルヲ得ズ。然レモ人間ノ現性ト現境遇トハ斯ノ如キ際限ナキノ欲望ヲ満足スルニ足ラザルヲ以テ。一轉シテ所謂天國ノ理想ヲ生シ。現世ヨリモ一層快樂ナル一層美妙ナル境界ヲ希望セリ。此レ則チ意志ヨリ宗教心ヲ生ズルモノ也。

斯ノ如ク論シ來レバ。宗教心ナルモノハ彼ノヘーゲル。クローザン諸氏ガ唱說スルガ如ク。獨リ智力ヨリ生ズルノ結果ニアラズ。シユライエルマツヘル。マンセル諸氏ガ主張スルガ如ク。偏ニ感情ヨリ生ズルノ結果ニアラズ。亦タカント諸氏ガ立言スルガ如ク。專ラ意志ヨリ生ズルノ結果ニ

アラズ。即チ智力ノ元素モアリ。感情ノ元素モアリト云ハザル可ラズ。然リ而シテ人間ノ智力ハ邦國時代ニ從ツテ其發達ヲ異ニスルヲ以テ。其宇宙現象ノ本源人間ノ命運ヲ解釋スルモ。亦タ種々眞理ニ反對スルノ說ヲ立ツルヲ免レズ。其自ラ薄弱ナルヲ感シテ限リナク依頼スルノ感情ハ。各宗教ノ同キ所ナリト雖モ。或ハ恐怖ニ過ギ。卑屈ニ流レテ。愛悦ノ如キ。歎美ノ如キ。高尚ナル感情ヲ蔽塞スルモノアリ。或ハ欣慕。親愛。歎美。恩寵ノ高尚優美ナル感情發達シテ。恐怖。畏懼。卑屈。奴隸ノ諸情漸ク減ズルモノアリ。而シテ宗教欲望ノ目的タル天國ニ至リテモ。又タ以テ各宗教理想ノ同一ナラザルヲ觀察ス可シ。此ニ由リテ之ヲ觀レバ。人間自然ノ宗教心ナルモノハ。他ノ政治。法律。學問。文學。美術。習慣。風俗ト共ニ一層進歩シ。漸ク劣等ヨリ高尚ニ赴キ。妄想ヨリ眞理ニ進ミ。不完全ヨリ完全ニ達スルモノナリト云ハザルヲ得ザルナリ。

然ルニ天下ノ大生民ノ衆。宗教ニ反對スルノ學士論者モ亦タ少シトセ

第 一 章

又彼ノ有名ナル法學ノ大家ゼレミ、ベンザム氏ノ如キハ古來ノ道義學者ガ良心ノ天賦未來ノ賞罰上帝ニ對スルノ義務ヲ以テ人間道徳ノ基礎トスルノ説ヲ翻案一掃シ斷然苦樂ヲ以テ道徳ノ大本トスルノ新説ヲ立ツルヲ以テ其勢自ラ宗教ヲ無用視スルニ至ラザルヲ得ズ遂ニ宗教ハ一時未開ノ世ニハ裨益スル所ナキニアラズト立論シテ暗ニ宗教ノ必要ヲ認メザルガ如シシヨンスチユアルト、ミル氏ニ至リテハ更ニ一步ヲ進メテ古代希臘人ノ中ニ來世ノ念ニ乏キモノアリトテホルムルノ著作セル「チヂツスセイ」ヲ引證シ又タ東洋幾億ノ人民ガ奉信スル佛教ノ寂滅ナルモノハ斷無ノ見ニシテ殆ント無宗教ニ異ナラズト言ヒ以テ宗教ノ必要ナラザルヲ證明シタリ然レモ人間ニシテ宗教心ヲ具スル以上ハ宗教ノ必要ナラザル理アルコトナシ彼ノ野蠻種族ガ禽獸木石ヲ崇拜スル實ニ宗教心ノ發現セシモノニアラザルハナシ各國人民ガ天地開闢ニ關シテ傳フル所「ミソコヂ」モ亦タ宗教心ノ發現

宗 教 心 ノ 分 拆

セシモノニアラザルハナシ美術文學哲學ノ煥發シテ博大高尚トナルニ從ツテ必ズ幾分宗教心ノ元素ヲ含蓄セザルハナシ故ニ宗教心ノ發現セルハ殆ント世界一般ノ現象ナリト云ハザル可ラズ然ルニ今ヤ或ル國民ノ中ニ或ル社會ノ中ニ或ル種族ノ中ニ偶々宗教ノ思想感情ニ乏キモノアリト雖モ此事實ヲ以テ直チニ宗教心ノ存在ヲ拒ムコト得ルカ宗教ノ必要ヲ疑フコト得ルカ夫レ學術ハ人間ニ必要ナルモノナリ教育ハ人間ニ必要ナルモノナリ政治ハ人間ニ必要ナルモノナリ國家ハ人間ニ必要ナルモノナリ然レモ野蠻社會ニハ未ダ學術ノ微光ヲ仰ガザルモノアルニアラズヤ未ダ教育ノ恩澤ニ浴セザルモノアルニアラズヤ大初原人ノ如キニ至リテハ天然同居シテ未ダ政治ヲ設ケズ未ダ邦國ノ體裁ヲナサザルノ時代アリシニアラズヤ然レモ人間ニシテ其自然進化ノ理法ニ從ヒ完美福祉ノ域ニ臻達セント欲セバ國家モ必要ナリ政治モ必要ナリ教育モ必要ナリ學術モ必要ナリ蓋シ發達ア

リテ始メテ必要ヲ生ズ故ニ人間社會ニ起ル各般ノ必要ハ自ラ必要ナ
 ルニアラズシテ進歩ノ爲メニ必要ナリ彼レ慈母ノ懷ニアリテ呱呱乳
 チ求ムルノ小兒豈ニ初メヨリ貨幣ト書籍トノ必要ヲ解センヤ然ラバ
 則チ希臘ノ如キ人間一般ノ生活ニ至リテハ稍々高尚ニ赴クト雖モ其
 獨リ宗教ノ思想ニ乏キモノアルハ必ズ他ニ事情アリ不幸ニシテ之レ
 ナ發達スルノ機會ヲ得ザルモノアラソシテミル氏ガ佛教ヲ以テ斷
 無ノ見トスルハ恐クハ未ダ佛教ノ性質ヲ討究セザルノ致ス所ナラン
 ノミ

更ニ宗教ハ全ク人間ノ妄想ニ基ヒテ起ルニ過ギズト主張スルノ論者
 アリ蓋シ此論ノ唱道者ハ恐ラクハ古代希臘ノ哲學家エピキュルス其
 人ナラン氏曰ク宗教ナルモノハ恐怖ヨリ生シタル人心妄想ノ幻影タ
 ルニ過ギズト而シテ近世ニ至リテ此說最モ勢力ヲ極メ説ヲ立テ、云
 ク太古人間智識未ダ進マズ推理ノ能力未ダ發達セザルニ方リテハ宇

宙萬有ノ變化運動ニ就ヒテ物理的ニ其原因ヲ推究スル能ハズ彼ノ山
 川ノ如キ河海ノ如キ風雨ノ如キ雷電ノ如キ星辰ノ如キ其他種々ノ現
 象盡ク人間ノ如キ意欲ヲ有スルモノアリテ之ヲ主宰スルナラントノ
 現像ヲ生ゼリ然レモ理學智識ノ進歩シタル今日ヨリシテ之レヲ觀レ
 バ其妄想ニ出ルヲ看破スルヲ容易ナリ然ラバ則チ人間宗教ノ起源タ
 ル間ハズシテ其妄想ニ出ルヲ知ル可キナリ問ハズシテ其妄想ノ暗霧
 ハ智識ノ太陽ニ照破セラレテ漸次拂散スルヲ知ル可キナリト
 吾輩ハ固ヨリ古代宗教ハ大抵妄想ニ出ルヲ確信シテ疑ハズ現時文明
 ノ宗教ト雖モ亦タ必ズ其妄想ヲ免レザルモノアルヲ確信シテ疑ハズ
 此レ吾輩ガ此書ヲ著ハシ妄想ヲ排シテ真理ヲ明ニシ人類社會ノ進歩
 ナシテ一層善美ノ域ニ進マシメントスル所以ナリ然リト雖モ天下各
 宗教ヲ以テ盡ク妄想ニ出ルトシ復タ真理ニ應合スル完全ナル宗教ナ
 シトスルニ至リテハ此レ則チ全然タル非宗教者ニシテ吾輩ノ論敵ナ

リト云ハザルヲ得ズ然レモ想フニ斯ノ如キ論者ハ唯耶蘇教ヲ以テ最
モ進歩シタル宗教ナリトシ之ヨリ外ニ理學哲學ノ道理ト相反ラザル
ノミナラズ人類ノ命運ヲ明ニシ人心ノ高尚無限ナル感情ヲ満足シ宇
宙萬有ノ最大目的ヲ開示スルノ宗教アルヲ知ラザルナラン抑モ世果
シテ斯ノ如キ完全無比ナル宗教アリトセンカ天下各宗教ハ進ンデ此
宗教ニ達スルノ初步タルニ過ギズト云ハザルヲ得ズ此宗教ノ不完全
ナル模範タルニ過ギズト云ハザルヲ得ズ而シテ斯ノ如キ完全無比ナ
ル宗教ハ果シテ如何ナル宗教ナル可キカ將タ果シテ如何ナル宗教ナ
ラザル可ラザルカ

第二章

宗教ハ顯示ニ因リテ立ツモノナリ

顯示ナルモノハ宗教ノ一大要素ナリ如何ナル宗教ニテモ顯示ヲ包含
セザルハナシ故ニ猶太教ニハ猶太教ノ顯示アリ回々教ニハ回々教ノ
顯示アリ耶蘇教ニハ耶蘇教ノ顯示アリ獨リ儒教ノ如キハ顯示ヲ有セ

ズ此レ儒教ノ宗教タルヲ得ザル所以ナリ
然ラバ則チ顯示トハ如何ナルモノゾ即チ吾輩ガ前章ニ於テ説明シタ
ルガ如ク聖賢神佛豫言者救世主其他智力能力ニ於テ尋常人間ニ超絶
シタルモノガ人間智力ノ能ハザル所道理ノ達セザル所ヲ顯示シテ宗
教心ヲ満足セシムルモノナリ蓋シ宗教心ナルモノハ彼レインガソル
氏ガ言フ如ク靈魂不死ノ思想ハ猶ホ人心ニ潮流スルノ海水ノ如ク恒
ニ望波恐瀾ヲ生シテ時間ト命運ノ岸邊ニ打チ寄スルモノナリ然ルニ
此感情ハ書籍ヨリ生ズルモノニアラズ信經ヨリ生ズルモノニアラズ
宗教ヨリ生ズルモノニアラズ即チ人心自然ノ感情ヨリ來ルモノニシ
テ人間ガ黃泉ト接吻スル迄ハ迷惶ト疑懼ノ間ニ彷徨スルヲ免レズ嗚
呼此レ人間悲歎ノ涙露ヲ照ラスノ希望ナリ嗚呼此レ人間希望ハ燦爛
タル燦爛ナリ而シテ此迷霧ヲ拂ヒ此疑雲ヲ散シ蒼々タル青空無限ノ
天ヲ仰ガシムルモノハ顯示ニアラズシテ何ソグヤ

蓋シ人間ハ五官ニ由リテ萬有現象ヲ認識スルモノナリ。然レモ五官ノ認識ハ限リアルモノナリ。故ニ五官認識ノ及バザル所ハ推理ノ能力ヲ以テ道理ヲ究メザルヲ得ズ。然レモ推理ノ能力モ亦タ限リアルモノナリ。故ニ智識ヤ、理學ヤ、哲學ヤ、其討究スル所ハ範圍アリト謂フ可シ。然レモ人間ノ宗教心ナルモノハ、感情ト云ヒ、意志ト云ヒ、此範圍ノ外ニ超越シテ絕對ノ門ヲ叩クニアラザレハ満足スル能ハズ。而シテ人間ノ智力以テ之レニ達スル能ハザレハ、顯示ニ由ラズシテ將タ奈何センヤ。既ニ然リ。人間ノ智力ハ道理ヲ以テ知ル可キノ範圍ト、知ル可ラザルノ範圍アリ。然レモ其知ル可キノハ、那點マデ知ル可キカ。其知ル可ラザルモノハ、那點ヨリ知ル可ラザルカ。此二者ノ間ニ判然界線ヲ明畫シタルハ、近世哲學進歩ノ赫々タル一大偉業ニシテ、吾輩ハ此偉業ニ對シテハ特ニ彼ノスペインセル氏ニ謝セザルヲ得ズ。左レバ智識ニセヨ、理學ニセヨ。此知ル可キノ範圍ニ其歩ヲ駐ム可キハ、固ヨリ論ヲ待タズ。智力ヨリ生

第

二

章

宗教ハ顯示ヨリテ立テリトモツナリ

ズルノ宗教心モ亦タ進ンテ知ル可ラザル範圍ニ入ル能ハズ。唯此知ル可キノ範圍ニ於テ、其所謂自然教ナルモノヲ建設スルニ過ギザルナリ。然ラバ則チ自然教ハ知ル可キノ範圍ニ於テ建設セザル可ラズ。顯示教ナルモノハ知ル可ラザルノ範圍ニ於テ、天啓ヲ仰ガザル可ラズ。左レバ知ル可キノ範圍ニ於テハ、方今人間ノ知リ及バザル所甚多シト雖モ、理學哲學ノ進歩ニ由レバ、他日必ズ人間智識版圖ニ入ルノ時運到達セズト云フ可ラズ。然レモ其知ル可ラザルノ範圍ニ至リテハ、理學如何ニ進歩スルモ、哲學如何ニ進歩スルモ、是レ豈ニ得テ知ル可キノ所ナランヤ。然ラバ則チ人間ガ顯示ヲ要スル所ノモノハ、此レ知ル可ラザルノ範圍ニ在ルノミ。苟モ知ル可キノ範圍ニアルモノハ、亦タ何ノグ顯示ヲ要センヤ。然ラバ顯示トハ何ゾヤ。人間智力ノ及バザル所ニ就ヒテ之ヲ顯示スルナリ。然ラバ顯示トハ、那處ヨリ來ルヤ。夫レ顯示ヲ信ズルモノハ、顯示ノ基本ヲ先定セザル可ラズ。此顯示ノ基本ヲ先定セズンバ、吾輩焉ノグ顯

示ヲ信ズルヲ得ンヤ。此點ニ就ヒテハ、彼ノミル氏ハ善ク説明シタリト云フ可シ。其說ニ云ク、顯示ナルモノハ、顯示ノ由リテ來ル基本ヲ先定セザル可ラズ。而シテ此基本ヲ先定スルニハ、自然ノ現象ニ由ラザル可ラズト。此ニ由リテ之ヲ觀レバ、顯示ナルモノハ自然教ヲ以テ基礎トシ、自然教ニ於テ神體ノ性質ヲ先定シ、萬有ノ目的ヲ先定シ、人間ノ命運ヲ先定シ、然ル後チ顯示ノ必要始メテ生ズ可ク、亦タ以テ顯示ノ如何ヲ判斷スルコト足ル可シ。

上來論ズル所ニ從ヘバ、宗教ハ人間自然ノ宗教心ヨリ發達シタル自然教ヲ以テ基礎トシ、顯示ヲ得テ然ル後チ始メテ完備ス可シ。然レモ人間ノ智力ハ漸次發達シ、知ル可キノ範圍ト知ル可ラザルノ範圍トノ間ニ於テ、確然タル一定不變ノ界線ヲ明ニシタルハ、殆ント十九世紀智識進步ノ一大輝光ナリト云ハザル可ラズ。左レバ古代ニ在リテ人間智識ノ未ダ開發セザルヲ、現時ニ於テ理學ノ實驗ニ照ラシ、哲學ノ推理ニ徴シ、

彰々トシテ知ル可キノ事物現象ト雖モ、之ヲ知ル能ハズシテ知ル可ラザルノ範圍ニ措クモノ。豈ニ少シトセシヤ。例ヘバ、彼ノ創世紀ハ摩西ガ神ノ顯示ニ由リテ記錄シタルモノナリ。然レモ其說ノ現時理學ニ吻合セザル。殆ント耶蘇教ヲシテ辨護ニ困マシムルモノアリ。亦タ彼ノ十誡ノ如キモ、摩西カ西奈山ノ巔ニ於テ、上帝ヨリ授リタル顯示ナリト稱スルモノナリ。然レモ十誡ニ教ヘタル道德ノ如キハ、顯示ヲ待タズトモ、社會進化ノ法理ニ由リテ世界人民ガ自ラ知ルモノナリ。故ニ斯ノ如キ顯示ハ價值アルモノニアラズ。然レモ當時ノ人民摩西ノ言フ所ヲ信シテ、神ノ顯示トシタルハ、蓋シ疑フ可ラズ。何トナレバ、則チ人民ノ智識未ダ進步セザレバナリ。

然リ而シテ摩西ノ創世紀ノ如キハ、其大體現時ノ學理ニ吻合スルモノニアラズト雖モ、所謂「ミソロジー」ノ最モ簡潔美麗ニシテ頗ル意義アルモノナリ。其十誡ノ如キモ、人間道德ノ高尚ナル真理ニアラズト雖モ、亦

十六

タ普通一般ノ循フ可キ守ル可キノ條規ナリ。サレバ此レ猶ホ古代人民ガ信シタル顯示ノ世ニ利益アルモノトセザル可ラズ。若シ夫レ未開人民ガ信ズル所ノ顯示ニ至リテハ。或ハ敵ヲ殺シテ犠牲ニ供スルモノアリ。或ハ敵ヲ攻伐スルモノアリ。或ハ天變地異ニ關シテ未來ノ事ヲ知ルモノアリ。之ヲ要スルニ天命ト稱シ。託宣ト稱シ。神言ト稱シ。ト筮ト稱シ。感應ト稱シ。祥瑞ト稱スルモノ。皆ナ顯示ノ一種タラザルハナシ。然レ凡人智開明ノ今日ニシテ斯ル怪誕ヲ信ズルモノアルヤ否ヤ。然ラハ則チ宗教心ハ人間ノ天性ナリト雖モ。此天性ヨリ發生スル自然教ニハ。自ラ真理ニ合スルモノト。合セザルモノトアリト。知ル可シ。顯示モ亦タ宗教ノ一大要素ナリト雖モ。此要素ヨリ現出スル顯示ニハ。亦タ自ラ憑信ス可キモノト。憑信ス可カラザルモノトアリト。知ラザル可ラズ。

斯ノ如ク論シ來レバ。人間智力ノ知ル可キ範圍ニ係ル顯示ハ價值アルモノニアラズ。宗教ノ所謂真正ナル顯示ナルモノハ。理學哲學ノ及バザ

ル範圍ニ係ルモノナラザル可ラズ。然リト雖モ。既ニ人力智力ノ及バザル範圍ニ係レバ。何ヲ以テ其真理ヲ明ニシ取捨ヲ決スルヲ得ンヤ。此レ最後ニ起ル可キノ問題ナリ。吾輩之ニ對ヘテ曰ク顯示ノ顯示タル。既ニ人間智力ノ及バザル所ニ係レバ。又其眞偽ヲ判斷ス可キノ標準ナキガ如シ。然レ所謂人間智力ノ及バザル所ハ。道理ニ超絶シタルモノニシテ。決シテ道理ニ反對スルモノニアラズ。蓋シ道理ニ超絶ス(without reason)トハ。通常ノ推理學術ノ智識ヲ以テ到達ス可ラザルモノナリ。道理ニ反對ス(contrary to reason)トハ。一ヲ以テ二トナシ。因ナキニ果ヲ生ズル如キ人間思想ノ法則ニ反對スルモノナリ。左レバ顯示ノ表明スル所ハ。推理智識ヲ以テ直チニ達ス可ラズト雖モ。吾輩ハ何如ニシテ人間思想ノ法則ニ反對スルモノヲ信ズルヲ得可ケンヤ。左レバ此差別ハ顯示ノ眞偽ヲ判斷スルハ。一大標準ナルヲ知ル可キナリ。

吾輩ハ既ニ此一大標準ヲ示メシ。又タ進ンデ顯示者ノ資格ヲ定ム可シ。

第二章

蓋シ釋迦ノ如キ耶蘇ノ如キハ。所謂顯示者ニシテ顯示ヲ判斷スルニハ。顯示者ノ人物何如ヲ論定セザル可ラズ。顯示者其人ニシテ果シテ巍然トシテ億兆ニ卓越シ。一言ニシテ天下ノ法ヲリ。匹夫ニシテ萬世ノ師ヲリ。其品位道德世界人類ノ模範タリ。儀表タルモノアリ。然ル後チ吾輩ハ始メテ其顯示ニ信ヲ措クニ足ル可シ。次ニ顯示者若シ自然教ヲ建設スルニ方リテ。其說ク所理學者學ノ真理ト吻合シ。或ハ理學哲學ノ新理ヲ闡明スルアラハ。吾輩又其顯示ヲ信受スルノ一大根據ヲ得ベシ。而シテ吾輩ガ顯示ヲ取捨スル最後ノ斷案ナルモノハ。其顯示ハ果シテ人類一般ノ宗教心。即チ無限ノ感情無限ノ欲望ニ適合シ。其需要ニ應ズルヤ否ヤニアリ。故ニ以上說ク所チ約說スレハ。第一道理ニ超絶スルト。道理ニ反對スルト。ハ大ナル相異アルコト。第二顯示者ノ道德。第三顯示者ガ自然教ノ真理。第四其顯示ハ須ラク人類一般ノ宗教心ニ満足ヲ與フ可キコト是也。

宗教ハ顯示ヨリ立テリ

吾輩ハ此章ヲ結了スルニ方リテ。茲ニ猶ホ一言セザル可ラズ。彼ノ耶蘇教ニ於テ。耶蘇基督カ顯示者タルヲ證明セシガ爲メニ。基督ノ行フタル奇跡。即チ例ヘバ死チ起シ。病ヲ醫シ。鬼ヲ驅リ。海ヲ歩シ。波ヲ靜メ。水ヲ變シテ酒トナシ。五個ノ蒸餅ヲ以テ五千人ニ分配シ。亦チ自ラ死ヨリ蘇シ。天ニ昇ルガ如キヲ以テセントスルハ。頗ル直截明白ニ似タリト雖モ。此奇跡ハ人間目前ノ道理ニ反對スルモノナレバ。吾輩ガ定メタル顯示判斷法ニ由レバ。如此奇跡ハ真正ナル顯示ノ證明スルヨリモ。却ツテ寧ロ其反對ヲ見ハスモノナリ。

第三章 宗教ノ進化

吾輩人間ハ果シテ宇宙進化ノ一大劇場ニ地位ヲ占メタルモノナリトセシ歟。人間種族モ亦チ進化ノ大法ニ支配セラル、ハ。固ヨリ論ヲ待タズ。即チ人間相互ノ關係ヨリ生ズル社會ハ。愈々完備シテ人類發達ノ境遇タル可キ目的ニ應セントシ。其政治法律ノ如キハ。愈々社員ノ權理ト

自由トナ保護セントシ。其道德習慣ノ如キハ、愈々公衆ノ福祉ヲ達セン
トシ。其言語文學ノ如キハ、愈々精緻富瞻美麗ノ點ニ達シ。思想ヲ發表ス
ルニ敏妙ナル機關トナラントス。次ギニ人間ト自然トノ關係ヨリ生ズ
ル智識學問ニ至リテモ、亦タ漸次發達シ。其視察愈々多ク其概括愈々博
キニ從ツテ、萬有ノ性質ヤ、關係ヤ、秩序ヤ、法則ヲ知ル。益々眞理ニ近キモ
ノアリ。左レバ獨リ宗教ニシテ進化セザルノ理アル可ラズ。試ニ看ヨ、彼
ノ埃及人ガ數千年ナイル河畔ニ於テ、猫ノ如キ、鱈魚ノ如キ、動物ヲ崇拜
セシヨリ、全智全能ノ獨一眞神ヲ崇拜スルニ至ル迄、舊約ノ我ハ嫉妬ハ
神ナリト自稱スル耶和華ヨリ、新約ノ神ハ則チ愛ナリト云ヘル在天ノ
父ニ至ル迄、太古原人ノ祖先教ヨリ、倫敦ノ哲學家ガ不可思議神ニ至ル
迄、宗教界ニ生ジタル現象ハ、何如ゾヤ。其進化ノ距離ハ、何如ゾヤ。
吾輩ハ既ニ人間固有ノ宗教心ヨリ生ジタルモノヲ以テ自然教トシ。人
間ニ超絶シタル能力ヨリ生ジタルモノヲ以テ顯示教トナシ。而シテ其

實際ニ至リテハ、何如ナル宗教ニアレ。此二大要素ヲ包含セザルハナク、
亦タ此二大要素ヲ包含セザルモノハ、以テ宗教トナス可ラザル所以チ
證明シタリ。然ルニ今ヤ自然教ノ點ヨリシテ天下各宗教ヲ觀察スルニ、
其大體教理ノ異ナル所ハ、所謂多神教 (Polytheism) 一神教 (Monotheism) 凡
神教 (Pantheism) ノ三大教理ニ外ナラザル如シ。即チ天下各宗教ハ此三大
教ノ分類ヲ出デザルモノニシテ、此三教ノ中孰レニカ屬セザルヲ得ザ
ル可シ。此ヲ要スルニ、宗教ハ神ト人間トノ關係ヲ説クモノナリ。此點ニ
於テハ、萬教歸一ナル可シ。然レモ其神ノ性質ヲ説クニ至リテハ、大ニ異
ナリ。此レ多神教一神教凡神教ノ由リテ分ル、所以ナリ。
抑モ多神教トハ、種々許多ノ神ヲ崇拜スルモノニシテ、我邦ノ八百萬神
ニ於ケル。支那ノ天地山川ニ於ケル。埃及ノ拜物教ニ於ケル。希臘ノ「ミソ
ロギー」ニ於ケル。其他古代社會ノ宗教ハ、大抵多神教ノ一種ナラザルハ
ナシ。蓋シ多神教ニモ亦タ大ニ進化ノ見ル可キモノアリ。其始メハ單純

ナル拜物教ニ起リ。凡ソ人間ヲ圍繞スル。日月星辰。山川河海。風雨雷電。草木禽獸ノ耳得テ聞ク可ク目得テ見ル可キモノヲ崇拜スルニ過ギズ。然レモ人間ノ思想漸ク發達スルニ及ンテハ。勢力ノ如キ。智慧ノ如キ。慈愛ノ如キ。美妙ノ如キ。善惡ノ如キ。禍福ノ如キ。無形ノ思想ニ至ル迄。亦々之ヲ主宰スルノ神アリト想像シ。其數次第ニ増加スレバ。所謂八百萬神ノ夥キニ達ス可シ。彼ノ希臘人ノ如キハ。其天性想像ニ富ミ。美術ニ長ズルヲ以テ。或ハ之レヲ繪畫ニ見ハシ。或ハ之レヲ彫刻ニ見ハシ。或ハ詩歌ヲ以テ其性徳ヲ形容スルガ如キ。美術上文學上ヨリシテ觀ルルキハ。大ニ稱嘆セザルヲ得ズト雖モ。若シ哲學上ヨリ觀ルルキハ。印度ニ於テ波羅門教カ創造。保持。毀滅ノ三大主宰ヲ立テ。波斯ニ於テゾロアストル教カ善惡二神ヲ立ルガ如キハ。遠ク希臘ノ上ニ凌駕スルモノアリ。此レ蓋シ多神教ノ進化ナル可シ。然レモ要スルニ多神教タルヲ免レザルナリ。方今世界ニ奉信セラル。耶穌教。回教。如キハ。所謂一神教ニシテ。其

第三章

宗 教 の 進 化

教理ノ歸スル所ハ。獨一眞神アリ。時間ヲ以テ之ヲ論ズレバ。無始無終ナリ。空間ヲ以テ之ヲ論ズレバ。無限無量ナリ。神其全能ヲ以テ宇宙萬有ニ對スレバ。創造者トナリ。其全智ヲ以テ宇宙萬有ニ對スレバ。攝理者トナリ。其全善ヲ以テ宇宙萬有ニ對スレバ。愛護者トナル。故ニ一神教ハ神ヲ以テ宇宙萬有ノ源因トスルモ。宇宙萬有ノ本體ヲ以テ神トスルモノニアラズ。此其宇宙萬有ノ上ニ神體ヲ立ル能ハズシテ。宇宙萬有ノ外ニ神體ヲ立テザルヲ得ザル所以ナリ。然レモ多神教ニ比較スレバ。其思想頗ル進化シテ眞理ニ近キ。敢テ同日ノ論ニアラザルベシ。抑モ東洋ニ於テハ。佛敎。西洋ニ於テハ。哲學諸家ノ説述スル所ハ。大抵凡神敎ニアラザルハナシ。蓋シ凡神敎ニ於テ神ノ性質ヲ論ズル。無始無終ト云ヒ。無限無量ト云ヒ。或ハ一神敎ノ説ク所ト大ニ相異ナルヲナシ。其萬有進化ノ現象ニ就ヒテ論ズルルキハ。至善。至美。至眞ヲ以テ神ノ目的トスルモ。亦タ或ハ一神敎ノ説ク所ト大ニ相異ナルヲナシ。只神體ヲ宇宙萬有ノ外ニ立ツ

第三章

レハ神ト萬有ト隔離シテ一神教トナリ。神體ヲ宇宙萬有ノ上ニ立ツレバ。神ト萬有ト一致シテ凡神教トナル。此レ二教ノ大ニ異ナル所以ナリ。抑モ右ノ三大教理皆ナ人間自然ノ自然ヨリ現出シタルモノニシテ其智力ノ程度ヲ異ニスルハ。此三大教理ヲ現出シタルノ原因ナリト云フ可シ。故ニ此三大教理ハ宗教進化ノ三大階級ニシテ社會文明ノ進歩ヲ區別スルニモ亦タ多神教ノ時代一神教ノ時代凡神教ノ時代ヲ以テセザル可ラズ。蓋シ多神教ナルモノハ太古人民ガ智識未ダ開ケズ推理未ダ進マズ。只想像ヲ以テ萬有ノ現象ヲ解釋セント欲スルヨリ胚胎シタルモノナリ。スペンセル氏曰ク。太古原人ハ法則ノ如キ秩序ノ如キ原因ノ如キ觀念ヲ有セズ。又タ自然ト非自然ト出來シ可キト。出來シ可ラザルトトチ判然區別スル能ハズト。左レハ物理學上ノ智識ノ如キハ。毫モ未ダ發達セズト知ル可シ。此時ニ方リテ萬有現象ノ運動變化スルハ。必ズ人間ノ如キ靈氣アリ意欲アルモノアリテ之レヲ主宰スルナラン

宗教ノ進化

ト想像スルハ自然ノ勢ナリ。此ニ於テ炎々トシテ焚レバ。則チ火ノ神アリ。浩浩トシテ流レバ。則チ水ノ神アリ。轟然トシテ鳴レバ。則チ雷ノ神アリ。沛然トシテ下レバ。則チ雨ノ神アリ。光輝粲然トシテ世界ヲ照セバ。則チ太陽ノ神アリ。亦タ一步ヲ進メテ無形的ノ現象ニ至レバ。美麗ニハウエニユスアリ。雄辨ニハメルキユリアリ。智慧ニハミテルブアリ。觀音ノ如キハ智慧ヲ表シ。不動ノ如キハ勇氣ヲ表ス。故ニ古代ニ在リテハ多神教モ亦タ大ニ人民智力ノ度ニ適シ。自然教ノ基礎ヲナセリ。然レ凡人間社會ノ朦朧タル妄想漸ク去リテ。智識ノ旭光僅ニ破レ。人々推理ヲ尙ンデ想像ヲ信セズ。宇宙萬有ノ運動變化ハ悉ク秩序アリテ一定不變ノ法則ニ支配セラル。チ發明スルニ至レバ。多神教ハ漸ク其勢力ヲ失フ可シ。故ニ人智ノ進歩ニ從ツテ。多神教ノ信仰ヲ失フ所以ヲ約言スレバ。第一其宇宙萬有ノ運動變化ヲ以テ人間ノ如ク靈氣アリ意欲アルモノハ所作ニ歸スルハ一定不變ナル物理ノ法則ニ反對シ。第二世界ニ無數ノ

神ア、リ、ト、ス、ル、ハ、宇、宙、萬、有、ノ、目、的、一、致、ス、ル、ノ、思、想、ニ、反、對、シ、第、三、世、界、ニ、無、數、ノ、神、ア、リ、ト、ス、ル、ハ、第、一、源、因、ト、云、ヘ、ル、思、想、未、ダ、生、セ、ザ、ル、モ、ノ、ナ、リ、何、ト、ナ、レ、ハ、第、一、源、因、ハ、統、一、ナ、ル、可、ク、シ、テ、複、雜、ナ、ル、可、ラ、ズ、第、四、既、ニ、無、數、ノ、神、ア、レ、ハ、其、性、質、能、力、必、ズ、有、限、ニ、シ、テ、無、限、ナ、ル、ヲ、得、ズ、相、對、ニ、シ、テ、絶、對、ナ、ル、ヲ、得、ズ、此、亦、以、テ、人、間、ガ、限、リ、ナ、ク、依、賴、ス、ル、ノ、感、情、ヲ、滿、足、セ、シ、ム、ル、ニ、足、ラ、ズ、之、ヲ、要、ス、ル、ニ、智、力、ノ、點、ヨ、リ、シ、テ、云、フ、モ、感、情、ノ、點、ヨ、リ、シ、テ、云、フ、モ、多、神、教、ハ、遂、ニ、一、神、教、ニ、其、地、位、ヲ、讓、ラ、ザ、ル、ヲ、得、ザ、ル、ナ、リ、故、ニ、多、神、教、倒、レ、テ、一、神、教、起、ル、ハ、宗、教、界、ノ、一、大、進、化、ナ、リ、蓋、シ、一、神、教、ニ、於、テ、神、ノ、性、質、ヲ、論、ズ、ル、絶、對、無、限、悠、久、不、變、ヲ、以、テ、其、理、性、ト、ス、ル、ヲ、以、テ、神、ハ、天、地、ニ、先、テ、自、ラ、有、リ、天、地、ニ、後、レ、テ、獨、リ、存、シ、現、ハ、レ、ザ、ル、所、ナ、ク、在、ラ、ザ、ル、所、ナ、シ、又、全、能、全、智、至、善、至、美、ヲ、以、テ、其、德、性、ト、ス、ル、ヲ、以、テ、神、ノ、宇、宙、ヲ、創、造、ス、ル、其、目、的、ハ、自、己、ノ、榮、光、ヲ、顯、ハ、シ、人、間、ノ、福、祉、ヲ、圖、リ、萬、物、ヲ、攝、理、シ、テ、其、意、ニ、從、ハ、シ、メ、善、ヲ、賞、シ、惡、ヲ、罰、セ、ザ、ル、ハ、ナ、シ、蓋、シ、一、神、教、ハ、

自然教ノ頗ル發達シテ高等ニ進ミタルモノナルヲ以テ智力ニモ感情ニモ満足ヲ與フルハ決シテ復タ多神教ノ比ニアラズ。理哲二學ト雖モ其未ダ大ニ進歩セザルノ時ニ在リテハ。嘗ニ一神教ト反對ノ點ヲ見ハサド。ルノミナラズ。或ハ却テ之レヲ説明スルノ具タルニ過ギザルモノアリ。然レモ理學哲學大ニ進歩シテ。現時ノ如ク愈々博大精緻ナルニ從ツテハ。一神教モ亦タ其勢力ヲ失ハザルヲ得ズ。何トナレバ一神教ハ神ト萬有トヲ隔離シテ別物トスルヲ以テ。神ハ宇宙萬有ノ創造者タラザルヲ得ズ。且ツ一神論者ノ世界創造ヲ說クヤ。有機無機動植人獸其他一切ノ物皆ナ神ノ特造ニ係リテ本來差別アルモノトセリ。然レモ此說ハ近世進化說ノ論ズル所ト反對スルヲ以テ。遂ニ維持ス可ラズ。次ニ一神論者ハ。宇宙萬有ノ運動變化ヲ以テ神ノ攝理ニ歸スト。雖モ宇宙萬有ハ其勢力保存ノ理ニ由リテ一定不變ノ法則アルヲ恰モ猶ホ時辰表ガ精巧ナル機關ノ裝置ニ依リ。一度彈力ヲ與フレバ一定ノ規則ニ從ツテ自ラ

運○行○復○々○時○々○刻○々○他○力○ノ○干○涉○ヲ○待○タ○ザ○ル○ト○一○般○ナ○ル○モ○ノ○ア○ラ○ン○次
 ニ○一○神○論○者○ハ○神○ヲ○以○テ○宇○宙○萬○有○ノ○創○造○者○ト○ナ○ス○ト○雖○モ○本○來○物○質○ハ○不
 滅○ノ○性○ヲ○具○フ○ル○モ○ノ○ナ○リ○。○然○ル○ニ○人○間○思○想○ノ○理○法○ニ○從○ヘ○ハ○無○ヨ○リ○有○ヲ
 生○シ○。○因○ナ○ク○シ○テ○果○ヲ○作○ル○能○ハ○ズ○。○左○ラ○ハ○物○質○ハ○那○點○ヨ○リ○現○出○不○ル○カ○。○一○神
 論○者○必○ズ○曰○ク○。○神○ニ○全○能○力○ア○リ○。○既○ニ○全○能○力○ア○レ○ハ○無○ヨ○リ○有○ヲ○生○ズ○可
 シ○。○因○ナ○ク○シ○テ○果○ヲ○モ○作○ル○可○シ○ト○。○果○シ○テ○然○ラ○ハ○神○ニ○全○能○力○ア○ル○ハ○何○ニ
 由○リ○テ○カ○之○レ○ヲ○知○ル○可○キ○ヤ○。
 故○ニ○現○時○理○學○ノ○進○步○ハ○一○神○教○ノ○外○郭○ヲ○奪○フ○テ○其○本○城○ニ○逼○ル○ノ○形○勢○ア
 リ○。○然○レ○モ○一○神○教○ノ○本○城○ヲ○攻○メ○崩○シ○テ○。○凡○神○教○ノ○勝○旗○ヲ○建○ツ○ル○モ○ノ○ハ○哲
 學○ノ○論○理○ニ○由○ラ○ザ○レ○ハ○能○ハ○ズ○。○抑○モ○一○神○論○者○ガ○絶○對○無○限○ヲ○以○テ○神○ノ○理
 性○ト○ス○ル○ハ○大○ニ○宜○シ○ト○雖○モ○。○試○ミ○ニ○問○ハ○ン○。○絶○對○ナ○ル○モ○ノ○ハ○何○ヲ○以○テ○絶
 對○ナ○ル○カ○。○無○限○ナ○ル○モ○ノ○ハ○何○ヲ○以○テ○無○限○ナ○ル○カ○。○必○ズ○萬○有○即○神○ナ○レ○ハ○ナ
 リ○。○神○即○萬○有○實○在○ノ○本○體○ナ○レ○ハ○ナ○リ○。○若○シ○神○ハ○萬○有○ノ○外○ニ○ア○リ○。○萬○有○ハ○神

ノ○外○ニ○ア○リ○ト○云○ハ○。○此○レ○二○物○並○立○シ○テ○互○ニ○相○對○ナ○ル○ヲ○以○テ○絶○對○ニ○ア
 ラ○ザ○ル○ナ○リ○。○二○物○隔○離○シ○テ○互○ニ○有○限○ナ○ル○ヲ○以○テ○無○限○ニ○ア○ラ○ザ○ル○ナ○リ○。○然
 レ○モ○吾○輩○ハ○直○チ○ニ○此○點○ヨ○リ○窮○追○セ○ズ○。○更○ニ○問○鋒○ヲ○轉○シ○テ○曰○ク○。○宗○教○ニ○自
 然○教○ト○顯○示○教○ノ○二○大○要○素○ヲ○合○蓄○ス○ル○ハ○。○吾○輩○ガ○既○ニ○說○明○ス○ル○所○ナ○リ○。○左
 ラ○ハ○一○神○教○凡○神○教○ノ○真○理○ヲ○論○ズ○ル○モ○ノ○ハ○。○自○然○教○ノ○範○圍○ナ○リ○。○然○ル○ニ○自
 然○教○ノ○點○ヨ○リ○シ○テ○論○ズ○レ○ハ○。○一○神○教○ニ○於○テ○神○ア○リ○ト○ス○ル○モ○。○凡○神○教○ニ○於
 テ○神○ア○リ○ト○ス○ル○モ○。○皆○十○人○間○ノ○智○力○ニ○ヨ○リ○テ○斷○定○シ○タル○モ○ノ○ニ○外○ナ○ラ
 ズ○。○而○シ○テ○神○キ○絶○對○無○限○ノ○理○性○ヲ○斷○定○ス○ル○モ○。○亦○タ○人○間○智○力○ノ○結○果
 ナ○リ○ト○ス○ル○ハ○。○此○レ○人○間○ハ○絶○對○無○限○ノ○存○在○ヲ○認○識○ス○ル○モ○ノ○ナ○リ○。○夫○レ
 既○ニ○人○間○ニ○シ○テ○絶○對○無○限○ノ○存○在○ヲ○認○識○ス○ル○ハ○。○人○間○ハ○少○ク○ト○モ○其○理
 性○ニ○於○テ○絶○對○無○限○ノ○一○部○分○ヲ○得○ベ○シ○。○此○レ○論○法○ニ○於○テ○抗○ス○可○ラ
 ザ○ル○ノ○真○理○タ○リ○。

故ニ神性ヨリシテ論ズルモ。人性ヨリ論ズルモ。一神教ハ進ンデ凡神教

第三章

トナラザレバ其論理ヲ完成スル能ハズ然レモ以上二個ノ論理ハ猶ホ未ダ一神教ノ不完理ヲ明ニシテ凡神教ノ完理ヲ示スニ足ラザルベシ。乞フ更ニ論點ヲ改メテ之レヲ説明セントス。抑モ一神論者ハ神ヲ以テ宇宙萬有ノ第一原因トスルモノナリ。夫レ既ニ第一原因ト云ヘバ其獨立ニシテ無始ナル可キハ固ヨリ論ヲ待タズ。然レモ宇宙萬有ハ此第一原因ノ結果タルニ相違ナシ。即チ神ハ原因ナリ。萬有ハ結果ナリ。然ルニ凡ソ原因ト結果ト間ニハ必然必須ノ關係アルコトハ一定不變ノ道理ト云フ可シ。蓋シアリストツルハ原因ノ種類ヲ分拆シテ。元質原因 (Material Cause)。形樣原因 (Formal Cause)。動作原因 (Efficient Cause)。結局原因 (Final Cause)。ノ四種トセリ。今マ此ニ一大建築ヲ爲スト假定センニ。材木ノ如キ切石ノ如キ煉瓦ノ如キ丹墾ノ如キ其他建築ニ供スル種々材料ハ所謂元質原因ナリ。然ルニ建築セント欲スルノ人既ニ此等材料ヲ蒐集スレバ。必ズ宏壯雄偉ナル「ゴツチ」體ニ築クトスルモ。或ハ齊均美妙ナル

宗教ノ進化

「ゴツチ」體ニ築クトスルモ孰レカ形樣即チ觀念ヲ豫定シテ材料ヲ用ヒザル可ラズ。此レ所謂形樣原因ナリ。材料既ニ集リ屋體既ニ定レバ工匠ハ奔走經營シテ運動ヲ作サザル可ラズ。故ニ工匠ハ所謂動作原因ナリ。然ルニ此建築ヲ起スノ目的トスル所ハ必ズ住居ノ利樂ニ外ナラズ。左レバ材料モ屋體モ工匠モ共ニ此目的ヲ達セントスルノ方便タル可シ。此レ所謂結局原因ナリ。然リ而シテ彼ノ一神論者ハ神ハ萬有ヲ創造シ攝理スルヲ説クト雖モ神ヲ以テ萬有ノ實在ト即一ナリトセズ。此レ神ハ形樣原因タルコトヲ認メテ元質原因タルコトヲ認メザルニアラズ。然レモ彼レ既ニ神ヲ以テ獨立ニシテ無始ナル第一原因トスルハ元質原因モ亦チ神外ニアリトス可ラズ。此レウヰルリアムハミルトン氏等モ唱説スル所ナリ。然ルニ一神論者ハ此際ニ方リ逆詞ヲ設ケテ曰ク神ハ萬有ノ第一原因タルモ神即萬有タラズ。何トナレバ神ハ全能ノ力ヲ有スルヲ以テ無ヨリ有ヲ生シ。因ナクシテ果ヲ生ズルモ自由タル可

第三章

シ左レハ神ハ萬有ヲ創造スレドモ亦タ萬有ト異ナルヲ得ベシト然レ
 此全能ナルモノハ神ノ附性 (Attribute) ナリ凡ソ附性ナルモノハ
 萬有ニ顯ハル、事實ヲ以テ基本トセザル可ラズ然ルニ物理的ノ顯象
 ハ因果一定ノ大法ニ從ツテ萬古不紊レズ只心理的ノ顯象ハ古來意志ノ
 自由ト稱スル一說アリト雖モ此レ亦タ近世學理ノ進步ニ從ヒ漸ク一
 變シテ因果一定ノ說トナラントス而シテ思想ノ法則ハ決シテ無因ノ
 說ヲ許サレバ神ニ全能ノ附性ヲ歸ス可キ事實アルヲナシ若シ神ハ
 宇宙萬有ノ第一原因ナリ故ニ全能ナリト云ハバ此レ第一原因ヲ以テ
 全能ヲ證明シ亦タ全能ヲ以テ第一原因ヲ證明セント欲スルモノニシ
 テ其極タル途ニ無數ノ循環論理ヲ生スルニ至ル之ヲ要スルニ神ヲ以
 テ宇宙萬有ノ第一原因トスルノ說ハ彼ノアリストツルガ四種ノ原因
 ナハ悉ク包括セザル可ラズ而シテ其歸結スル所ヲ推スニ萬有ハ神ノ
 一部分ナルノ一大真理ヲ證明スルニ外ナラズ何トナレバ第一原因ハ

宗教ノ進化

獨リ形樣源因結局源因タル而已ナラズ亦タ元質源因動作源因タラザ
 ル可ラザルナリ
 之ヲ要スルニ神ニシテ存在セバ其存在 (Existence) ハ絶対無限ナラザル
 可ラズ然レハ絶対無限ノ存在ハ其實萬有ト即一ナリ然ルニ一神論者
 或ハ言フ神ヲ指シテ絶対無限トスルハ特ニ其智慧能力目的ノ絶対無
 限ナルヲ歎稱スルモノナリ然ラハ神ハ其無限ノ智慧無限ノ能力無限
 ノ目的ヲ以テ萬有ヲ創造シ萬有ヲ攝理シ萬有ヲ結局スト雖モ猶ホ萬
 有ト異ナルヲ得ルニアラズヤト特ニ知ラズ智慧ノ如キ能力ノ如キ
 目的ノ如キハ神ノ存在ノ表現シタルモノニ過ギズシテ所謂附性ノミ
 若シ先ツ神ノ存在即チ本質ナルモノアラズンバ智慧焉クヨリ發シ能
 カ焉クヨリ發シ目的焉クヨリ發センヤ故ニ正當ナル論理ノ順序ヲ以
 テ之ヲ論ズレバ神ノ存在ハ此等ノ附性ニ先チテ既ニ備ハルモノナリ
 トセザル可ラズ而シテ神ノ存在既ニ絶対ナリ無限ナリ宇宙萬有亦タ

豈ニ絶對無限ノ現象ヲザルヲ得ンヤ。然リ而シテ第一原因ノ點ヨリシテ立論スルモ、神ヲ以テ獨リ宇宙萬有結局原因ナリトセズ、亦タ必ズ元質原因ナリトセザル可ラザルハ、益々以テ一神教ノ不完美ヲ明ニシテ、凡神教ノ完美ヲ示スニ足ル可シ。故ニ多神教ノ論理ニ一步ヲ進ムレバ、其勢一神教ヲザルヲ得ズ。一神教ノ論理ニ又一步ヲ進ムレバ、其勢凡神教ヲザルヲ得ズ。之ヲ譬フレバ、一神教ハ凡神教ノ黄金ヲ以テ作りタル牡丹唐獅子ノ如シ、其牡丹タリ唐獅子タルノ形狀ヲ以テ之ヲ觀ルキハ、黄金ニアラザルガ如シト雖モ、之ヲ鎔盪スレバ、乍々其元質ノ黄金タルヲ見ハス可シ。而シテ一神教ハ形狀ハ則チ凡神教ノ元質ヨリ陶鑄シタルモノナリ。

然ラバ吾輩ハ進ンデ少シシ凡神教ノ真理ヲ開示セザル可ラズ。凡神教ニ於テ論定スル神ノ性質ハ何如ナルモノナルカ。蓋シ凡神教ニ於テハ絶對無限ノ存在アルヲ信ズ。宇宙萬有ハ此絶對無限ノ現象ナルヲ信ズ。

而シテ絶對無限ハ固ヨリ無始無終。不生不滅ノ本體タルヲ信ズ。此レ無形上ノ論理(Ontological Reason)ヨリシテ神ノ理性ヲ立テタルモノナリ。左レハ無形上ノ論理ニノミ據ルキハ、神ハ只絶對無限ノ存在ニシテ萬有現象ノ本體タルヲ斷定スルニ止リテ、其他ノ性質ハ得テ知ル可ラズ。故ニ又タ有形上ノ論理(Cosmological Reason)ヲ以テ之ヲ論ぜザル可ラズ。夫レ神既ニ宇宙ノ本體タレバ、萬有現象ハ皆チ神ノ表現タルハ言チ待タザル可シ。然リ而シテ神ノ表現タル萬有ハ、物質、勢力、運動ノ三大現象トナリテ茲ニ現ハレ。此三大現象進化スレバ自然生活思想ノ三大階級トナル。而シテ進化ノ目的トスル所ハ、至善、至美、至真ニ外ナラズ。蓋シ此目的ヲ認識シテ其理想トスルモノハ、世界ニ於テ獨リ人間ニ止マルガ如シト雖モ、其實萬有進化ノ最終結局ニシテ、吾輩ハ亦タ之ヲ以テ絶對無限ノ目的トセザルヲ得ズ。抑モ絶對無限ノ存在ナルモノハ不可思議ノ天國ニシテ之ニ歸スルニ何等ノ附性ヲモ以テス可ラザルガ如シト雖モ、

第三章

絕對無限ノ存在。既ニ萬有ノ本體アレバ。其現象ニ就ヒテ本體ノ目的ヲ知ルハ決シテ論理ニ戻ルモノニアラズ。而シテ萬有進化ニ於テ既ニ其目的ヲ發明スレバ從ツテ亦タ無限心意 (Infinite Intelligence) ナ推考セザル可ラズ。既ニ無限心意ヲ推考スレバ。進ンデ又タ普通意志 (Universal Will) ナ論定スルモ敢テ不可ナリトセズ。左レバ萬有ハ進化シテ其最上目的ニ達セザル可ラズ。此進化ニ反對スルモノハ自然淘汰ノ理ニ從ツテ滅亡セザル可ラズ。人間ハ進化ノ最高階級ニ地位ヲ占ムルヲ以テ進化ノ目的ヲ認識スルノ榮光アリ。故ニ又タ之ヲ實行スルヲ以テ其義務トセザル可ラズ。抑モ又タ萬有現象ハ絕對無限ノ表現ナルヲ以テ。其進化ハ那點ニ達ス可キヤ。那點ヲ以テ極度トス可キヤ。此レ智力ノ及バザル所ナリ。然レモ感情ニ至リテハ。智力ノ及バザルヲ以テ満足スル能ハズ。於是乎。顯示教ヲ渴望スルニ至ル。

上來述ブル所ハ。多神教一神教凡神教ノ大綱ヲ示スニ外ナラズト雖モ。

宗教ノ進化

此大綱既ニ同ラザレバ。從ツテ亦タ理想。道德。信仰ノ異ナルアルハ固ヨリ論ヲ待タズ。然レモ多神教ノ最モ進歩シタルモノハ。其理想。道德。或ハ一神教ト異ナラザル可シ。又タ一神教ノ最モ進歩シタルモノハ。其理想。道德亦タ或ハ凡神教ト異ナラザル可シ。故ニ實際ノ點ヨリシテ言フモ。彼ヲ存スルモ可ナリ。此ヲ立ルモ亦タ可ナリ。一ヲ廢シテ一ヲ立ルモ更ニ差別ヲ見ザルガ如シト雖モ。人間ハ真理ニアラザレバ満足スル能ハズ。宗教ノ壯麗偉觀ナル一大殿堂ハ。獨リ信仰ニヨリテ其基礎ヲ支フルモノナリ。故ニ信仰ノ基礎一タビ動搖スルモ。其儀式ハ徒ラニ虚儀タルニ過ギズシテ。漸ク將サニ社會人心ヲ維持スル能ハザラントス。其道德ノ如キモ。蓄積積習ノ致ス所ヲ以テ。或ハ猶ホ生氣ヲ含ムガ如シト雖モ。彼既ニ水ニ渴シタルノ插花ナリ。焉ゾ久ク新鮮艶媚ノ色香ヲ呈セシヤ。今ヤ耶蘇教ノ歐米各國ニ於ケル。殆ンド此ニ類スルモノアラザル歟。蓋シ方今。文明世界。思想發達ノ度ハ。一神教ノ時代既ニ去リテ。凡神教

第

三

章

ハ時代將カニ來ル而シテ彼ノ耶蘇教ナルモノ猶ホ主義ヲ固執シテ時
ト共ニ進化スルヲ知ラズ此其物質的ノ文明進步スルニ比例シテ精神
的ノ文明未ダ進マズ智力的ノ文明進步スルニ比例シテ道德的ノ文明
未ダ進マザルハ一大原因ナリト云ハザル可ラズ
凡ソ人間思想ノ發達スル從來確信スル所ノモノモ必ズ之ヲ疑フニ至
ル既ニ一タビ疑ヲ生ズレバ信仰必ズ薄弱ス信仰既ニ薄弱ナレバ道德
必ズ衰頽ス故ニ既ニ薄弱シタルノ信仰ハ恰モ猶ホ死體ノ如ク又々之
ヲ喚起活動セシム可ラズ左レバ我邦ニ於テ近日道德ノ衰頽スルヲ憂
ヘテ種々挽回スルノ術ヲ講ズルモノアリト雖モ思想發達ノ度ニ適ス
ルノ信仰ヲ與ヘズンハ遂ニ實効ヲ奏スル能ハザル可シ左レバ耶蘇教
ヲ輸入シテ之ヲ救フ可キ乎曰ク耶蘇教ハ既ニ文明世界思想發達ノ度
ニ適スル能ハズ殆ンド既ニ信仰薄弱ナルノ現象ヲ生ジタリ然ラバ則
チ此信仰薄弱ナルノ耶蘇教ヲ以テ其儘日本ニ輸入シタリトモ日本國

宗 教 ノ 進 化

民ノ道德ヲ救フ可キ乎故ニ吾輩ハ日本ノ道德ヲ挽回スルノ術ヲ講ゼ
ント欲セバ先ヅ第十九世紀文明世界ノ信仰ヲ一變シテ大活動力ヲ新
生スルノ大業ニ當ラザル可ラズ
抑モ吾輩ガ自然教ノ進化ヲ以テ多神教一神教凡神教ノ三大階級トナ
シタルモノハ人間思想發達ノ順序ニヨルヲ以テ之レヲ一國ノ上ニ適
用シテ何ノ頃ヨリ何ノ頃迄ハ多神教ノ時代ナリ何ノ頃ヨリ何ノ頃迄
ハ一神教ノ時代ナリト判然界線ヲ畫スル能ハズト雖モ同國同時ノ人
物ニシテモ其思想ノ發達スルト發達セザルトニ由リテ自ラ判ル、所
ナキニアラズ然ルニ吾輩若シ現世紀歐米ノ文明ヲ以テ自然進化ハ一
大現象ナリトスルキハ羅馬帝國覆滅ノ後ニ方リテ耶蘇教ガ歐洲大陸
ヲ一統セザル以前ヲ以テ多神教ノ時代トセザルヲ得ズ又學問中興以
來、理哲二學大ニ其旭光ヲ放チテ暗世ノ長夜ヲ破リ自由思想茲ニ發達
スルヲ以テ凡神教ノ時代始メテ開キタリトセザル可ラズ而シテ此三

第三章

大教が各其時代ノ社會ニ政治ニ技術ニ文明ニ影響ヲ及ボシ交互ノ關係ヲ有スルニ至リテハ實ニ歴史家が講究セザル可ラザルハ一大事實タリ。蓋シ多神教ハ無心ノ造化ニ歸スルニ有心ノ性質ヲ以テシ又ク人間無形ノ思想ニ歸スルニ有形ノ體狀ヲ以テスルヲ以テ大ニ想像ヲ養成シ美術ヲ進歩スルノ功績アリ。即チ印度波斯巴比倫埃及ノ古代各國ハ美術ヲ以テ後世ニ誇ルニ足ルモノアリ。而シテ希臘ノ如キハ最モ其極致ニ達セルモノトセザル可ラズ。次ニ多神教ハ各國人民其崇奉スル所ノ國神ナルモノアリテ其國ノ榮光武震ヲ耀揚スルヲ以テ其目的トセザルハナシ。故ニ君主人民ハ其國神ノ歡心ヲ買ヒ保護ヲ仰ガンガ爲メニ他國ヲ制服シ自國ヲ強盛ナラシムルニ汲々タラザルハナシ。此點ヨリシテ言フキハ多神教ハ愛國心ヲ養成スルノ利益アリ。彼ノ舊約聖書ノ所謂萬軍ノ耶和華ノ如キモ其實此國神ノ一種タルニ過ギズ。然レモ多神教ハ亦タ半神半人ノ教ナルヲ以テ古代各國ノ君主ハ往々自ラ

宗教ノ進歩

神ト稱シ無限抑壓ノ政ヲ施シ以テ人民ヲ制馭スルノ術ヲ逞フスルニ至ル。彼ノ巴比倫王チブカドチザルガ高大ナル金像ヲ鑄リ人民ヲ率ヒテ之ヲ崇拜セシメタルガ如キハ。昭明較著ナル適例ト云ハザル可ラズ。然ルニ進ンデ一神教ノ時代ニ至レバ始メテ人間平等ノ理ヲ唱フルモ猶ホ君主ノ權ヲ以テ神權トシ其戰爭ノ如キハ漸シ攻撃的ノ性質ヲ一變シテ防禦的ノ性質トスルノ傾向アリト雖モ猶ホ基督教國ノ名義ヲ立テ、異邦國民ヲ敵視スルノ態ヲ免レズ。其道徳法律ノ如キハ人爲ヲ棄テ、天爲ニ就ク可キヲ主張スト雖モ智識思想ノ發達ハ力ヲ極メテ之レヲ挫折セント企テタリ。

然リ而シテ思想自由既ニ發達シ。理哲二學既ニ進歩スレバ社會人心ハ恰モ歡天喜地凱歌ヲ唱ヘテ凡神教ヲ迎ヘント欲スルモノ、如シ何トナレバ理哲二學ニアラザレバ。凡神教ノ眞理ヲ顯ハス能ハズ。凡神教ニアラザレバ。理哲二學ノ終局ヲ結ブ能ハズ。而シテ哲學ニシテ進歩スレ

ハ思想自由ノ萌芽茲ニ發シ。理學ニシテ進步スレハ。生産實業ノ旭日茲ニ昇ル。而シテ思想自由ノ人心ニ於ケル。生産實業ノ社會ニ於ケル。其勢誠ニ世界文明ノ全局ナ一變スルニ足ルモノアリ。蓋シ歐洲學問中興以來ハ思想自由ノ發達。理哲二學ノ進步。互ニ相密着シ。互ニ相聯結シ。主トナリ伴トナリ。先鋒トナリ後殿トナリ。駁々乎トシテ世界ノ大勢ヲ驅リテ。此點ニ赴カシメ。佛國革命ニ至リテハ方サニ滔天翻海ノ一大波瀾ナルヲ見ル。故ニ佛國革命ハ最モ概括ナル觀察ヲ以テ見解ヲ下スキハ。之レヲ政治上ノ革命ナリト云ハ。ソヨリモ。寧ロ宗教上ノ革命ナリト云フニ若カズ。之レヲ無神の運動ナリト云ハ。ソヨリモ。寧ロ凡神の運動ナリト云フニ若カズ。

吾輩ハ論シテ此ニ至レハ。人間ノ智識信仰ハ單孤ナルモノニアラズ。社會諸種ノ現象ハ端緒相連リテ必須不離ノ關係アルヲ見ルニ至ル。今マ夫レ一神教ニ於テ世界ニハ唯一上帝アリ。其權能至尊至大ニシテ對敵

アルヲナシト云ヘルモノハ政治上ニ於テ君主ハ制限ス可ラザルノ主權ヲ有スルト云ヘルト同一ノ現象ニアラザル乎。一神教ニ於テ世界萬物ハ上帝ガ其榮光ヲ彰サンガ爲メニ之レヲ造ルト云ヘルモノハ政治上ニ於テ一國人民ハ君主ガ其私欲ヲ達センガ爲メノ手段トシテ存スルモノナリト云ヘルト同一ノ現象ニアラザル乎。一神教ニ於テ天地萬物ハ皆ナ上帝ノ物ナリト云ヘルモノハ路易十四世ガ國家ハ即チ朕ナリト云ヘルモノト同一ノ現象ニアラザル乎。一神教ニ於テ上帝ハ以テ萬物ノ法則ヲ作ル可シ故ニ亦タ之レヲ破ル可シト云ヘルモノハ政治上ニ於テ國家一切ノ法律ハ悉ク君主ノ私意ニ發スト云ヘルモノト同一ノ現象ニアラザル乎。一神教ニ於テ人間道德ノ標準ハ上帝ノ意旨ヲ奉ズルニアリト云ヘルモノハ政治上ニ於テ適モナク莫モナク唯君主ノ命是レ從順スト云ヘルモノト同一ノ現象ニアラザル乎。一神教ニ於テ上帝ハ賞罰ノ大權ヲ握リ人間ヲ畏愛シテ其權下ニ俯服セシムルト云ヘルモノ

ハ、政治上ニ於テ君主ハ其權ヲ以テ生殺與奪ヲ恣ニスト云ヘルモノト同一ノ現象ニアラザル乎一神教ニ於テ萬物ハ皆ナ上帝ノ特造ニ係リテ本來差別アリト云ヘルモノハ政治上ニ於テ社會ノ階級ハ天爲ニ出デ、易フ可ラズト云ヘルモノト同一ノ現象ニアラザル乎此ニ由リテ之ヲ觀レバ宗教ト政治トハ其現象ノ性質ヲ同フスルモノナリト云ハザルヲ得ズ而シテ一神教ト君主獨裁ノ政體トハ互相表裏スルモノナリト云ハザルヲ得ズ然ルニ今ヤ君主獨裁ノ政體ハ安クニ在ル哉而シテ一神教ハ抑モ將タ那ノ針路ニ向ツテ進化セントスルカ吾輩スハソセル氏ガ論ヲ聞クニ曰ク宗教上ノ思想ハ其人民ノ性質ト互相適合ス然レハ人民ノ性質變化シテ止マザルモノナレバ宗教上ノ思想モ亦タ共ニ變化セザル可ラズト而シテ氏ハ又タ耶蘇教ニ於テ鏘々有名ナル大家ノ說ヲ引證シテ曰ク宇宙萬有ノ第一性ハ神ニモ客觀的ノモノナレバ以テ神ノ行爲ヲ制限ス可シ神ハ唯其第二性ニ於テ自己ノ靈能

意志ヲ決行スルヲ得ルト夫レ果シテ此ノ如クナレバ一神教モ亦上帝專治ヨリ漸ク進ンテ立憲上帝政ヲラント欲スルカ。若シ上來論ズル所ヲ以テ少ク想像的ノ概括ニ過ルトセバ吾輩ハ更ニ他ノ問題ニ就ヒテ現時文明ノ大勢ハ既ニ頗ル一神教ノ時代ヲ經過シタルヲ説明セント欲ス抑モ一神教ニ於テハ世界人類ハ祖先以來ノ罪惡ヲ以テ既ニ墮落シ自ラ振ツテ高尚完美ナル道德福祉ノ域ニ進ム能ハズ故ニ感化ヲ要スト此說ノ如キモ亦タ現時世界ノ新主義ニ反對スト云ハザル可ラズ試ニ看ヨ吾輩ノ遭遇スル第十九世紀ノ一大特異ナル標幟ハ政治ニアレ法律ニアレ經濟ニアレ教育ニアレ干渉主義衰頽シテ放任主義勃興シ抑壓主義勢力ヲ失シテ自由主義輝光ヲ放タントスル是也故ニ能フ可クンバ政治ニ於テハ自治ヲ尙ンテ政府職務ノ範圍ヲ狭クセント欲シ能フ可クンバ法律ニ於テハ各人ノ權理ヲ保護スルニ其歩ヲ駐メテ行爲自由ノ版圖ヲ擴メント欲シ能フ可クンバ商業ニ於テハ

第三章

自由貿易ヲ主張シテ保護政策ヲ擯斥セント欲シ能ク可クンバ教育ニ於テハ外力檢束ノ舊習ヲ脱シシメテ自力開發ノ原則ニ由ラシメントスルガ如キ一トシテ人類發達ノ新主義勝利ヲ占メントスルノ休徵ヲ示サザルハナシ然リ而シテ此新主義ノ基ヲ所ノモノハ實ニ萬有進化ノ理法世ニ明ナルニ職由セズンバアラズ蓋シ進化主義ニ據レバ人類社會ニ禍害尙ホ存シ罪惡跡ヲ絶タザルモノハ進化ノ未ダ全ラザルニアリトシ而シテ進化ヲ遂ゲセシムルノ方法ハ亦唯其自然ニ逆フテ之レヲ矯枉スルニアラズ即チ其自然ニ順ツテ之レヲ利導スルニアリトス左レハ此點ニ關シテハ耶蘇教ノ人類墮落說ト社會發達ノ新主義トハ正サニ反對ニ出ルモノナリト云ハザル可ラズ然レモ現世紀文明ノ大勢ハ復タ一神教ノ敢テ抗スル所ニアラズ故ニ熱心ナル一神論者ヲ以テ自ラ任ズルモノト雖モ却ツテ此新主義ノ真理ヲ主張シテ疑ハザルニ至ル而シテ一ニテリアン宗派ノ如キハ更ニ一步ヲ進メテ一大活眼ヲ刮破シ人間ハ

宗教ノ進化

決シテ墮落スルモノニアラザルナリ人類社會ハ自ラ進化シテ最善最美ノ境遇ニ達スルノ機能ヲ有スルモノナリト大聲絶叫シテ敢テ願ミザルナリ

之ヲ要スルニ理哲二學ハ人類進化ノ泉源ニシテ近世歐洲ノ文明ハ實ニ其賜ニアラザルハナシ然レモ理哲二學ハ人間ノ智識ヲ開キ其進歩ヲ促ガスニハ盛大ナル勢力アルモノニシテ獨リ世界ノ平和ヲ助ケ實利ヲ進ムルノミナラズ抑モ又々妄想ヲ排シテ真理ヲ闡明シ不正ヲ改メテ正道ヲ鼓舞シ從來ノ薄弱ナル信仰ヲ破リ更ニ強大ナル信仰ヲ以テ之ニ代ヘント欲スルモノ也從來ノ識見ヲ破リ更ニ博大ナル識見ヲ以テ之ニ代ヘント欲スルモノ也故ニ其運動ハ獨リ破壞的ニアラズシテ亦建設的ナリ然レモ其破壞的ヨリシテ建設的ニ經過セントスルニハ毎ニ革命ニ出デザルヲ得ズ噫文明世界學問政治法律社會習慣ノ革命皆ナ既ニ運動ヲ始メタリ宗教豈獨リ革命ノ運動ニ遭遇セザルヲ

得、ン、ヤ、然、ラ、ハ、則、チ、吾、輩、ハ、敢、テ、斷、言、ス、宗、教、革、命、ノ、一、大、運、動、ハ、必、ズ、將、來、
 ニ、起、ラ、ン、コ、ト、ナ、然、レ、モ、既、ニ、將、來、ニ、起、ル、ト、セ、バ、亦、タ、必、ズ、既、往、ニ、其、準、備、ナ、
 カ、ル、可、ラ、ズ、而、シ、テ、世、人、此、革、命、準、備、ノ、現、象、ニ、注、目、ス、ル、モ、ハ、鮮、キ、ハ、何、
 ツ、ヤ、

第四章 真理ニ合スル純全ナル宗教

吾輩ノ所見ヲ以テスレバ極メテ真理ニ合シ極メテ完全ナル理想宗教
 ハ、一方ニ於テハ理智二學ノ極致ヨリ生ズル自然教ノ基礎ヲ有シ他ノ
 一方ニ於テハ智力推理ノ及バザル所ニ於テ人間ノ最大目的ニ應ジ宗
 教感情ヲ満足セシメンガ爲メニ顯示ヲ有スルノ宗教是也左レハ此ノ
 如キ理想宗教ハ果シテ歴史宗教タル可キ乎更ニ之ヲ詳説スレバ吾
 輩ノ思想ニ於テ真理トシ完全トスルノ宗教ハ亦タ果シテ實際世界ニ
 存在スルモノナル乎若シ實際ニ存在セズンハ吾輩ノ理想宗教ハ只一
 ノ空想タルニ過ギザル可シ果シテ存在ストセバ知ラズ孰レノ宗教ナ
 ル歟

夫レ耶蘇教ノ一神教ニシテ佛教ノ凡神教ナルハ吾輩ノ前論スルガ如
 シ故ニ單ニ自然教ノ點ヨリシテ言フキハ佛教ノ耶蘇教ニ卓絶スル論
 ナ待タズ即チ耶蘇教ハ一神教ノ時代漸ク經過スルニ從ツテ之ト共ニ
 信仰ヲ失シ佛教ハ凡神教ノ時代漸ク到達スルニ從ツテ之ト共ニ愈々
 信仰ヲ得ルニ至ル可シ然レモ一神教凡神教ハ自然教ノ真理ヲ判斷ス
 ルニ足ラズ何如ソトナレバ自然教ハ宗教ノ一面ニシテ他ノ一面ハ顯
 示教ナラザル可ラザレバナリ蓋シ自然教ナルモノハ理智二學ノ建
 設スル所ニシテ不完全ニ理智二學ノ推理ヲ應用スレバ以テ一神教ヲ
 生ズ可シ完全ニ理智二學ノ推理ヲ應用スレバ以テ凡神教ヲ生ズ可シ
 彼ノ歐洲學術ノ大ニ進歩スル一神教ヲ以テ完全ナル真理トセズ哲學
 ニ由リテ凡神教ヲ建設スルモノ勝ゲテ數フ可ラズ然レモ其耶蘇教ニ
 代リテ社會人心ヲ統御スル能ハザルモノハ只自然教ニシテ顯示教ナ

ラザレハナリ。故ニ、佛教ニシテ、自然教タルニ過ギズトセバ、亦タ、彼ノヘ
「ゲルル、」諸氏ガ建設シタル哲學ト、毫モ其異ナルヲ見ザル可シ。而
シテ、豈ニ能ク真正ノ宗教タルヲ得ン哉。

吾輩竊ニ佛教各派ノ説ク所ヲ看ルニ、大小卑高ノ別アリト雖モ、其全體
ノ結構ニ至リテハ、凡神教ヲ以テ基礎トセザルハナシ、即俱舍ノ如キハ
唯物主義ヨリ進ンデ絶対ノ存在ヲ論ジ、唯識ノ如キハ唯心主義ヨリ進
ンデ絶対ノ存在ヲ論ジ、成實ノ如キハ現象ノ假想ナルヲ論ジ、三論ノ如
キハ絶対ノ思議ス可ラザルヲ論ジ、華嚴天臺ニ至リテハ、萬有即チ絶対
ノ現象ナルヲ論ズ、凡神教ノ真理茲ニ至リテ深奥ヲ極メタリト云フ可
シ。然レモ、若シ佛教ノ説ク所ヲシテ、此ニ止ラシメバ、佛教ハ僅カニ自然
教ノ基礎ヲ築キタル迄ニシテ、近世哲學ノ講明スル所ト何ゾ異ナルア
ラン。唯其レ、此ニ止ラズシテ、無限心意ノ目的ヲ示メシ、人性ヲ開發セシ
メテ、無限心意ト一體ナラシムルノ道ヲ説クニ至リテハ、正サニ是レ佛

教ノ顯示教タル所以ニシテ、佛教ノ適當ニ宗教タル所以ハ、蓋シ此ニ在
ル可シ。故ニ之ヲ一言スレバ、佛教ハ凡神教ヲ以テ基礎トスルノ顯示教
ナリ。

佛教ヲ以テ既ニ顯示教ナリトセバ、佛教ノ開祖タル釋尊其人ハ顯示者
ノ地位ニ立タザル可ラズ。而ルニ釋尊ハ果シテ顯示者タルノ價值アル
ヤ否ヤ、吾輩此點ニ關シテハ、十分公平ノ見ヲ以テ其人物ヲ評論セザル
可ラズ。

彼レ二千八百八年前、印度ノ摩訶陀王國、極盛ノ運ニ降誕シタル悉達太
子ナルモノハ、果シテ何等ノ景仰驚歎ス可キ神聖尊大ナル一大現象ナ
ルゾ。彼レ生レテ相貌端嚴、風采非凡、聰明智慧、眞ニ倫類ニ絶シ、長ズルニ
從ヒ騎射ヲ善クシ、算數ニ精ク、當時印度ノ文學武技、一ツトシテ練達セ
ザルハナク、深宮ノ裡ニ長シ、富貴榮華窮極ナク、飲食歌舞、歡樂ヲ助ケ、凡
ソ耳目ノ欲スル所、性情ノ娛ム所、何ヲ求メテカ得ザランヤ、何ヲ爲シテ

第

四

章

カ成ラザランヤ然レ、凡安逸ニ耽ラズ、肉慾ニ汚サレズ、至聖ナル名譽ト
 樂光トチ全フシ、一朝忽チ人間命運ノ宏大深遠ナル眞理ニ感動セラレ、
 萬乘至尊ノ王位ヲ棄テ、王宮ヲ通レタリ、此レ豈ニ人間模範(Human Type)
 ノ最モ完全ナルモノニアラズヤ。彼レハ武術兵技ヲ以テ身體ヲ發達
 シ、文學性理ヲ以テ其才智ヲ鍛練スルノミナラズ、美術ヲ脩メ、禮儀ニ
 嫻ヒ、世態ニ通シ、人情ヲ知リ、凡ソ人性ニ於テ發達ス可キ天性、技能、美辭、
 才智、感情、思想、經驗ハ悉ク之ヲ美麗ニ完全ニ發達セザルハナシ、此レ豈
 ニ人間發達(Human Development)ノ最美ナル花ニアラズヤ。彼レハ一身ヲ
 犠牲ニシテ一切衆生ヲ子視シ、其人間ヲ愛スル限量アルコトナシ、然レモ
 其觀念ハ萬有ノ表ニ卓絶シ、其志氣極メテ高尚ナリト雖モ其慈愛尤モ
 懇切ナリ、其欲ヲ制シ私ニ克ツノ勇氣ニ至リテハ至大至剛ニシテ、殆ソ
 ド凡天下ノ物ヲ以テスルモ之レ敢テ動かスニ足ラズト雖モ其心ハ常
 ニ喜悅ト平和トヲ以テ充滿シタリ、アルノルド氏云ハズヤ、此純潔ニシ

眞理ニ合スル純全ナル宗教

テ温和ナル印度ノ教師ハ眞ニ王侯大人ノ品格ヲ備ヘタリ、聖賢ノ智慧
 ヲ有シタリ、熱心ニ溢レタルノ殉道者ナリト、此レ豈ニ人間徳性(Human
 Virtue)ノ最モ善ク調和シタルモノニアラズヤ。彼レガ教ヲ説キ道ヲ傳
 フル權威ヲ以テセズ、命令ヲ以テセズ、一ニ之ヲ衆生ノ良心ト理性トニ
 訴ヘテ曰ク、唯人ノ説クカ故ニト云フテ信スル勿レ、聖賢ノ書ハ唯聖賢
 著ハセシガ故ニト云フテ信ズル勿レ、亦タ吾ガ教フル所ハ吾レ之ヲ教
 フルガ故ニト云フテ信ズル勿レ、唯汝ノ良心ト理性トニ適スルモノニシ
 テ、然ル後チニ之ヲ信ゼヨト、抑モ亦タ彼レハ何人ゾ、萬乘至尊ノ太子ナ
 リ、貴族ノ高等ニ位スルモノナリ、且ツ一世界國民ノ最モ種族ヲ重シ
 門閥ヲ尙ブ、社會ニ生レ乍ラ習慣ノ鉄天地ヲ破リ、始メテ人類平等ノ
 一大眞理ヲ唱説シタルモノハ、彼レ其人ニアラズヤ、然レモ彼レハ温和
 ニ之ヲ唱説シ、敢テ過激ナル手段ヲ用ヒズ、人種邦國ノ同異ヲ問ハズ、博
 ク一切人類ヲ愛シ之レヲ以テ其目的トセリ、此レ豈ニ自由平等博愛ヲ

以テ生命元氣トスル人間進歩(Human Progress)ノ最モ公明正大ナル首唱者ニアラズヤ。

夫レ古今世界ノ偉人ヲ稱スレバ、必ズ耶蘇孔子、ソクテスニ僂指ス可シ。此三氏ハ誠ニ命世ノ大賢ナリ。然レ凡有名ナル耶蘇一代記ノ著者ストラース氏曰ク、耶蘇ハ道德上ニ於テハ、實ニ完全ナル人間模範ノ理想ナルモ、技術上ノ理想ニ至リテハ、猶ホ缺ル所アルヲ免レズト。果シテ然リ、氏ヲシテ我が釋尊ヲ評セシメバ、將サニ何等ノ辭ヲ以テセントスルカ。孔子ノ好學力行固ヨリ敬ス可シ。然レ凡孔子ハ人ニ示スニ進歩ノ理想ヲ以テセズ。又自ラ振ツテ新時代ヲ創開スルモノニアラズ。故ニ孔子ヲ稱シテ支那人中ノ支那人ト云ヘルハ、適切至當ノ評ト謂フ可シ。豈ニ我が釋尊ト其優劣ヲ比スルニ足ランヤ。而シテソクテスノ思想稍々高尙濶大ナルモ、亦ク釋尊ノ完全ナル發達ニ及バズ。然ラバ則チ單ニ其人ヲ以テ評スルモ、世界無比古今獨歩ノ人物ハ、悉達太子ナリト稱歎贊

第

四

章

教宗ルナ全純ルニ合ニ理眞

美セザルヲ得ズ。若シ更ニ其講明シタル哲學ニ就ヒテ之ヲ論ズレバ、實ニ古今東西ノ哲學者ガ說ク所ハ、如何ニ博大ナルモ、如何ニ精緻ナルモ、未ダ嘗テ釋尊思想ノ範圍外ニ出デシモノアルヲ見ズ。吾輩亦タ焉ソク彼ノ井上氏ニ倣フテ、眞ニ是レ思想ノ大海哲學ノ源泉ニシテ、古今東西ノ諸論諸說皆ナ其一滴タルニ過ギズ。如何ナル識者ト雖モ、此中ニ入りテ自己ノ見識ノ小ナルヲ見如何ナル學者ト雖モ、此中ニ入りテ自己ノ足ラザルヲ知り、自ラ其智力ヲ屈シ、其見識ヲ卑フシテ、佛界ノ廣大無邊深遠不測ナルニ驚歎ス可シト云ハザルヲ得ンヤ。然レ凡吾輩ハ敢テ獨リ釋尊ノ人物ト哲學トノミヲ以テ、其顯示者タルノ資格ヲ定ムルモノニアラズ。即チ亦タ顯示其物ニ就ヒテ其信ズ可キト其信ズ可ラザルトチ判斷セザル可ラズ。夫レ絶對無限ノ體ハ吾輩得テ識ル可キノ範圍ニアラズ。然レ凡此絶對無限ノ現象ハ即チ宇宙萬有ナリ。然ルニ萬有進化ノ順序タル自然一進シテ生活ヲ生シ、生活又チ一

進シテ思想ヲ生シ、而シテ思想ノ目的トスル所ハ、至善、至美、至眞ニアレ
 ハ決シテ無限心意ナシト否定ス可ラズ。亦タ無限心意ハ至善、至美、至眞
 ナラズト否定ス可ラズ。吾輩推理ノ及ブ所ハ蓋シ此ニ駐ルノミ、然ラバ
 無限心意ハ人間ト如何ナル關係ヲ有スルカ、如何ニシテ人間ヲ濟度ス
 ルカノ問題ニ至リテハ是レ則チ顯示ノ範圍ニシテ高尙深遠ナル哲學
 ト雖モ解釋ヲ與フル能ハズ、只宗教ニシテ此問題ヲ解釋スル能ハザル
 モノハ眞正ノ宗教トスルニ足ラザルナリ。然ルニ釋尊ハ吾輩ニ誨フル
 ニ因果ノ理法ハ三世ニ通シ禍害ノ存在スルハ人性ノ未ダ進化セザル
 ニアリ、故ニ只愛ト眞理トハ天國ニ達スルノ正路ナルヲ以テシ、又タ萬
 有ノ目的ヲ示メシ、絕對ノ門ヲ開キテ、吾輩ニ誨フルニ無限心意ハ佛陀
 ト現ハレ、廣大無量ノ智慧ト慈悲トヲ以テ一切衆生ヲ濟度スルヲ以
 テシタリ。然ラバ則チ釋尊ノ顯示タル人間自然ノ感情ニ契合シ、徒ニ其
 宗教心ヲ満足スルニ足レルノミナラズ、更ニ之ヲ發達シテ無限ノ福祉

ト無限ノ希望トチ與ヘザルハ莫シ。
 然ラバ則チ眞理ニ合スル純全ナル宗教ハ、佛教ヲ除ヒテ他ニ求ム可ラ
 ズ。蓋シ宗教心ヨリシテ論ズレハ、佛教則チ智力、感情、意志併セテ満足セ
 シムルノ宗教ナリ、自然教ヨリシテ論ズレハ、佛教則チ其進化ノ極點ニ
 達シタルノ宗教ナリ、顯示教ヨリシテ論ズレハ、佛教則チ顯示者ノ資格
 ナ備フルノ教祖ヲ有スルノ宗教ナリ、夫レ然リ之レチ人間自然ノ天性
 ニ問フテ其眞理タルヲ證明シ、之ヲ理哲ニ學ノ推理ニ問フテ其眞理タ
 ルヲ證明シ、又之ヲ教祖ノ人物哲學顯示ニ問フテ亦タ其眞理タルヲ證
 明スルハ、吾輩豈ニ佛教ヲ稱シテ眞理ニ合スル純全ナル宗教ト謂ハ
 ザルヲ得ンヤ、既ニ眞理ニ合スル純全ナル宗教ナリ、世界萬民一タビ其
 照ラセル光ヲ仰ヒテ深奥ナル理性ヲ發揮シ、其活ケル水ヲ飲ンテ高尙
 ナル感情ヲ感動スルニ至リテハ、豈ニ歡喜踊躍シテ此教ニ歸依セザル
 ヲ得ンヤ、豈ニ彼ノ景仰驚嘆ス可キ神聖尊大ナル一大現象ニ俯服拜跪

セザルヲ得ノヤ然リ而シテ吾輩ハ方今世界大勢ハ趨ク所思想ハ潮流
ナル所千派萬派滔々奔注シテ此純全ノ宗教ニ朝宗スルヲ確信シテ敢
テ疑ハザルモノナリ。

宗教革命ノ現象ヲ論ズ

第五章 道理ノ女神

前編ニ於テ吾輩ハ宗教ノ性質及び其進化ヲ説明シタリ然ルニ其説明
ノ結局ニヨレバ文明世界ノ舊宗教ハ漸ク倒レ新宗教之ニ代リテ將サ
ニ興ラントスルノ一大原因ヲ發明シタリ然リ而シテ徒ニ此一大原因
ヲ發明シタル而已ニ止リ更ニ議論ト事實トナ一致調和シテ着々證明
スル所アラズンバ吾輩ノ論亦タ焉ンゾ牽強附會ノ臆説トシテ世ニ擯
斥セララル、ヲ免カル、ヲ得ンヤ蓋シ事實ニ合セザルノ議論ハ如何ニ
巧ナリト雖モ到底空想タルヲ免レザルナリ故ニ吾輩ハ此レヨリ事實
ヲ叙シテ前説ヲ證明スルノ勞ヲ執ラザル可ラズ而シテ此事實タル宗
教革命ノ現象ニシテ破壊ト建設ノ兩面ヲ見ハスヲ以テ破壊的ノ一面
ニハ一神教ノ時代漸ク去ルニ從ツテ耶蘇教之ト共ニ勢力ヲ失シ建設
的ノ一面ニハ理哲二學漸ク進ムニ從ツテ凡神教ノ時代既ニ來ルヲ明

第

五

章

示セザル可ラズ。既ニ此點ニシテ證明スルヲ得ハ、更ニ進ンデ理哲ニ
 學ハ凡神教ノ真理ヲ立ツルヲ得ルモ、其顯示ヲ欠クノ故ヲ以テ純全
 ナル宗教トナリ一般人心ヲシテ信仰歸依セシムルニ足ラザルヲ明
 示セザル可ラズ。吾輩果シテ事實ニ據リテ此二點ヲ證明スルヲ得ル
 ニ至リテハ、前説ノ空想ニアラザル蓋シ又々喋々辨解ヲ要セザルモ、
 アラソ。

然リ而シテ此事實ヲ明示スル那邊ヨリ説キ起サンカ。蓋シ近世文明世
 界ノ一大運動タル恐ラクハ彼ノ佛國ノ大革命ニ過ギタルハナシ。然ル
 ニ世人僅ニ佛國革命ノ説ヲ聞ケバ、其腦裡既ニ慘然タル一幅ノ血書ヲ
 描キ出ダシ、人類進歩ノ一大失策タリトノ記憶ヲ喚ビ起サルモノ殆ン
 ド稀ナリ。吾輩ト雖モ此一大革命ノ原因ト結果トヲ探究セズシテ徒ニ
 彼ノダントソノ如キ、ロベスピールノ如キ、斬頭臺ノ如キ、帝王王后ノ弑
 虐ノ如キヲ看ルニ至リテハ、豈ニ英國小説家ノ巨擘ト共ニ彼ノ自由一

道 理 ノ 女 神

クビ暗黒ナル海門ヲ出ヅルヤ、人心前途ノ望ヲ開ク。恰モ瞳々タル紅旭
 ノ輝光燦爛トシテ寶石ヲ射ルガ如シ。然レモ此期望ハ忽然夢ノ如クニ
 滅シタリ。彼ノローラシドノ艶麗ナルベルグニヨリ雄辨ナルコンドル
 セーノ目的遠大ナル。マルセルブノ感情高尚ナル。其他無數ノ機智家ナ
 リ。哲學家ナリ、政治家ナリ、愛國家ナリ、夢想家ナリ、各自驅命ヲ抛テ精
 神ヲ竭セシモ、猛惡ナル血神ハ其兒ヲ食ヒ盡クシテ獨リ自ラ殘レリト、
 哀辭ヲ垂レテ既往ヲ吊セザルヲ得ンヤ。然レモ眞ニ此革命ノ全體ヲ以
 テ之レヲ觀察スルハ、是レ人心發達ノ一大運動ニシテ其功績タル。獨
 リ抑壓束縛ノ制度ヲ掃蕩シテ政治ノ新世ヲ開クニ止ラズ、社會百般ノ
 思想之ガ爲メニ煥然トシテ面目ヲ改ムルニ至リテハ、天下後世實ニ其
 賜ヲ謝セザル可ラズ。而シテ此一大演劇ノ中央ニ於テ、悲劇ニモアラズ、
 喜劇ニモアラズ、即チ人心自然ノ智力感情ヨリ流出スル一大美事ヲ演
 シタル如キハ、吾輩ノ最モ稱賛シテ止マザル所ナリ。夫レ其一大美事ト

ハ何ゾヤ、所謂道理ノ女神是也、

第五 章

抑モ佛國大革命ノ騷亂ハ千七百九十三年ニ至リテ最モ其高度ニ達シ
タリト云ハザルヲ得ズ。然ルニ此年ノ十一月十日ニ當時革命ノ大政府
タル「コンベンション」ニ於テ「サンキュルロット」一派ノ人ハ僧侶ヲ還俗セ
シメ。教會ニ供スル一切ノ費用ヲ廢止セバ如何ント建議セシニ。此說大
ニ國民ノ意ニ投シ。巴里市民ハ直チニ此議ヲ以テ政府ニ請願セント。コ
ンベンションニ詰メ懸ケ。當代第一ノ美人ト聞ヘタルデムーラン夫人
ヲシテ麗服盛裝セシメ。道理ノ女神ト稱シ。群衆之ヲ環擁シテ請願者ノ
首魁ヲラシメタリ。時ニ議員ノ一人タルシヨウメット氏ハ直チニ起立
シ一場ノ演說ヲナシテ曰ク。妄想仆レテ真理起ルハ世運開明ノ一大進
歩ナリ。看ヨ彼ノ宏大美麗ナル寺院ハ虛談妄說ヲ以テ反響シタルニア
ラズヤ。然レモ今マヤ赫々タル真理ノ大光ハ既ニ上帝ヲ壓倒シテ信仰
ヲ失セシメタリ。然ラハ則チ吾輩妄信ノ偶像ヲ廢シテ之ニ代フルニ道

道 理 ノ 女 神

理ノ女神ヲ以テセバ豈ニ亦タ善ラズヤト。其言未ダ畢ラザルニ拍手喝
采四面ニ湧キ殆ンド將サニ議院ノ堂宇ヲ震動スルニ至ラントス。此ニ
於テ女神乍チ來リテ議長ノ傍ニ坐ス。議長乃チ之ニ接吻シテ友愛ノ情
ヲ表シ。車馬絡繹官民陸續相携ヘテノートルダムノ大寺院ニ詣リ。盛大
ナル式ヲ行ヒ大理石ヲ以テ彫刻シタル哲學大家ノ肖像ヲ羅列シ。其机
ヲ名ケテ道理ノ机ト稱シ。其燈ヲ名ケテ真理ノ燈ト稱シ。其樂ヲ名ケテ
共和ノ樂ト稱シ。其堂ヲ名ケテ哲學ノ堂ト稱ス。時ニ宛轉タル一隊ノ少
女桂冠ヲ戴キ。左右列チ成シ。樂ヲ奏シテ前ニ來ル。道理ノ女神乃チ至高
至尊ナル哲學ノ堂ヨリ出デ、敬愛ヲ受ケ暫クアリテ復タ裡ニ入ラン
トスルノ時願眊シテ無限ナル愛憐ノ眸ヲ萬衆ノ感情ニ印シ去ル。此ニ
於テ萬衆ハ喜ブガ如ク泣クガ如ク。長ク道理ノ女神ヲ崇拜セント宣盟
シタリ。

蓋シ佛國革命ノ時ニ方リテ。智者學者ハ理論ヲ以テ耶蘇教ヲ攻撃スレ

第 五 章

ハ愚夫愚婦ハ亦タ暴力ヲ以テ之レヲ撲滅セントシ。其勢恰モ長江ノ決
スルガ如シ。此ニ於テ自然眞理ノ外別ニ眞正ナル宗教ナシト言フモノ
アリ。上帝トハ結晶體ノ最モ高尙ニシテ最モ完全ナルモノナリト云フ
モノアリ。「バイブル」ハ稗史小説ニシテ毫モ信ヲ措クニ足ラズトスルモ
ノアリ。學校ニ於テ無神教ヲ講義スルモノアリ。僧侶ニシテ斷然耶蘇教
ヲ拋棄シ非常ノ稱賛ヲ博スルモノアリ。史家バツル氏曰ク。千七百六十
四年。英國ノ碩學ヒユーム。佛國ニ赴キ。ドルバツル男爵ノ家ニ於テ。其頃同
國ノ名聲噴々タル人物ト會合セシ。時ニ問フテ曰ク。余ハ貴國ニ於テ無
神論者甚ダ多シト聞ケドモ。未ダ一人ニモ遭遇セズ。男爵對ヘテ曰ク。誠
ニ君ノ不幸ノミ。然レモ今ヤ君ハ茲ニ其十七人ト對話スルハ。光榮ヲ得
タリト。此ニ由リテ之ヲ觀レハ。佛國上流ノ人士ガ耶蘇教ヲ厭忌シテ。無
神ノ說ヲ唱フル甚ダ久シ。豈ニ一朝一夕ノ際ニシテ偶然ニ發シタルモ
ノナラヤ。然リ而シテ革命政府ノ果斷ナル耶蘇教禁止ノ令ヲ下メシ。令

道 理 ノ 女 神

ニ畔クモノハ處スルニ嚴刑ヲ以テシ。或ハナソツニ於テハ。三百六拾人
ノ僧侶ヲ銃殺シテ四百六拾人ヲ水ニ投シ。或ハ魯華河ニ於テハ。一夜ノ
間ニ五十人ノ僧侶ヲ鷓夷シテ之ヲ投シ。千七百九十一年ヨリ千七百九
十五年ニ至ル迄。千三百三十五人ノ僧侶ヲ戮殺スルニ至ル。此レ蓋シ愚民
ガ學士輩ノ理論ニ鼓舞煽動セラレ。一時暴起シテ致ス所ニ係ルト雖モ
亦タ以テ當時ノ人心ノ嚮フ所ヲ觀ル可シ。

吾輩佛國革命史ヲ讀ンテ此處ニ至ル毎ニ。未ダ嘗テ卷ヲ掩フテ長ク歎
ゼズンバアラズ。嗚呼彼ノ道理ノ女神ノ現出スル豈ニ偶然ナランヤ。世
ノ論者或ハ曰ク。佛國革命ナルモノハ。恰モ酒ニ酔フタルガ如ク一時暴
起シタルノ結果ナリ。故ニ其爲ス所ハ源因アルニアラズト。然レモ吾輩
ハ此說ニ敬服スル能ハザルナリ。他ノ論者ハ又タ曰ク。佛國人民ガ彼ガ如
ク耶蘇教ニ反對シタルモノハ。當時僧侶ガ君主貴族ノ味方トナリテ社
會ヲ抑壓シタルノ反動ニ出デタルモノナリト。此論前說ニ比スレバ大

ニ道理ニ近キガ如シ然レモ一層深ク之ヲ思考スレバ此說モ亦タ其實
 ナ得タルモノトス可ラズ何トナレバ彼レ只僧侶ニ激シタルニ過ギザ
 ル歟僧侶ヲ攻撃スル可ナリ而シテ其教會ヲ顛覆シタルモノハ何ソツ
 ヤ教會ヲ顛覆スル猶ホ可ナリ而シテ其耶蘇教ヲ拋棄シタルモノハ何
 ソツヤ耶蘇教ヲ拋棄スル猶ホ可ナリ而シテ其上帝ヲ驅逐シタルモノ
 ハ何ソツヤ此ニ由リテ之ヲ觀レバ此一大現象ノ原因ハ更ニ一層永久
 ニシテ一層深奥ナルモノ原因ナラザル可ラズ而シテ更ラニ一大問題
 タルモノハ斯ノ如ク僧侶ヲ攻撃シ教會ヲ顛覆シ耶蘇教ヲ拋棄シ上帝
 ヲ驅逐シタルノ國民ニシテ彼ノ人情ト時機トヲ洞察スルニ炯眼ヲ有
 スル一大政事家ナボレチン第一世ガ天主教ヲ以テ國教トスルニ方リ
 再ビ復タ多數ノ信徒ヲ喚起シタルト是也吾輩ハ問題ヲ講究シテ蓋シ
 二大眞理ヲ發明シタリ曰ク一神教ノ時代漸ク去リテ凡神教ノ時代將
 カニ來ル曰ク顯示アルノ一神教ハ顯示ナキノ凡神教ニ優サル是也而

シテ吾輩ノ愚論ヲ讀ムモノハ冒頭ヨリ結末ニ至ル迄此二大眞理ヲ記
 臆セザル可ラズ

第六章 耶蘇教ト理學ノ軋轢

耶蘇教ハ一神教ナリ故ニ一神教ノ時代ニ適スルノ宗教タルハ固ヨリ
 論ヲ待タズ耶蘇教ハ顯示教ナリ故ニ其宗教トシテ人間ノ宗教心ヲ滿
 足セシムル理學哲學ノ敢テ企及スル所ニアラザルハ又タ固ヨリ論ヲ
 待タズ然レモ人間思想ノ發達既ニ一タビ一神教ノ時代ヲ去リテ凡神
 教ノ時代ニ移ルニ及ンデハ理學哲學ト相分離セザルヲ得ズ其分離ノ
 極ハ遂ニ信仰ト道理ト相軋轢シ學術ト宗教ト相軋轢シ信仰道理ヲ撲
 滅セントスレバ道理モ亦タ信仰ヲ壓倒セント欲シ宗教學術ヲ敵視ス
 レバ學術モ亦タ宗教ニ抵抗セント欲ス故ニ其勝敗ノ數ハ兩者勢力ノ
 優劣ヲ以テ之レヲ判斷セザル可ラズ此レドレパー氏ガ所謂宗教學
 術軋轢ノ歴史ナリ

然ラハ則チ此耶蘇教ト理學トノ軋轢ハ那ノ時代ニ始リタル乎。那ノ問題ニ生シタル乎。此ヲ紀述セント欲セバ。先ヅ耶蘇教ガ勝利ヲ占メテ歐洲人心ノ信仰ヲ支配シタルノ淵源ニ溯ラザル可ラズ。抑モ耶蘇教ノ始メテ。羅馬帝國ニ侵入スルヤ。上ハ帝王ヨリ下ハ人民ニ至ル迄。大ニ之ヲ敵視シ。三百餘年間ニ於テ。凡ソ十回ノ大迫害ニ遭フモ敢テ屈撓セズ。悉ク鮮血ヲ以テ其熱心ヲ證シ。コンスタンチン大帝ノ時ヲ待チテ始メテ國教トナリ。大ニ其教ヲ傳播シ。羅馬帝國ニ於テ大權ヲ掌握スルヲ得タリ。之ヲ譬フレバ。地上ニ生ズル植物ガ其始メ霜ニ冒サレ蓬蒿ニ厄セラレ牛馬ニ蹂マレ。歳日ヲ積ンテ漸ク生長シ。盪々トシテ青霄ニ聳ヘ。枝葉繁茂シテ蓋天ノ雲ノ如キモノアリ。而シテ耶蘇教ガ彼ガ如ク異教徒ノ爲メニ攻撃ヲ受ケタルニモ係ハラズ。帝王人民ノ爲メニ慊惡セラレタルニモ係ハラズ。桎梏。劔戟。水火。猛獸ヲ以テ迫害セラレタルニモ係ハラズ。遂ニ全ク勝利ヲ占メ十字架ヲシテ日月ト光ヲ爭フニ至ラシメタ

第 六 章

耶 蘇 教 ト 理 學 ノ 軋 轢

ルモノハ。果シテ如何ナル原因ニ歸ス可キカ。耶蘇教徒ハ勿論言ハン。此レ則チ上帝ノ全能ヲ顯ハス所以ナリト。然レモ哲學的ノ觀察ヲナスモノハ之ヲ信セズ。曰ク。羅馬帝國ガ兵力上政治上ニ於テ。隆盛ノ極度ニ達シタル日ハ。即チ其宗教上社會上ニ於テ。衰頹ノ極度ニ達シタル日ナリ。試ニ當時ノ有様ヲ回顧スレバ。人生ハ當サニ一大宴會ノ如クナルベシ。道德ハ快樂ヲ以テ目的トスベシ。天下ノ崇拜ス可キモノハ勢力ヨリ大ナルハナシ。戰功武勳ヲ賞センガ爲メニハ良民ノ土地ヲモ奪フ可シ。民力ノ膏血ヲモ絞ル可シト言フヲ以テ社會ノ格言トシ。而シテ其華侈驕奢ナル。玉ヲ沙トシ。錦ヲ霞トシ。綺羅ノ服。夜光ノ杯。歡樂豪遊。淫蕩流連シテ。男子ハ廉耻ヲ顧ミズ。婦女ハ貞節ヲ知ラズ。赫々タル帝國將サニ變シテ。一大淫亂國トナラントス。此時ニ方リテ道德ヲ以テ主義トスル耶蘇教ニシテ勝利ヲ占メタルハ。必然ノ理ニ由ルト云ハザルヲ得ズ。夫レ水ノ低卑ニ就キ。空氣ハ稀薄ニシテ風ヲ起スモノハ。重力ハ大法ナリ。而

シテ人類社會ノ生存運動スル亦未ダ嘗テ此重力ハ大法ニ支配セラレズンハアラズ然ラハ則チ無道德ノ羅馬帝國ニ向ツテ道德主義ノ耶蘇教ガ進入シテ遂ニ勝利ヲ占ムルモハ蓋シ亦タ水ノ低卑ニ就キ空氣ノ稀薄ニシテ風ヲ起スト同一ノ理法ニ由ラザルヲ得ンヤト

此説タル眞ニ當時ノ事情ニ通ゼリト謂ツ可シ然レモ之ヲ以テ耶蘇教ガ勝利ヲ占ムルノ一大原因トスルニ至リテハ則チ不可ナリ蓋シ耶蘇教ガ羅馬帝國ニ於テ勝利ヲ占ムルノ一大原因ハ實ニ多神教一神教ノ盛衰興廢ニ外ナラズ而シテ其理ヲ推究スレバ宗教進化ノ一大現象ニ歸セザルヲ得ザルナリ蓋シ此時ニ方リテ羅馬帝國ニ行ハルハ宗教ハ多神教ニアラザルハナシ然ルニ文明ノ進歩ヨリシテ言フモ思想ノ發達ヨリシテ言フモ多神教ノ時代ハ既ニ去レリ之ヲ詳説スレバ多神教ハ以テ當時ノ智力ト感情トヲ満足スルコ足ラズ而シテ之レヨリ一層進歩シタル宗起未ダ起ラズ是ヲ以テ人民ノ信仰ハ既ニ地ヲ掃フニ至

ル夫レ信仰ノ薄弱ト云フ原因アレバ必ズ道德ノ衰頽ト云フ結果アリ信仰ノ薄弱ト云フ前唱アレバ必ズ道德ノ衰頽ト云フ後和アルハ此レ實ニ吾輩ガ各個人ノ經驗ニ質シ又社會ノ經驗ニ質シテ確信スル所ノ一大法則ナリ然ラハ則チ耶蘇教ガ羅馬帝國ニ進入シ遂ニ勝利ヲ占メ大權ヲ握ルニ至ルモノハ此宗教進化ノ大勢ヨリ生ジタルヲ吾輩ノ疑ヲ容レザル所ナリ

羅馬帝國ノ異教ハ多神教ノ時代ト共ニ過去ノ世界ニ死タリ耶蘇教ハ一神教ノ時代ト共ニ將來ノ世界ニ生ジタルリ新ニ生レタルノ耶蘇教ナリ故ニ當時ノ智力ニ適シ感情ニ適シ大ニ信仰ヲ得テ福音傳播ノ迅速ナルハ實ニ駭クニ堪ヘタルモノアリ即チコンスタンチン大帝即位ノ頃全帝國ノ耶蘇信徒ハ既ニ十分ノ一ヲ占メタリト云フ漸ク降りテ第九世紀ノ頃ニ至リテハ殆ンド全歐ヲ驅リテ其教ニ歸セシムルノミナラズ更ニ遠ク亞拉伯波斯支那蒙古其他東方亞細亞ニ波及スルニ至ル

然リ而シテ世ノ論者ハ或ハ以爲シ耶蘇教ハ此ノ如ク他ノ迫害ヲ脱シテ誠ニ其勢力ヲ得タリ然レモ之レト同時ニ漸ク其性質ヲ變シ純良無罪ナル子羊ハ乍チ化シテ貪戾無饜ノ豺狼トナリ或ハ希臘ノ遺學ヲ撲滅シ或ハ世俗ノ政治ニ干涉シ或ハ各國ノ君主ト連衡シテ抑壓ヲ施シ其文明ノ進路ヲ遮ルノ罪ハ勝ゲテ數フ可ラズト吁嗟是レ十九世紀ニ在リテ耶蘇教ヲ論ズルノ言ナリ暗世時代ニ在リテ耶蘇教ヲ論ズルノ言ニアラザルナリ試ニ瞳孔ヲ開ヒテ歐洲社會ノ歴史ヲ看一看セヨ彼レ上下殆ソド一千餘年ノ間ニ於テ將サニ禽獸ノ域ニ沈淪セントスル社會ヲ救フテ人類ニ適當ナル地位ト光榮トヲ與ヘタルモノハ誰ゾヤ放縱腐敗ナル羅馬ノ空氣ヲ一洗シテ活潑剛健ナル新元氣ヲ喚起シタルモノハ誰ゾヤ其絶ヘザル纒ニ線ノ如クナル古代文明ノ文學技術ヲ後世ニ傳ヘタルモノハ誰ゾヤ私欲利己ノ主義ヲ排撃シテ公共ノ良心ヲ養成シ國家ノ法律ニ威力ヲ添ヘタルモノハ誰ゾヤ人間諸徳ノ生命

タル愛ノ感情ヲシテ社會ノ脈管ニ注流セシメタルモノハ誰ゾヤ精神ノ自由ヲ主張シ政教ノ二大世界ヲ分離シタルモノハ誰ゾヤ婦人ヲ奴婢ノ地位ヨリ挽キ上ゲテ男子ノ良朋トナシタルモノハ誰ゾヤ捨施ノ源泉ヲ開キ戰爭ノ慘酷ヲ滅シタルモノハ誰ゾヤ人情慈善公道正直信誼友愛ハ人類天性ノ懿徳タルヲ知ラシメタルモノハ誰ゾヤ想フテ此ニ至レバ吾輩ハ耶蘇教ニ謝セザラント欲スルモ豈得可ケンヤ然ラバ耶蘇教ハ如何ナル勢力ニ由リテ之レヲ致シタル乎吾輩對ヘテ曰ク此レ亦タ一神教ノ信仰ヨリ生シタルノ一大勢力ナリ蓋シ世界ノ各宗教各學派各種族各國民ハ此等ノ善タリ美タルヲ知ラザルニアラズ否ナ此等ヲ以テ其教理トシ訓誡トシ理想トスルモノサヘ無キニアラズ然リト雖モ彼等ガ未ダ嘗テ耶蘇教ノ如ク之レヲ實行スル能ハザルモノハ何ゾヤ其勢力ナキヲ以テナリ其勢力ナキモノハ何ゾヤ其信仰ナキヲ以テナリ而シテ此信仰ナルモノハ果シテ那處ヨリ來ル乎曰ク其時

代ノ智力ト感情トニ適シタルノ一神教ヨリ來ルナリ更ニ之ヲ詳説ス
レバ一神教ガ其時代ニ適シタルノ結果ナリ。

第

六

章

然リト雖モ耶蘇教ガ一ノ時代ニ適合スル所以ハ即チ他ノ時代ニ適合
セザル所以ヲ忘ル可ラズ一ノ時代ニ利益ヲ與フル所以ハ即チ他ノ時
代ニ利益ヲ與ヘザル所以ヲ忘ル可ラズ一ノ時代ニ新勝ノ凱旋ヲ祝シ
タル所以ハ即チ他ノ時代ニハ敗軍ノ凶報ヲ弔スル所以ナルヲ忘ル可
ラズ一ノ時代ニ朝旭光輝ヲ放チテ萬里ノ前途ヲ照ラシタル所以ハ即
チ他ノ時代ニハ金烏既ニ海底ニ沈ンデ暗黒世界漸ク逼ル所以ナルヲ
忘ル可ラズ之ヲ要スルニ一神教ハ只一神教ノ時代ニ適シタルモハナ
リ其適シタル間ハ則チ信仰ヲ維持シ得ルノ間ナリ故ニ一神教ノ時代
既ニ去レバ其信仰モ亦タ從ツテ去ラザルヲ得ズ而シテ此自然進化ノ
大勢既ニ去ルヲ知ラズ強ヒテ人爲ノ手段ヲ以テ之レヲ維持セントス
ルキハ恰モ隻手ヲ揮ツテ激潮ニ抗セントスルガ如ク徒ニ抗シ得ザル

耶蘇教ト學理ノ軋

ノミナラズ却ツテ將サニ世界文明ノ進路ヲ遮ルニ至ラントス然レモ
過去ノ燦爛タル記憶ハ其勢力意外ニ強キモノニシテ社會保守ノ舊分
子ナルモノハ多クハ茲ニ胚胎セズンバアラズ而シテ遂ニ防ガント欲
シテ防グ可ラザルモノハ人間思想ノ發達ナリ遮ラント欲シテ遮ル可
ラザルモノハ自然進化ノ大勢ナリ彼レ一神教ハ既ニ此レヲ以テ多神
教ニ打ち勝チタルモ今ヤ亦タ此レヲ以テ凡神教ニ打ち勝タレントス
其勢然ルナリ故ニ彼レノ盛ナル所以モ其衰フル所以モ均ク是レ同
一ノ法則ニ支配セラルモノナリト云ハザルヲ得ズ然ラバ則チ一神
教ノ時代ハ那ノ時ニ始メテ衰運ニ就キタルカ吾輩ハ此問題ニ答ヘン
ガ爲メニ亦タ彼ノドレーパー氏ガ歐洲智力發達史宗教學術軋史ニ
據リテ耶蘇教ト學理ノ軋ヲ略陳セザル可ラズ即其軋ノ問題ハ左
ノ如クナルヲ看ル。

第一。靈魂ノ性質ニ關スル軋也蓋シ耶蘇一神教ノ説ク所ニヨレバ人

間ノ靈魂ナルモノハ上帝ノ特造ニ係ル所ニシテ物質機關ノ發達シタルモノニアラズ。又タ上帝ノ體質ヨリ發現シタルモノニアラズト之ニ反シテ東洋凡神教ノ説ク所ハ靈魂ハ物質機關ノ進化シタルモノニシテ神ノ體質ノ發現シタルモノニ過ギズト。然ルニ彼ノ希臘哲學ノ泰斗タル。アリストツル氏ハ東洋宗教ノ説ク所ヲ擴張セシガ。此説後ニ至リテアレキサンドリヤヨリ之レヲサラセンニ傳ヘ十二世紀ニ至リ有名ナルアベルロース氏ヲ待チテ始メテ一大定説トナレリ。而シテ此説タル紀元後八百年ノ頃耶蘇教家ニ於テモジヨンエリヂエナ氏ノ如キハ早ク既ニ之ヲ唱説シタルヲ以テ。疑々トシテ耶蘇教國ニ進入シ歲ヲ追フテ益々蔓延シ殆ンド教會ノ信仰ヲ動サントスルノ勢アリ。此ニ於テ羅馬法王インノーセント第四世ハ紀元後千二百四十三年ニ至リテ以太利西班牙日耳曼及ビ佛蘭西ノ南部ニ於テ新ニ宗教裁判所ヲ設置シテ異説ノ徒ヲ吟味シタリ。進ンデ第十五世紀ニ至レバ更ニ之レヨリ甚

キモノアリ。法王ハ更ニ異説禁止ノ嚴令ヲ發シ。又タ西班牙ノ女王イサベルラノ請ヲ納レテ神聖局ノ創立ヲ認可シタリ。而シテ此神聖局創立ノ目的ハ峻法酷刑ヲ以テ異説ノ徒ヲ一掃セントスルニ在ルヲ以テ僅々タル二十年間其人ヲ烙殺スル一萬二百二十人。其屍ヲ燒ク一六千八百六十人。其人ヲ懲罰スル一九萬七千三百二十一人。其サラマンカニ貯藏シタル東方文學ノ書冊ヲ焚ク一六千冊。而シテ其禍難ヲ避ケテ四方ニ逃ルモノニ至リテハ亦タ幾千萬人ナルヲ知ラザルナリ。嗚呼此ヲ讀ムモノ孰レカ悚然トシテ寒心セザランヤ。若シ此事實ヲ以テ之レヲ東洋ニ比例ヲ求レバ其抑壓ノ至猛至烈ナル彼ノ始皇ノ儒ヲ坑ニシ詩書ヲ火スル僅ニ相似タルモノアリ。而シテ其峻法酷刑ニ至リテハ桀紂ト雖モ恐ラシハ將サニ三舍ヲ避ントス。

第二地球ノ性質ニ關スル軋轢也。耶蘇一神教ハ「バイブル」ノ明文ニヨリテ大地ハ平坦ニシテ日月星辰之レヲ轉繞スルノ説ヲ主張シ其形體ニ

關シテハ地球說ヲ取ラズシテ地平說ヲ取リ其運動ニ關シテハ地動說ヲ取ラズシテ天動說ヲ取リ其地位ニ關シテハ大陽中心說ヲ取ラズシテ地球中心說ヲ取リシハ亦タ往古物理ノ智識未ダ進步セザル時代ノ思想ニシテ深ク尤ムルニ足ラザルナリ然ルニ彼ノアウガステンガ「ハイブル」ハ天下萬事ノ真理ヲ包括スト云ヘルノ論ニ拘泥シ天文地理ニ係ハルノ問題モ亦タ「ハイブル」ヲ以テ之レヲ解釋セントスルニ至リシハ此レ亦タ一神教ガ信仰勢力ノ消長ニ影響スル敢テ少シトセズ蓋シ彼ハ十五世紀ナルモハ近世歐洲ノ新舞臺ニ登ラントスルノ初ニシテ暗黒時代漸ク去リテ人文煥發ノ拂曉始メテ達シ學問ノ再興ト云ヒ社會ノ進歩ト云ヒ印刷術ノ發明ト云ヒ一ツトシテ歐洲人民ガ智識經驗思想信仰ニ著大ナル變化ヲ生ゼザルハナシ然ルニコロンパス氏ガ始メテ新世界發見ヲ以テ各國君主ニ遊說スルヤ西班牙ノ耶蘇教僧侶ハ地球說ヲ以テ「ハイブル」ニ反對スルノ邪說トナセシモ其果シテ新世界

ヲ發見シ尋テデガママセルラン二氏全世界ヲ一週シテ其說ヲ實驗スルニ至リテハ僧侶ヲシテ狼狽ノ極殆ンド驚倒愧死セシムルニ至ラントス然ルニ進ンデ第十六世紀ノ初ニ至リコバルニキユス氏始メテ地動ノ理ヲ論シテ大陽中心說ヲ唱ヘガリレオ氏又タ望遠鏡ヲ製シ天體ヲ觀察シ愈々將サニ其說ヲ證明セントスルニ及ビ宗教裁判所ハ又其「ハイブル」ノ所說ニ違フヲ以テ異端トシ之レヲ捕ヘテ獄ニ繋キ呻吟十年ノ久ヲ經テ遂ニ空シク其中ニ死セシメタリ然レモ此レヨリシテ天文ノ學大ニ進ミ其博大精緻既ニ新面目ヲ開キ遂ニ有名ナル凡神論者ブルノ一氏ヲ出スニ至ル蓋シ氏ガ說ノ歸着スル所ハ彼ノ爛然トシテ大空ニ懸ル無數ノ星ハ皆ナ一個ノ世界ニシテ我ガ地球ト異ナルヲナシ然ラバ則チ宇宙萬有ハ無限心意ノ一大發現ニシテ塊然タル物質ト雖モ亦タ皆ナ機體トナリテ生命ヲ發達セントス是ヲ以テ教會僧侶ノ忌諱ニ觸ルハ復タコバルニキユスガリレオ二氏ノ儔比ニアラズ遂ニ

鮮血ヲ流サシメザルハ寛典ナリトテ焚刑ニ處スルニ至ル是レ實ニ地球說軌轢ノ歴史ナリ。

第六 章

第三眞理ノ標準ニ關スルノ軌轢也。夫レ耶蘇一神教ニシテ異說ヲ生ゼズンハ則チ止マシテ。苟モ一タビ異說ヲ生シ甲乙相争フニ方リテハ之レガ是非眞僞ヲ判断スルノ標準ナカル可ラズ。然ルニ最初教會ニ生ズル争論ハ會議ヲ開キ多數ヲ以テ之レヲ議決セシガ。此法後ニ及ンテ亦タ漸ク其弊ヲ生シ世ノ識者ハ皆ナ以テ眞理ノ標準トスルニ足ラザルヲ知ル而シテ異說ノ天下ニ起ル益々熾ンナルヲ以テ之レヲ壓服センガ爲メニ第十三世紀ニ至リテ所謂宗教裁判所ヲ設立シ千四百八十一年ヨリ千八百八年ニ至ル迄異說ノ徒ヲ探查シテ之ヲ罰スル三十四萬人ノ夥キニ達シタリ古今人類ノ最大禍害タル戦争ヲ除キテハ未ダ嘗テ此ハ如ク慘烈ナルモノアラザルナリ。然ルニ羅馬教會ハ獨リ宗教裁判所ノ設立ヲ以テ敢テ足レリトセズラトランノ會議ヲ以テ懺悔解罪法ナ

耶蘇教ト學理ノ軌轢

ルモノヲ發布シ子ヲシテ其父ヲ誣ヘシメ妻ヲシテ其夫ヲ誣ヘシメ奴婢ヲシテ其主人ヲ誣ヘシメ其不信仰ナル者若クハ異說ヲ懷ク者ハ直チニ之ヲ宗教裁判所ニ引キ渡タシテ以テ其罪ヲ問フニ至ル此ニ於テ一家惱々トシテ恰モ敵國ノ中ニアルガ如キ心地セリ。然リ而シテ羅馬教會ハ第十六世紀ノ初ニ至リ更ニ一大醜罪ヲ犯シタリ其レ何ソグヤ所謂赦罪券ノ發賣是也。蓋シ赦罪券ヲ發賣スルノ說ニ曰ク基督ハ一切人類ノ罪ヲ贖ハンガ爲メニ血ヲ流シタリ故ニ基督ノ血ハ即チ人間ノ罪惡ヲ贖フノ權力アルモノナリ。而シテ此券ハ乃チ基督ノ血ヲ印スルモノナレバ此ヲ買フモノハ以テ地獄ノ途ヲ避ク可シ以テ天國ノ門ニ進ム可シト嗚呼物トシテ之ヲ抑壓スル其極ニ達スレバ其反動ナキハ莫シ。彼レ羅馬教會ガ宗教裁判所ヲ設置シ亦タ之ニ繼グニ懺悔解罪法ヲ以テシ更ニ之ニ繼グニ赦罪券ノ發賣ヲ以テスルニ及ンデハ其抑壓既ニ極點ニ達シタリト謂フ可シ此レ豈ニ一大反動ヲ生ゼザルヲ得ン

ヤ。而。シ。テ。知。ル。此。一。大。反。動。ハ。則。チ。彼。ノ。ル。ー。テ。ル。カ。ル。ビ。ン。諸。氏。ガ。慨。然。憤。起。シ。タル。ノ。宗。教。改。革。ニ。外。ナ。ラ。ザ。ル。ナ。リ。

然。リ。而。シ。テ。羅。馬。教。會。ト。新。教。會。ハ。由。リ。テ。分。ル。、最。大。主。腦。ハ。遂。ニ。真。理。標。準。ノ。一。大。問。題。ニ。歸。ス。羅。馬。教。會。曰。ク。真。理。ノ。標。準。ハ。法。王。ニ。在。リ。新。教。會。曰。ク。真。理。ノ。標。準。ハ。バ。イ。ブル。ニ。在。リ。而。シ。テ。理。學。ハ。更。ニ。一。步。ヲ。進。メ。テ。曰。ク。真。理。ノ。標。準。ハ。自。然。ノ。顯。示。ニ。在。リ。ト。

第四。宇宙ノ管理ニ關スルノ軋轢也。夫レ此世界ハ上帝ノ干涉シテ管理スル所ナル乎。將。タ。一。定。不。變。ノ。法。則。ニ。支。配。セ。ラ。ル。、乎。甲。說。ハ。教。會。ノ。信。ズ。ル。所。ニ。シ。テ。乙。ノ。說。ハ。理。學。ノ。執。ル。所。ナ。リ。蓋。シ。上。帝。ハ。全。能。ナル。宇。宙。萬。有。ノ。管。理。者。ニ。シ。テ。事。々。物。々。ノ。變。化。運。動。一。ツ。ト。シ。テ。其。意。ニ。由。ラ。ザ。ル。ハ。ナ。シ。故。ニ。積。誠。ヲ。以。テ。祈。禱。ス。レ。ハ。其。恩。寵。ヲ。被。ル。可。シ。ト。ハ。耶。蘇。一。神。教。ノ。定。理。ト。ス。ル。所。ナル。ヲ。以。テ。其。勢。自。ラ。甲。說。ヲ。信。ゼ。ザ。ル。ヲ。得。ズ。然。ル。ニ。近。世。理。學。ハ。一。步。ヲ。進。ム。ル。毎。ニ。宇。宙。萬。有。ハ。一。定。不。變。ノ。大。法。ニ。ヨ。リ。テ。支。配。セ。

ラル、ハ事實ヲ證明セザルハナシ。蓋シケプレル氏始メテ行星ノ運動ニ關スルノ法則ヲ發明シガリレオ氏動ノ三則ヲ發明シニユートン氏又。タ。此。三。則。ヲ。以。テ。天。體。ニ。適。用。シ。テ。大。陽。系。統。ノ。大。小。距。離。運。動。ヲ。解。說。シ。ヘ。ル。シ。エ。ル。ラ。プ。ラ。ス。二。氏。此。結。局。ヲ。推。シ。テ。星。霧。說。ヲ。唱。ヘ。天。文。地。質。ノ。說。愈。々。進。步。シ。テ。遂。ニ。萬。有。進。化。ノ。一。大。主。義。嶄。然。ト。シ。テ。頭。角。ヲ。見。ハ。シ。彼。ハ。萬。物。ノ。變。化。ス。ル。所。以。植。物。ノ。榮。枯。ス。ル。所。以。動。物。ノ。生。死。ス。ル。所。以。社。會。ノ。盛。衰。ス。ル。所。以。ニ。至。ル。迄。盡。ク。之。ヲ。器。械。的。ニ。說。明。シ。盡。ク。之。ヲ。數。理。的。ニ。推。測。ス。ル。ニ。至。リ。テ。ハ。宇。宙。萬。有。一。定。不。變。ノ。大。法。ニ。ヨ。リ。テ。支。配。セ。ラ。ル。ハ。ノ。真。理。ハ。殆。ン。ド。復。タ。爭。フ。可。ラ。ズ。故。ニ。羅。馬。教。會。ハ。此。等。理。學。ノ。新。主。義。ニ。向。ツ。テ。ハ。大。ニ。反。對。ス。ト。雖。モ。復。タ。昔。日。ノ。如。ク。神。權。ト。腕。力。ト。ヲ。利。用。シ。テ。之。レ。ガ。撲。滅。ヲ。試。ミ。ル。能。ハ。ズ。而。シ。テ。宗。教。改。革。ノ。健。兒。タル。カ。ル。ビ。ン。氏。ノ。如。キ。ハ。新。主。義。ノ。爲。メ。ニ。感。化。セ。ラ。レ。所。謂。神。意。豫。定。ノ。說。ヲ。唱。ヘ。テ。舊。教。ノ。定。理。ニ。反。對。ス。ル。ニ。至。ル。真。理。ノ。忍。耐。ニ。シ。テ。勢。力。ア。ル。一。時。ニ。屈。ス。ト。雖。モ。遂。

ニ結局ノ勝利ヲ制ス。此レ豈ニ明證ニアラズヤ。
 此ノ如クシテ。理學ハ徒ニ智識世界ヲ一變スルノ勢力アルノミナラズ。
 經濟世界ニ於テモ亦タ燦爛輝光アル勲業ヲ顯ハシ。之ガ爲メニ生産ヲ
 進メ。之ガ爲メニ實利ヲ生シ。其學理ヲ技術ニ發明ニ機關ニ製造ニ適用
 シテ殆ソド新天地ヲ開キ來ルニ及ンデハ。理學ノ人類ニ恩惠ヲ與フル
 世界何物カ以テ之レニ比スルヲ得。而シテ之ニ反對シ之ニ抵抗シ
 之ヲ壓服シ之ヲ迫害シタルノ宗教ニシテ信仰ヲ失スルニ至ルハ亦タ
 自然ノ理ナリト謂ハザルヲ得ズ。此ニ於テ羅馬教會ハ早クモ天下ノ大
 勢日ニ我が神學ニ反對シ。異端不信ノ徒月ニ増如スルノ勢アルヲ察シ。
 千八百六十九年(距今二十一年前)ヲ以テ羅馬府ニ教會大會議ヲ開キタ
 リ。此レ所謂「バチカン會議」ナリ。而シテ今マ此會ニ於テ議決シタル破宗
 條款ナルモノヲ舉レバ。曰有形無形一切萬有ノ創造者タル真正ノ上帝
 アルヲ否ム者曰物質ノ外一物ナシト主張スル者曰上帝ノ本質モ萬

物ノ本質モ同體ナリト云フ者曰有限物ノ形體精神ハ上帝ヨリ發現シ
 又タハ神體發達シテ萬物ト現ハルト言フ者曰宇宙萬有ハ上帝ハ之レ
 ナ無ヨリ創造スト言フヲ信セザル者曰人間ハ其自己ノ力又ハ社會
 ノ進步ニ由リテ至眞至善ノ域ニ到達スト言フ者曰「トレント會議」ニ於
 テ定メタル規則ニ從ヒ「ハイブル」ハ神命ニ出デズトスル者曰人間ノ理
 性ハ獨立不羈ノ權力ヲ有シ上帝ト雖モ之レヲ信セザル所ヲ信
 ゼシムル能ハズト言フ者曰顯示ハ外證ヲ以テ信セシムル能ハズト言
 フ者曰奇跡ハ行ハルハノ理ナシ又タ奇跡ノ證ハ確實ナルモノニアラ
 ズ又タ耶蘇教ノ上帝ニ出ルヲ奇跡ヲ以テ證明ス可ラズト言フ者曰
 顯示ハ秘義ヲ有スルモノニアラズ又タ道理ヲ以テ解說ス可シト言フ
 者曰理學ハ顯示ニ反對スルモ途ニ眞理ト認メラル、ノ精神ヲ以テ之
 ナ講究ス可シト言フモノ曰理學ノ進步スルニ從ヒ教理ハ現時教會ガ
 解釋スルヨリモ他ノ意義ヲ以テ解釋セラル可シト言フ者是也。

嗚呼羅馬教會ガ此條款ヲ發スル豈ニ偶然ナランヤ。試ニ看ヨ。此破宗條款ナルモノハ、第十九世紀思想發達ノ傾向ヲ歷々トシテ摸寫スルヲチ、此思想發達ノ傾向ハ、理學哲學ノ結果ナルヲチ、亦タ此大勢ハ、教會ノ基礎ヲ震撼スルノ一大勢力アルヲチ、蓋シ彼ノドレーバー氏ハ、羅馬帝國顛覆ノ後ヨリ、第十五世紀ニ至ル迄チ、以テ信仰的ノ時代トシ、十五世紀以後チ、以テ道理的ノ時代トセリ、而シテ孰レカ知ラン、其所謂信仰的ノ時代ナルモノハ、即チ一神教ノ時代ニシテ、道理的ノ時代ナルモノハ、即チ凡神教ノ時代ナルヲ。

第七章 宗教改革ノ結果

止レ。光リ止レ。永遠不變ナル上帝ト共ニ止レ。上帝一言シテ光リハ赫灼トシテ世界ヲ照ラシタリ。來レ。萬色來レ。變々化々スル萬色ハ萬物ヲ寫シテ吾人ニ觀セシメヨト。嗚呼此レシルレルガ光ト色トヲ詠シタルノ詩也、而シテ其光リト共ニ止リテ去ラザルモノハ、何ゾヤ。其色

ト共ニ來リテ照ラスモノハ、何ゾヤ。

若シ吾輩ガ發明シタル宗教進化ノ大法ニシテ眞理ナラシメバ、吾輩ハ此通則ヲ以テ現時文明ノ世界ニ適用シ、以テ宗教上ノ現象ヲハ解釋セザル可ラズ。於此乎吾輩ハ先ヅ前章ニ於テ宗教ト理學トノ軋轢ヲ叙シ、此軋轢ノ結果ハ理學勝利ヲ占メテ宗教敗績ヲ取リタルノ結果ナルヲ示シタリ。然ルニ今ヤ吾輩チシテ一步ヲ進メテ之ヲ論セシメノカ、吾輩ハ既ニ敗績ヲ取リタルノ耶蘇教ハ愈々信仰ヲ失シ、亦タ勝利ヲ占メタルノ理學ハ愈々凡神教ニ傾向セントスルノ勢アリト斷言スルノ外ナカ、ル可シ、而シテ之ガ明證ヲナスモノハ、乃チ彼ノ破宗條款ニアラザルカ、然リ而シテ世ノ論者或ハ吾輩ノ說ヲ駁シテ云ハントス。彼ノ宗教ト理學トノ軋轢ナルモノハ、ドレーバー氏モ自ラ言ヘルガ如ク、羅馬教ト理學トノ軋轢ニシテ新教ト理學トノ軋轢ニアラズ。蓋シ羅馬教ナルモノハ、彼ガ如ク現時文明ノ精神ニ反對シ、彼ガ如ク理學哲學ノ進歩ニ反對

第七 章

スルヲ以テ。遂ニ人文發達ノ大勢ニ背馳シ。漸次信仰ヲ失シ衰頽ヲ招クニ至リタルヲハ。天下有識ノ士カ深ク知ル所ナリト雖モ。幸ナル哉今ヤ羅馬教廢スト雖モ。新教興ル其勢恰モ大陽ノ正サニ中スルガ如シ。然ラバ彼ノ宗教ト理學トノ軋轢ニ由リテ信仰ヲ失スルモノハ羅馬教ナリ。新教ニアラザルナリ。更ニ之ヲ詳説スレバ。現時文明ノ精神ニ反對シ。理學哲學ノ進歩ニ反對スルモノハ羅馬教ナリ。新教ニアラザルナリト。果シテ或説ノ如クナラシムルキハ。吾輩ガ宗教進化ノ大法。即チ歐洲ニ於テ耶蘇教ガ衰運ニ赴カントスルノ一大原因ハ。一神教ノ時代既ニ去リテ凡神教ノ時代將サニ來ルニ在リトスルノ説ハ。假令論理ノ基礎ヲ覆ヘスニ至ラズトスルモ。大ニ其價值ヲ減セザルヲ得ザルナリ。然レモ。試ニ彼ノ宗教改革ノ結果如何ヲ極メテ精細ニ調査セヨ。吾輩ガ主張スル宗教進化ノ大法ハ。益々將サニ其確固不拔ナル一大真理タルヲ證明スルモノアラントス。

宗教改革ノ結果

抑モ宗教改革ナルモノハ。羅馬教會ノ反動ニ出デタルヲハ。何人ト雖モ明知スル所ナラン。然レモ其適切ナル原因ニ至リテハ。實ニ異説紛々タルヲ免レズ。蓋シ社會ノ表面ニ現ハル、重大ナル事變ナルモノハ。其原因毎ニ複雑ナルモノニシテ。若シ仔細ニ分拆スルキハ。遠因アラン近因モアラン。主因モアラン伴因モアラン。其他種々ノ原因種々ノ事情相集合シテ。一大事變ヲ組織スルモノナリ。然ルニ黨派偏僻ノ見ヲ懷キタル論者ガ。極メテ我方ニ便利ナル一ノ原因ヲ認メテ。一大重因トナシ。誇張幻惑ノ手段ヲ運ラシテ。往々事實ヲ誤ルモノハ。歴史家批評家ニ免レザルノ弱點ナリト謂フ可シ。左レバ彼ノ宗教改革ノ如キモ。羅馬教徒ガ論ズル所ニ從ヘバ。當時教會ガ赦罪券ノ發賣ヲ以テルーテルニ委任セザルヲ以テ。彼カ媚嫉ヲ惹キ起シ。遂ニ彼レヲシテ咄々怪事ヲ激成セシメタリト云ヒ。新教徒ノ論ズル所ニ依レバ。此改革ノ目的ハ。全ク羅馬教會ノ腐敗ト弊害トを一掃スルニ在リト云フ。然ルニ更ニ識見濶大ナル史

家ギブー氏ノ如キハ之ヲ論シテ曰ク余ガ所見ヲ以テスレバ宗教改革ナルモノハ決シテ彼ガ如ク偶然ノ結果ニアラズ又彼ガ如ク一時ニ生シタルモノニアラズ又徒ニ宗教改良ヲ目的トシテ生シタルモノニアラズ乃チ余ガ所見ヲ以テスレバ人心其自由ヲ發達センガ爲メナリ他望ヲ達センガ爲メナリ束縛セラレタル道理ヲ禁獄ヨリ脱出セシメンガ爲メナリ宗教ノ壓制ニ逆フテ暴起シタル人心ノ謀叛也ト眞ニ然リ然リ而シテ此思想運動ノ大勢ヲ驅リテ此ニ赴カシメタルモノヲ以テ其源因耶蘇教以外ニ在リトセバ其結果モ亦チ必ズ耶蘇教以内ニ止ル不能ハズ更ニ之ヲ詳説スレバ此思想運動ノ大勢一神教ヲ進メテ凡神教トスルノ大勢ナリ故ニ宗教改革ハ一神教ヲ一變シテ凡神教トナスニアラザレバ假令區々ノ教理ヲ改革シタリトテ焉ンゾ能ク耶蘇教ヲ再生復活スルヲ得ンヤ然レモ全然一神教ヲ一變シテ凡神教トナセ

ハ是レ既ニ改革ニアラズシテ革命ナリ嗚呼革命ニアラザレバ焉ンゾ能ク第十九世紀思想運動ノ大勢ヲ満足セシムルヲ得ンヤ故ニ吾輩ハ進ンデ宗教改革ノ結果ニ就ヒテ直チニ觀察ヲ下サントス蓋シ宗教改革ナルモノハ耶蘇教ノ範圍内ニ運動シタルノ改革ナリ故ニ其耶蘇教ノ腐敗ト弊害トチ一掃シタルノ功業ハ固ヨリ掩フ可ラズト雖モ其教理ニ就テ之ヲ言ヘハ新教ト雖モ羅馬教ノ上ニ著明ナル進歩ヲナシタルヲ見ズ只羅馬教ノ近世學術ニ於ケル之ヲ敵視シ新教ハ頗ル之ト相調和スルガ如シ然レモ止リテ進マザルモノハ耶蘇教ナリ動ヒテ進ムモノハ學術ナリ故ニ一ノ調和既ニ成レバ一ノ軋轢亦チ生シ到底雙方ノ調和ハ得テ望ム可ラズ例ヘバペーリー氏ガ自然神學ノ如キハ又チ善ク學術ト調和シタルモノナリト謂フ可シ然レモ進化主義一タビ出ルニ及ンデハ新ニ亦チ學術ト軋轢ヲ開カザルヲ得ズ然ルニ近頃新教ノ學者ハ亦チ之ト調和シテ曰ク進化主義モ亦チ必ズシモ

第七 章

耶蘇一神教ニ反對スルモノニアラズト然レモ進化主義ノ最モ博大ニ最モ精緻ニ組織セラレタルスペインセル氏ノ説ノ如キニ至リテハ新教學者ト雖モ必ズ既ニ調和ノ術ニ窮スルナラン之ヲ要スルニ羅馬教ハ始メヨリ學術ト調和セズ新教ハ頗ル之ト調和スルヲ以テ其間大ニ得壞懸隔ナキヲ能ハズ然リ而シテ新教ト雖モ既ニ宇宙創造説人類墮落説ヲ拋棄セザル以上ハ到底學術ト調和スル能ハズ若シ強ヒテ之ヲ拋棄スルキハ一神教ヲ一變シテ凡神教トナスニアラザレバ能ハズカレハ宗教改革ノ大先達タルカルビンハ學士セルベチニテ焚殺シルルテルハアリストツルヲ罵リテ彼レハ人類ノ最モ恐ル可キ欺騙者ナリ大膽ナル虛喝家ナリ暗國ノ王ナリ惡魔ナリ猛獸ナリト叫ンザルモ亦タ故ナキニアラザルナリ

左レハ吾輩ハ宗教改革ノ結果ニ就ヒテ二個ノ事實ヲ發明シタリ一ハ羅馬教新教信徒ノ數ヲ比較シテ宗教改革ノ勢力ハ世人ガ想像スル程

宗教改革ノ結果

ニハ廣大ナラザル一ハ新教ハ夥多ナル教派ヲ生シ分裂乖離ノ傾向益々熾ンナルト是也夫レ羅馬教ガ現時文明ノ精神ニ反對シ理學哲學ノ進歩ニ反對スルヲハ新教徒ト雖モ必ズ明言スル所ナラン亦タ從來古風ノ信仰ヲ維持シ誕怪ナル神學ヲ講説シ迷妄ナル儀式ヲ墨守スルモノハ羅馬教ニ次ヒテハ必ズ希臘教會ナラン然ルニ歐洲各國ニ於テ埃太利西班牙葡萄牙伊太利ノ如キハ猶ホ羅馬教會ヲ以テ國教トシ魯西亞希臘二國ノ如キハ猶ホ希臘教會ヲ以テ國教トスルニアラズヤ凡ソ世界耶蘇教信徒ノ數ハ三億數千萬ナリトス然ルニ其中ニ就ヒテ最モ多數ナルモノハ羅馬教會ニシテ壹億五千二百萬ノ信徒ヲ有シ之ニ次グモノハ新教各派ニシテ壹億ノ信徒ヲ有シ又タ之ニ次グモノハ希臘教會ニシテ七千五百萬ノ信徒ヲ有ス故ニ若シ羅馬教會ト希臘教會トヲ合スルキハ新教各派ハ僅ニ其三分ハ一ニダモ値ヒセザルニアラズヤ而シテ試ニ一考セヨ新思想新學術ノ氣運ハ社會ニ政治ニ教育ニ

第

七

章

法律ニ習慣ニ思想ニ經驗ニ沿々トシテ洪水ノ如ク殆ンド世界ノ全面
ヲ掩ハントスルハ今日ニ於テ理學哲學ノ一大仇敵者タル羅馬教會希
臘教會ニシテ多數ヲ占ムルヲ斯ノ如シ其將來人心ノ信仰ニ起ル一大
變動ハ果シテ如何ンゾヤ

若シ果シテガルビンルーテル二氏ガ宗教改革ヲ唱道スルノ日ニ方リ
テ世界各國ノ耶蘇教會響ノ如ク之ニ應シ現時新教ノ如クナリトモ宗
教ト學術トヲ調和シ其教理ヲ一變シテ進歩改良ヲ圖ルアラバ吾輩ハ
宗教改革ノ勞力誠ニ廣大ナルニ感服シ耶蘇教ノ前途ヲ以テ猶ホ幾分
カ將來ニ望ミアリトセズンバアラズ然ルニ新教ト舊教トヲ比較スレ
バ彼ガ如シ而シテ新教各派ガ其前途ニ向ツテ失望ニ堪ヘザルコトハ更
ニ舊教ノ比ニアラザルモノ有リ彼レ宗教改革ノ先達ガ「タビハイブ
ル」ヲ解釋スルニ各個人ノ道理ニ權威ヲ與ヘテヨリ遂ニ人々意ニ從ツ
テ聖書ヲ解シ其見解稍々異ナレハ教派ヲ別ツテ相軋乖離シ分裂ハ

宗 教 改 革 ノ 結 果

極殆ンド將サニ其底止スル所ヲ知ラザルニ至ラントス蓋シ宗教改革
ガ羅馬教會ニ對シテ利益アル影響ヲ及ボシタルコトハ今日ニ在リテハ
羅馬教徒ガ既ニ承認スル所ナリ然レモ之ガ爲メニ種々無數ノ各派ヲ
生シ之レガ爲メニ互相軋轉シテ壞疑不信ノ徒ヲ増殖シ之ガ爲メニ同
胞一體ナル教會ヲ分裂シテ平和友愛ノ連鎖ヲ破ルニ至リテハ羅馬教
徒ガ飽迄駁撃スル所ニシテ新教徒ト雖モ願フニ此駁撃ニ對シテハ之
レヲ辨解スルニ言詞ナキヲ苦ムナラン

今ヤ全世界ニアル新教各派ハ其數幾何ナル乎蓋シ精密ニ之レヲ調査
スルハ甚ダ難事ナル可シ所謂「ガルビニスト」ト云ヒ「アルミニアン」ト云
ヒ「バアツクステリアン」ト云ヒ「アンチノミアン」ト云ヒ「アリアン」ト云ヒ
「ユニテリアン」ト云ヒ「エビスコパリアン」ト云ヒ「インデペンデント」ト云
ヒ「セシードル」ト云ヒ「ブローニスト」ト云ヒ「クエカル」ト云ヒ「ユニバ
ルサル」ト云ヒ此等ノ名目タル通常世人ガ熟知スル所ニシテ宗中

第七 章

更ニ宗ヲ生シ派内更ニ派ヲ分テ今日ニ至リテハ殆ンド幾百派アルヲ知ラズ僅々大英一國ノ版圖ニ於テサヘモ新教各派ノ數ハ既ニ百有餘派ニ達セリト此夥多ナル新教各派ガ各旗幟ヲ樹テ獨立分裂スルノ狀況ハ恰モ封建世界ニ於テ千百ノ世界ヲ現出シタルガ如シ而シテ其相互ノ關係ヨリ生ズルモノハ反對トナリ確執トナリ不和トナリ嫉妬トナリ怨恨トナリ仇視トナリ軋轢トナリ將サニ耶蘇教道德ノ精神タル同胞博愛ノ主義ヲシテ足下ニ蹂躪スルニ至ラントス左レバ耶蘇教ヲ以テ世界平和ノ源ヲラシメ普ク其愛ト光トヲ普及セシメテ四海波靜ナラシメント熱望シタルト一マスギツク氏ノ如キモ此點ニ就ヒテハ殆ンド痛歎ト失望トニ堪フルヲ能ハズ曰ク耶蘇教ノ最優ナル真理ヲ世界ニ知ラシムルノ方法タル只其感化ノ結果ヲ以テ之ニ示メスニ外ナラズ然ルニ今ヤ新教各派ハ相愛セズシテ相嫉ミ相和セズシテ相憎ミ相協同セズシテ相軋轢ス此ノ如キハ有様ヲ以テ不信者ヲ誘シテ其

宗 教 改 革 ノ 結 果

教ニ歸セシメント欲セハ不信者ハ必ズ云ハシ汝等先ヅ相互ニ和セヨ然ル後ナニ吾儕ハ汝等ノ教理ニ就ヒテ考フル所アランノミト然ラバ則チ今日ニ方リテ不信ノ徒ヲ増殖スルノ原因ハ此各教派ノ分裂ニアラズシテ何ソアヤトギツク氏ノ言誠ニ情實ヲ穿テテ明快痛切ナリト謂フ可シ吾輩亦タ何チカ言ハシヤソレ結合スルモノハ進化ノ始メナリ分裂スルモノハ溶化ノ始ナリト云ヘル原則ヲシテ果シテ誤ナラシメハ吾輩ハ此原則ヲ適用シテ新教各派ノ將來ヲトスルヲ猶豫セザル可シ然リ而シテ宗教改革ノ結果ヲシテ斯ノ如ク失望ノ極ニ出デシメタルモノハ必ズ一大總括的ノ原因ナクシテハアラズ吾輩ノ所見ヲ以テスレバ一大總括的ノ原因トハ蓋シ他ニアラズ即チ宗教進化ノ大法是也

第八章 耶蘇教ノ前途

吾輩ガ過去若クハ現在ノ現象ニ就ヒテ耶蘇教盛衰ノ大勢ヲ論ズル所

ハ實ニ前段ノ述ブル所ニ過ギズ。若シ又タ一步ヲ進メテ其前途ヲ觀察スルコトヲ得バ。愈々將サニ其將來命運ノ歸着スル所ヲ知ルニ足ラントス。然リ而シテ今日吾輩ハ千萬里外ノ世界ヲ窺フノ望遠鏡ヲ有スルモ。未ダ將來ヲ察スルノ利器ヲ有セザレバ。將來ノ事モ亦タ過去若クハ現在ノ現象ニヨリテ之ヲ推測スルノ外ハアラザル可シ。然ラバ則チ將來ノ事ハ如何シテ推測ス可キ乎。

凡ソ自然運動ノ大法タル。外力ノ障礙ニ遭ハザルキハ。一タビ運動シタル物體必ズ其運動ヲ止メザル可シ。又タ方サニ運動スルノ物體ト雖モ。外力ノ障礙ニ遭フキハ。其抵抗ノ強弱ニ應ジテ或ハ其方向ヲ變ジ。或ハ其速度ノ度ヲ減シ。或ハ全ク其運動ヲ止ムルニ至ル可シ。今ヤ吾輩ガ事物未然ノ大勢ヲ豫察スルモ。亦タ豈ニ此自然ノ大法ニ由ラザルヲ得ンヤ。夫レ耶蘇教モ亦タ將來ニ向ツテ運動スルモノナリ。夫レ外力ニシテ之レニ抵抗スルモノアラズンバ。其進歩ノ大勢モ亦タ未ダ測ル可ラ

第八章

耶蘇教ノ前途

ザルモノアラズ。然レモ耶蘇教ハ不幸ニシテ障礙ヲ有スルモノナリ。而シテ此障礙タル其勢力漸次ニ増加セントスルモノナレバ。其耶蘇教ノ進歩ニ抵抗スル益々強大ナルニ至ル可キハ言ヲ待タズ。更ニ之ヲ詳説スレバ。耶蘇教ハ此外力ノ爲メニ障礙ヲ被ルモ。此外力ハ未ダ他ノ障礙ヲ被ルヲ見ザルナリ。

然ラバ則チ耶蘇教ノ障礙タル外力トハ如何ナルモノナルカ。即チ耶蘇教ニ反對スルノ感情。傾向。理論ヲ指シテ之ヲ總稱スルモノニシテ。其源因一ナラズ。故ニ其耶蘇教ニ反對スルノ方法モ亦タ同ラズ。然リ而シテ吾輩ノ所見ヲ以テスレバ。近日歐米ニ起ル政治社會上ノ一大問題タル社會主義ノ如キモ亦タ其耶蘇教ノ進歩ニ抵抗スル一大障礙タルヲ信ズル也。抑モ社會主義ノ歐洲ニ生ズル數世紀ノ前ニ在リト雖モ。其最モ氣鋭ヲ生ジ其蔓延最廣クシテ。冥々ノ裡ニ漸ク將サニ社會ヲ動カスノ一大勢力トナリ。世ノ識者ヲシテ杞憂ニ堪ヘザラシムルニ至ラントス

ルモノハ實ニ第十九世紀ノ一大現象ナリト稱セザルヲ得ズ蓋シ現時
 文明ノ世界ニ於テ政治上ノ重要ナル問題ハ勞力社會ニ若クモノハナ
 カル可シ而シテ此勞力社會ノ問題ト社會主義ノ問題トハ頗ル密着シ
 テ其關係殆ソド解シ可ラズ然ルニ此社會主義ナルモノハ不幸ニシテ
 無神的方向運動ニ出デ、其耶蘇教ニ反對スルノ一大勢力タルヲハ
 實ニ亦タ著明ナル事實ナリトス試ニ彼ノ一千八百七十年萬國連合社
 會黨ガ伯林ニ於テ開キタル會議ヲ看ヨ有名ナル魯國虛無黨ミカヘル
 ハツクニシテ其主義ヲ代表シテ吾儕ノ會盟ハ無神的方向運動ナリ故ニ
 斷然耶蘇教ヲ廢シ學術ヲ以テ之ニ代フ可シト明言シタルニアラズヤ
 ウルジ一氏曰ク現時基督教國ニ蔓延スル社會主義ナルモノハ耶蘇教ノ
 教理ヲ取ルモ其事實ハ之ヲ捨テ、取ラズ又タ曰ク佛國ノ思想家及ビ
 社會主義ニ傾向スルノ學士ハ全ク耶蘇教ヲ拋棄セリ又タ曰ク日耳曼
 社會黨モ亦タハイナルトルニテ信仰ヲ棄テ、信セズト而シテ

此社會主義ガ耶蘇教ニ反對スルノ思想感情ハ果シテ如何ナルモノナ
 ルカヲ了解セシト欲セバ氏ガ引證シタル彼ノ佛國社會主義ノ泰斗ニ
 シテ而カモ凡神教ノ曉星トモ稱ス可キル、一氏ノ言ヲ聞ケヨ蓋亦思
 半ニ過ルモノアラソ其言ニ曰ク

耶蘇教ノ始メテ世界ニ現出スルヤ頗ル眞理ヲ含蓄シタリ特ニ中
 世ノ頃ニ在リテハ世道人心ノ進歩ヲ援ケタルノ功業ハ顯赫ナリ
 ト謂フ可シ然ルニ宗教改革ノ後ニ及ソテハ其精神元氣既ニ消亡
 衰耗シ再タビ歐洲思想ノ運動ヲ駕馭スル能ハズ今日ニ至リテハ
 全ク既ニ死シタリ其猶ホ存スル所ハモノハ獨リ塊然タル屍骸ナ
 ランノミ然ラハ則チ今ノ時ニ方リテ耶蘇教ニ代リテ新宗教ヲ建
 設ス可キモノハ哲學ニアラズシテ何ソグヤ

又タ氏ガ哲學家政事家工藝家ニ訴フルノ文ニ曰ク
 今ノ時ニ方リテ此地球上ニ望ム可キモノハ金銀ノ如キ貨財ノ如

キ實物ノ外ハアラザルナリ。故ニ呼吸シテ生息スル所ノモノハ。天下萬人皆ナ我ニ此金銀ヲ分配セヨ。此貨財ヲ分配セヨト云フノ權利アラザルハナシ。時ニ社會ノ監視者ハ答ヘテ曰ク。富ノ分配ハ現時ト雖モ既ニ行ハレタルニアラズヤ。曰ク富ノ分配全ク行ハレズト言フニ非ズ。只其分配ノ宜ヲ得ザルヲ奈何セン。監視者曰ク。然ラハ今日ニ至ル迄汝ガ現社會ノ組織ニ満足シタルモノハ何ソゾヤ。曰ク吾儕ガ嚮キニ現社會ニ満足シタルモノハ。天ニマシマス上帝アリ樂ム可キノ天國アリ。又タ怖ル可キノ地獄アリタレハナリ。且ツ我が君主ガ此社會ヲ支配スルヤ。其支配ノ權ハ上帝ヨリ來ルト。且ツ社會ニ於テハ。萬人不平等ナルモ。教會ニ於テハ。萬人平等ナリ。皆ナ天父ノ子ナリト。又僧侶輩ハ必ズ吾儕ヲ案内シテ天國ニ引導セシト約束スルヲ以テ塵寰欲界ノ紛々擾々タルハ。曾テ念頭ニ懸ケザリシナリ。然ルニ今ヤ吾儕ハ萬事ヲ失シタリ。教會ハ去レリ。天國ハ望ハ絶チタリ。奈何トナレハ。汝ガ基督ハ一ノ欺騙者タルヲ證明シタレハナリ。然ラザレハ。汝ハ何ソゾ天下萬事ヲシテ盡ク金銀貨財ヲラシメテ。然ル後チニ止マントスルヤ。

抑モ社會主義ナルモノハ。果シテ不祥ノ現象ナルヤ。將タ將來ハ如何ナル奇局ヲ演ズルニ至ルヤ。此等ハ姑ク他ノ問題ニ譲ルトスルモ。現時ニ在リテ其猖獗ノ勢ハ一日ヨリ熾ンナリト謂フ可シ。然ルニ彼等ガ耶蘇教ニ對スルノ情況ヲ察スレハ。恰モ其無情ヲ怨ムガ如ク。又タ其不平ヲ訴フルガ如ク。到底彼等ハ耶蘇教ヲ以テ現社會ノ憐ム可キ悲惨ナル境遇ヲ一變シ。更ニ最大福祉ノ天國ヲ。此地上ニ實施スルガ如キ。前途ノ望チ生ゼシムルノ勢力アルモノニアラズト見限リタルモノハ。如シ左レハ社會主義ノ耶蘇教ヲ拋棄スルハ理論ヨリモ寧ロ其實際ヨリ來ルト謂ハザルヲ得ズ。然レモ吾輩一步ヲ進メテ其理ヲ考フルニ。耶蘇一神教ノ信仰ヲ失スルハ。元來理哲ニ學ノ理論ニ反對スルニヨル。理哲ニ

第八 章

學ノ理論ニ反對スルハ社會人心ノ信仰ヲ失スル所以ニシテ。既ニ一
 ビ其信仰ヲ失スレバ。從ツテ其實際ノ感化ヲ失セザルヲ得ズ。既ニ實際
 ノ感化ヲ失スレバ。決シテ亦タ社會ヲ改良シ將來ニ向ツテ一層善美ナ
 ル新世ヲ開クノ實力アルヲナシ。故ニ理論ニ於テ敗績ヲ取ルハ其源因
 ニシテ。實際ニ於テ勢力ヲ失スルハ其結果ナリト謂ハザルヲ得ズ。而シ
 テ因々果々互ニ相生シ。展轉反覆窮リ無キモノハ。亦タ事物自然ノ勢ニ
 シテ怪ムニ足ラザルナリ。
 然リ而シテ此社會主義ノ如キモ。亦タ耶蘇教ニ反對スル一ノ抵抗力タ
 ルニ過ギザルノミ。若シ現時文明ノ世界ニ於テ。其他耶蘇教ニ反對スル
 種々異様ノ傾向ヲ逐一列舉セント欲セバ。固ヨリ指ヲ屈スルニ違アラ
 ズ。因リテ吾輩ハ此ニ獨リ有名ナル耶蘇教家ホレースブッシュマン氏(ナチ
 ユラルエンドシユボルナチユラルト題スル冊子ノ著者)ノ説ヲ以テ。
 此耶蘇教ニ反對スル種々異様ノ傾向ヲ示サント欲ス。蓋シ氏ハ熱心ナ

耶蘇教ノ前途

ル耶蘇一神教ノ辨護者ナレバ。耶蘇教ノ弱點ヲ掩フガ爲メニハ十分注
 意ヲ加ヘタルハ言ヲ待タザル所ニシテ。吾輩亦タ氏ノ説ヲ引證スルハ
 不公平ノ譏ヲ避ルガ爲メニ極メテ利益ナリトス。
 プッシュマン氏曰ク。今ヤ我が耶蘇教ハ實ニ八面圍攻ノ敵中ニ在ルガ如
 シ。基督敎世界人心ガ不信ノ點ニ傾向スルヲ。恰モ地球ノ重力ガ其表面
 ニ萬物ヲ引着スルガ如シ。故ニ其現ハレテ耶蘇教ニ反對スルモノハ千
 態萬狀勝ケテ數フ可ラズ。然レモ其最モ著明ナルモノヲ舉レバ(甲)無神
 論也。彼ノヒューム及ビ佛國理學者等ガ唱道シタル無神論ハ其遺響猶
 ホ存シテ今日ト雖モ未ダ其跡ヲ絶タズ。此無神論ハ時トシテハ理論ト
 ナリテ現ハレ。時トシテハ嘲罵トナリテ現ハレ。時トシテハ新哲學ヲ裝
 フテ現ハレ。ホッブス。ヒュームトシテ既ニ去レバ。コントトナリテ復タ
 現ハレ。其形態ハ消極的タリ。積極的タルヲ問ハズ。理論的タリ。嘲罵的タ
 ルヲ論セズ。其歸着スル所ヲ論ズレバ。遂ニ超性ノ信仰ヲ以テ道理ニ合

第

八

章

セズトスルニ外ナラザルナリ。(乙)凡神論也。蓋シ凡神論ノ原則トスル所ハ神ト萬有トヲ以テ同體不離ナリトシ宇宙ノ存在及ヒ其歴史ヲ以テ神ノ發達若シハ自覺トスルニ外ナラズ故ニ此論ニ據レバ宇宙ノ外ニモ宇宙ノ上ニモ奇跡ヲ演ズルノ神力アルコトナシ。而シテ所謂顯示ハ則チ自然ノ發達ニ外ナラザルナリ。(丙)實利主義也。ソレ實利主義ナルモノハ人間凡百ノ行爲ハ皆チ生物機關ノ結果ナルヲ以テ快樂苦痛ノ感覺コソ則チ倫理ノ大本ナリトスルニアラズヤ故ニ此主義ニ於テハ道德上宗教上ノ義務ナルモノハ上帝ヨリ來ルモノニアラズシテ宇宙物質ノ秩序ヨリ生ズルモノトシ其勢遂ニ耶蘇教ヲ以テ哲理ノ比喩トスルニ至ル。而シテ世ノ此主義ヲ尊奉スルモノハ表面ヨリ耶蘇教ニ反對セズト雖モ其裡面ニ耶蘇教ノ信仰ヲ滅ズルニ至リテハ殆ンド憂フルニ堪ヘザルモノアリ。(丁)ユニテリアン派也。蓋シ此派ハ自ラ耶蘇教徒ト稱シ或ハ熱心ニ奇跡ノ眞理ヲ證明スルモノアリト雖モ人類墮落ノ說

耶蘇教ノ前途

ヲ許サバ爾ヲ以テ耶蘇超性教ノ必要ヲシテ殆ンド其價值ヲ失セシメ拯救ヲ以テ發達ト解シ去リ世界因果ノ理ハ自ラ善惡賞罰ノ組織アリト主張シテ贖罪ノ說ヲ無用視スルニ至ルガ如キ。一ツトシテ耶蘇教理ノ精神ニ反對セザルハナシ。(戊)社會學派也。此派ノ說ニ曰ク人性ハ本ト宇宙自然ノ秩序ニ從ツテ圓滿幸福ニ達ス可キモノナリ。然レモ現時ノ如キ不幸福禍害ノ境遇ニ陥リタルモノハ人性自然ノ理ニ從ツテ社會ヲ組織セザルガ故ナリ。抑モ人間ノ知利私欲タル譬ヘハ猶ホ天地ノ間ニ行ハル、重力ノ大法ノ如シ。宇宙萬有ハ此ニ由リテ其秩序ヲ正シ。此ニ由リテ地位ヲ保チ。此ニ由リテ天地位シ。此ニ由リテ萬有育ス。故ニ私利私欲ノ人性ニ放任シテ新社會ヲ組織スルホハ耶蘇超性教ヲ待タズシテ世界人類ハ自ラ圓滿幸福ニ達ス可シ。(己)傳氣術是也。此術ヲ脩ムルモノハ電氣磁石ノ傳感作用ニヨリテ種々ノ奇跡ヲ演シ。遂ニ耶蘇基督ガ現ハシタル奇跡ハ今日ニ至リテハ學理ヲ以テ盡ク之レチ實驗スル

第八章

チ得可シト説キナシ。且ツ新ニ發見シタル星、球、天界ハ、耶蘇教ノ天國ヨリモ一層至美至樂ノ天國ナリト主張シテ、耶蘇教ノ顯示奇跡ヲ輕蔑愚弄スルニ至ル。(庚)唯物論也。彼ノ徒ニ物質及ビ其法則ヲ講明スルコトニ從事スルモノハ、自ラ唯物主義ニ傾向スルノ勢アルヲ免レザルナリ。故ニ醫師ノ如キ、人身形體ノ現象及ビ之ガ心意ニ及ボスノ影響結果ヲ攷々研究スルモノハ、自ラ此主義ニ陥ラザルヲ得ズ。又タ工師ノ如キ、物理化學ノ法則ヲ適用スルヲ以テ職業トスルモノハ、自ラ此主義ニ陥ラザルヲ得ズ。蓋シ彼等ハ物質ノ外ハ何モノモ信セザルナリ。因果ノ外ハ何モノモ信セザルナリ。而シテ彼等ガ斯ノ如クシテ知ラズ識ラズ耶蘇教理ヲ拋棄スルニ至ルハ、亦タ自然ノ傾向ナリト謂ハザルヲ得ザルナリ。(辛)新政理ノ傾向也。夫レ舊政理ト新政理トノ間ニ於テ、判然界線ヲ劃シテ其差別ヲ明ニス可キモノハ何ゾヤ。蓋シ舊政理ハ一國ノ元首即チ君主ヲ以テ上帝ヨリ撰擇セラレタル天吏トシ、其立法行政ノ目的トスル所

耶蘇教ノ前途

ハ民意ヲ矯正シ、民欲ヲ克治シ、不正ヲ禁壓シ、人生ヲ保護シ、以テ墮落シタル薄弱邪行ノ人類ノ爲メニ其羈倫ヲ叙スルヲ以テ最上主義トセザルハナシ。故ニ之ガ臣民タルモノハ、亦タ國家ノ法律威力ヲ以テ神權ニ基クトセザルハナシ。然ルニ新政理一タビ出テ、民主主義大ニ勢力ヲ逞フシ。國家ヲ以テ社會ノ結合トシ、立法ヲ以テ人民ノ約束トシ、制裁ヲ以テ投票ノ多數トシ、遂ニ全ク上帝ノ意ヲ國家ノ外ニ驅逐スルニ至ル。於此乎如何ニ教會又ハ教育ヲ以テ耶蘇教ノ主義ヲ擴張セントスルモ、奈何セン其信仰ハ政治生活ノ爲メニ日ニ傾覆セラル、而シテ商業貿易自由諸發明ハ愈々此新政理ヲ擴張スル機會トナリ、其勢遂ニ將カニ天下ヲ風靡シテ、社會ハ自ラ生活シ自ラ發達スルノ法則アリト言ハシムルニ至ラントス。誰レカ如此政理ヲ以テ耶蘇教ノ教理精神ニ反對セズト稱スルヲ得ンヤ。(壬)當代流行ノ文學也。蓋シ其形貌ヲ以テ之ヲ論ズレバ當代ノ文學ノ如ク宗教的ナルモノハアラザル可シ。然レ凡審ニ

之ヲ察スレバ。當代ノ文學ハ耶蘇教ノ名譽ニ供スルノ頌詞ナリト云ハ
 ノヨリモ寧ロ耶蘇教ニ代ラント欲スルモノナリト謂ハザルヲ得ズ。如
 何トナレバ。彼等ハ耶蘇教ガ誨ヘタル道德ノ盛大美麗ナルヲ尊敬セザ
 ルニアラズ。然レモ其上帝ヨリ來ルノ命令ナルヲ認メザルナリ。彼等ハ
 基督ヲ以テ豪傑中ノ豪傑ナリト贊歎セザルニアラズ。然レモ其神ノ内
 身タルヲ認メザルナリ。彼等ハ宇宙萬有ノ宏大榮光ナル物象ヲ觀テ上
 帝アルヲ知ラザルニアラズ。然レモ彼等ハ却ツテ自己ノ心意及ビ其想
 像ニ於テ神質アルヲ自覺スルモノナリ。嗚呼當代ノ文學ガ宗教トスル
 所ハ實ニ此宗教ナリ。而シテ其將來世界ノ青年ヲ感化スル所ノ宗教ハ
 實ニ此宗教ナリ。

以上逐叙スル所ハ現時歐米ノ政治。法律。社會。學術。文學。技藝等ノ傾向ニ
 シテ。此傾向ハ不幸ニモ耶蘇教ニ反對スルノ大敵ニアラザルハナシ。然
 ラバ。此傾向ハ將來ニ向ツテハ進歩スルモノナル乎。退歩スルモノナル

乎ト問ハハ吾輩ハ毫モ其勢力ヲ減ズル所アルヲ見ザルハミナラズ。第
 十九世紀文明ノ大勢ハ疑々乎トシテ其傾向ト共ニ進歩スルヲ見ルナ
 リ。而シテ此等ノ傾向ニ歩ヲ進ムレバ耶蘇教ハ一步ヲ退カザルヲ得ズ。
 此等ノ傾向ノ勢力ヲ得レバ耶蘇教ハ勢力ヲ失セザルヲ得ズ。耶蘇教此等
 ノ傾向ニ打テ勝ツ能ハズンバ耶蘇教ハ此等ノ傾向ニ打テ勝タレザル
 ヲ得ズ。此二者ハ到底並行スル能ハザル可シ。吾輩故ニ曰ク耶蘇教ノ前
 途ヲトセント欲セバ之レヲ彼ノ物質運動ノ大法ニ徴セヨ。

而シテ知レ。我が第十九世紀文明世界ノ現象タル物質ニアレ智識ニア
 レ。道德ニアレ。皆ナリ神ノ現象ニシテ一神ノ現象ニアラザルナリ。
 此レ他ナシ一神教ノ時代既ニ去リテ凡神教ノ時代既ニ達スレバナリ。
 夫レ四圍八面ノ環象ニヨリテ其形狀其生活ヲ變化セラル、モノハ豈
 ニ獨リ動植世界ノ法則ノミナランヤ。或ル點ヨリシテ觀ルキハ思想世
 界モ一大機體ナリ。亦タ焉ンク此法則ニ支配セラレザルヲ得ンヤ。然ラ

第八章

ハ則チ怪ム勿レ現時ト雖モ耶蘇教ヲ圍繞スルノ思想感情經驗傾向ハ
 盡ク耶蘇教ニ反對スルヲ而シテ更ニ一步ヲ進メテ第二十世紀ノ曉ニ
 到達セバ此現象ガ益々進ンテ變化ヲ生ズルニ至ルハ必ズ復タ今日ノ
 此ニアラザルモノアラシク而シテ此時ニ方リテ耶蘇教猶ホ其舊時ノ而
 目ヲ維持セント欲スルハ恰モ是レ炎天熱地金流石鑠ノ世界ニ於テ銀
 田冰海ノ奇觀ヲ留メント欲スル如シ豈ニ能ク爲シ得ベキノ事ナラン
 ヤ夫レ宗教モ亦ク一大機體ナリ而シテ其生命タルモノハ何ソゾヤ信
 仰是也然ルニ今ヤ不幸ニシテ人心上社會上ニ生シタル現象ハ耶蘇教
 ニ反對スルノ傾向ヲ見ハサマルハナシ故ニ耶蘇教自ラ其教理ヲ一變
 スルカ若クハ他ノ宗教ヲシテ之ニ代ハラシムルニアラザレバ其信仰ヲ
 維持スル能ハザルハ烈トシテ火ヲ觀ルガ如シ而シテ耶蘇教自ラ其教
 理ヲ一變セバ如何ニ之ヲ變セザル可ラザル乎他ノ宗教ニシテ耶蘇教
 ニ代ハルモノアラバ如何ナル宗教アラザル可ラザル乎此レ則チ凡神

耶蘇教ノ前途

教ノ時代ニ適合スルノ宗教ナラザル可ラズ此レ則チ彼ノ耶蘇教ニ反
 對ナル傾向ヲ有スル政治法律社會學術文學技藝思想感情ノ大運動ヲ
 駕馭スルノ宗教ナラザル可ラズ

斯ノ如ク論シ來レバ吾輩ハ失望ナル前途ヲ歎ズルト同時ニ我レヨリ
 後ニ來ルモノハ我ニ勝リテ至大ナリ我ハ其履ヲモ提ルニ足ラズト云
 ヘル豫言者ノ言ヲ追憶シテ坐ロニ他ノ愉快ナル將來無限ノ望ヲ喚起
 セズンバアラズ

第九章 哲學ト宗教

凡神教ノ時代ハ破壞的ト建設的トノ表裡兩面ヲ示メスモノモアリ蓋
 シ破壞的ノ表面ニ於テ一神教ノ思想ヲ破レバ建設的ノ裡面ニ於テハ
 凡神教ノ真理ヲ顯ハシ破壞的ノ表面ニ於テ舊宗教ノ信仰ヲ失スルヲ
 吊哭スレバ建設的ノ裡面ニ於テハ新宗教ノ將サニ起ラントスルヲ慶
 賀シ破壞的ノ表面ニ於テ理學ノ分拆ヲ以テ舊宗教ノ基礎ヲ崩サント

第九

章

スレバ建設的ノ裡面ニ於テハ哲學總合ヲ以テ新宗教ノ基礎ヲ築カン
 トス。彼ハ現時文明ノ宗教思想ナルモノハ。蓋シ此ハ表裡兩面ノ中間ニ
 在リテ進退スルモノナリ。而シテ吾輩既ニ前章ニ於テ粗ボ破壊的ノ表
 面ヲ示メシタレバ。今ヤ本章ニ於テハ少シク建設的ノ裡面ヲモ示サ
 ル可ラズ。
 然レ凡神教建設的ノ裡面ヲ示サント欲スレバ。近世哲學史ニ就ヒテ
 其全體ニ係ルノ思想進歩及ビ其講究ノ目的方法。結局ヲ概論セザル可
 ラズ。然レ此ノ如キハ吾輩淺學微力ノ敢テ企及スル所ニアラズ。又
 本論ノ目的トスル所ニアラズ。吾輩ハ只近世哲學ノ思想ハ盡ク凡神教
 ニ傾向スルヲ證明スルヲ得バ。速ニ止マンハミ。
 抑モ近世哲學ノ講究スル所ノ如何ハ始ク措ヒテ之ヲ論ゼズ。哲學ト云
 フヲガ則チ一大現象ナリ。奈何トナレバ宇宙ノ本源ト云ヒ萬有ノ性質
 ト云ヒ人間ノ命運ト云フガ如キ大問題ハ。此レ蓋シ哲學者ガ其伎倆ヲ

哲 學 宗 教

闡ハシムルノ舞臺ナル可シ。而シテ此等ノ問題ニ關シテ「バイブル」ノ説
 シ所ニ安着セバ。何ソツ哲學ヲ要センヤ。彼ノトルチユリアンガ所謂一
 卷ノ「バイブル」ハ。詩ナリ。哲學ナリ。萬有智識ノ倉庫ナリト云ヘルノ言ヲ
 シテ信然ナラシメバ。何ソツ哲學ヲ要センヤ。然レ凡人間ハ此大問題ニ
 關シテハ。耶蘇一神教ノ説ク所ヲ以テ満足スル能ハズ。遂ニ此ニ近世哲
 學ノ一大光ヲ開クニ至ル。而シテ哲學ノ論タル諸家各其説ヲ異ニスルニ
 モ係ハラズ。其多神教若クハ一神教ニ反對シテ。凡神教ノ真理ヲ開説ス
 ルニ至リテハ。殆ンド同一ノ點ニ歸極スト云ハザル可ラズ。蓋シ近世哲
 學ニ於テブルノ「スピノサ」二氏ガ有名ナル凡神論者タルハ。何人ト雖
 モ知ル所ナラン。然レ凡吾輩ノ見ル所ヲ以テスレバ。デカルト。ライブニ
 ツ氏諸氏ノ哲學ト雖モ。亦之ヲ詳察スレバ。大ニ凡神教ニ傾向スル所
 アルヲ見ルニ足ル。然リ而シテ近世哲學ノ首唱家ハ。猶ホ幾分一神教ノ
 習見ヲ脱セザル所アルヲ覺ユルモノアリト雖モ。其愈々進ムニ從ツテ。

愈々凡神教ノ眞理ヲ開説スルニ至ルハ、掩フ可ラザルノ事實ナリ。
 夫レ獨國哲學ノ師宗ヲ以テカント氏トシ、佛國哲學ノ泰斗ヲ以テ
 ザン氏トシ、英國哲學ノ領袖ヲ以テハミルトン氏トス。此三氏ハ凡神論
 者ニアラザルナリ。然レモ三氏ヲ祖述シ若クハ三氏ノ論理ヲ進ムルモ
 ノハ、盡ク凡神論者ヲラザルハナシ。蓋シカント氏ガ時間ト空間トヲ以
 テ主觀ニ歸スルノ論理ハ、獨逸哲學ノ新天地ヲ開クモノニシテ、フヒテ
 セリング、ヘーゲル、三氏ニ至リテハ、既ニ凡神論ノ最高巔ニ達シテ、古
 今東西ノ哲學ヲ俯瞰スルモノナリ。チットマン氏(佛國文學史)曰ク、近世
 ノ凡神論ハ印度ノ凡神教ヲ學術的ニ開説シタルモノニシテ、其徹底ニ
 至リテハ兩者敢テ異ナル所ナシト。而シテ獨逸哲學ノ凡神論タルシヨ
 ウベシハ、ハルトマンノ諸氏ニ至リテハ、更ニ一步ヲ進メテ佛敎小
 乘法ノ厭世主義迄モ之ヲ摸倣セントシタルハ、實ニ奇々怪々ノ一大現
 象ナリト言ハザルヲ得ズ。吾輩ガ主張スル大乘佛敎ノ厭世主義ニアラ

ザルコトハ、前段説キ來ル所ヲ以テ之ヲ察ス可シ。ケイロ氏ハ此事ニ關シ
 テハ左ノ如ク言ヲナセリ。

現時佛敎ノ厭世主義ガ、普拉亞王國ノ中心ニ進入セントスルハ、咄
 々一大怪事ニアラズヤ。蓋シ阿片ノ餘毒ニ沈醉シテ其精神氣力ヲ
 麻痺シタル印度人民ガ、厭世主義ヲ唱フルハ敢テ疑ムニ足ラザル
 モ。此活潑ニシテ氣力アル實際ニシテ好戰ナル勇猛ニシテ進取ナ
 ル普國國民ニシテ、寂滅皆無ノ説法ニ隨喜歸向スルハ、實ニ理ノ解
 ス可ラザルモノナリ。然レモ厭世主義ガ勢力ヲ得ルハ、獨リ獨逸ノ
 ミニアラズ、伊太利ニ於テハ有名ナル詩家レオバルギー之ヲ鼓吹
 シ、佛國モ亦タ頗ル此主義ノ進入スル所トナリ。而シテ魯國ニ至リ
 テハ、彼ノ最モ恐怖ス可キ虛無黨トナリテ現出セリ。
 此ヲ要スルニ、獨國哲學ノ進歩ハ、凡神論ノ進歩ナリ。其運動ハ、凡神論ノ
 運動ナリ。故ニ獨逸ニ在ルモノハ、耶蘇敎神學者ト雖モ、亦タ多少凡神教

第九 章

ニ傾向スルヲ免レザルナリ。而シテ吾輩又眼ヲ轉シテ佛國哲學ヲ觀ルニ。彼ノクローザン氏ハ自ラ凡神論者タルヲ辭避スト雖モ。氏ガ眞理ハ宇宙ニ遍滿スト云ヘルノ一言ハ。則チ萬有ハ眞理ナリ。眞理ハ上帝ナリトノ意義ニシテ。此レヲ實ニレールミニエー氏ガ凡神論ヲ唱道シタルノ淵源ニシテ。クローザン氏ノ折衷學派ハ即チ凡神論ノ指針ナリト謂ハザルヲ得ズ。然リ而シテ佛國哲學ノ凡神論ヲシテ其極點ニ達セシメタルモノハ所謂ピエールル、一氏ニシテ氏ハ其哲學ヲ以テ新宗教トシテ。耶蘇一神教ニ代立セント唱道シタリ。

彼ノ英國哲學ニ至リテハ。ハミルトン氏一タビ神性ヲ論シテ。絕對ノ稱ヲ下セシヨリ。氏ノ高弟マンセル氏ノ絕對ノ思議ス可ラザルヲ論シス。ペンセル氏ニ至リテハ。此思議ス可ラザルノ絕對ノ存在スルヲ論シテ。更ニ一步ヲ進メタリ。然ルニスペンセル氏ハ其著書ノ論ズル所ニ從ヘバ。多神教一神教凡神教ノ三教共ニ其取ル所ニアラズト言フガ如シト雖

哲 學 ト 宗 教

モ。吾輩ヲ以テ之ヲ見レバ。スペンセル氏ノ如ク明瞭精確ニ凡神論ヲ主張シタルモノハアラズ。蓋シ氏ハハミルトンマンセル二家ノ論ヲ進メテ。絕對ノ性質ハ思議ス可ラザルモ。絕對ノ存在ハ思議セラル、モノナリト立論シタルニアラズヤ。然ラバ絕對ト萬有トハ何如ナル關係ヲ有スルヤ。氏之ニ答ヘテ曰ク。宇宙ノ本源ナリ。時間ナリ。空間ナリ。物質ナリ。運動ナリ。勢力ナリ。苟モ他物ト其關係比較ヲ離シテ其物自個ヲ考フルハ。此レ皆絕對ニシテ思議ス可ラズ。故ニ宇宙萬有ハ此絕對ノ現象ニシテ。絕對ハ即チ不可思議ノ上帝トモ不可思議ノ源因トモ不可思議ノ勢力トモ稱ス可シト。此ニ由リテ之ヲ觀レバ。絕對ト相對トハ同體不離ナルトハ氏既ニ之ヲ明言スルニアラズヤ。然ラバ今マ氏ヲシテ一步ヲ進マシメテ此絕對ノ現象タル宇宙萬有ハ。自ラ進化シテ宏大無限ナル欲望アル人類ヲ生シ。現時世界ニ現出スル人類ハ猶ホ進化ノ初級タルヲ想ハシメバ。氏ハ敬ンテ絕對ノ前ニ跪拜シテ其如何ナル勢力アルカ

チ驚歎頌美セザルヲ得ズ。又タ氏ハ此進化ノ目的ヲ求メテ其法則ヲ遵奉セザルヲ得ズ。此レ則チスベンセル氏ノ自然宗教ナリ。而シテ如此宗教ハ果シテ多神教ナルカ。將テ一神教ナルカ。抑モ凡神教ナルカ。蓋シ氏ガ絶對ハ宇宙萬有ノ外ニ在リト言ハズシテ宇宙萬有皆ナ絶對ノ現象ナリト言ヘルヲ見レバ勿論問ハズシテ其凡神教ナルヲ知ル可シ。氏ニシテ凡神論者タラズンバ天下何人カ凡神論者タルヲ得ンヤ。

左レバ近世哲學ハ凡神教時代建設的ノ裡面ヲ見ハシタルモノニシテ。世或ハ哲學ト宗教トハ反對スルガ如クニ説キ去ルモノナキニアラズト雖モ其反對スルモノハ一神教ナリ。其一神教ニ反對スルハ凡神教ノ眞理ヲ顯ハス所以ナルヲ固ヨリ言チ待タズ。論シテ此ニ到リテ只吾輩ノ腦裡ニ生ズル一大疑問ナルモノハ他ニアラズ。彼ノ文明世界ハ何故ニ速ニ耶蘇一神教ヲ抛チテ此哲學ノ新宗教ニ歸向セザルヤノ疑問是也。

此疑問ニ答フルハ此論ノ一大主眼トスル所ニシテ。此ニ到リテ吾輩ノ理論ハ大ニ事實ト吻合シ果シテ其眞理ノ謬ラザルモノアルヲ證明スルニ足ル可シ。蓋ハ宗教ハ二大要素ヲ以テ織成スルモノニシテ。所謂二大要素トハ自然教ト顯示教ト是也。自然教ナルモノハ智力感情ノ發達スル所ナリ。理學哲學ノ建設スル所ナリ。而シテ近世哲學ノ進歩スル。既ニ一神教ト云ヘル自然教ヲ倒シテ將サニ凡神教ト云ヘル自然教ヲ起サントス。哲學諸家ノ新宗教トハ此自然教ニ外ナラザルナリ。而シテ彼ノ耶蘇教ナルモノハ即チ此一神教ト云ヘル自然教ヲ基礎トシテ其上ニ建テラレタルモノナレバ如何ニ盛大壯麗ノ結構ナルニモセヨ。此一大基礎ニシテ一タビ崩ル、キハ其建築モ之ト共ニ倒レザルヲ得ズ。然ルニ之ニ代ラントスルノ新宗教タル亦唯自然教タルニ止リテ顯示教ハ一大要素ヲ缺グハ此レ亦タ基礎アリテ建築ナキガ如シ焉。能ク宗教ノ宗教タル一大殿堂ヲ觀ルヲ得ンヤ。然ルニ我邦ノ佛教論者

第九 章

往々宗教ノ何物タルヲ知ラズ。口ヲ開ケハ輒チ曰ク。我佛教ハ哲理ニ合
スルモノナリ。哲理ヲ應用スルモノナリト。夫レ徒ニ哲理ニ合スルモノ
ヲ以テ真正ノ宗教トスルカ。彼ノ哲學諸家ガ新宗教ハ。早ク既ニ耶蘇教
ニ代リテ文明世界ノ信仰ヲ支配ス可キ筈ナルニ。其然ラザルモノハ何
ゾヤ。此レ豈ニ宗教ノ宗教タル所以ノモノハ。獨リ自然教ニアラザルヲ
以テスルニアラズヤ。然ラバ則チ吾輩一言以テ方今文明世界宗教ノ現
況ヲ評セン。曰ク宗教進化ノ大法ニ由リテ一神教ノ時代既ニ去リテ凡
神教ノ時代既ニ達セリ。一神教ヲ以テ基礎トスルノ耶蘇教ハ。顛覆セン
トス。凡神教ノ新基礎ハ將サニ成ラントス。然レモ此新基礎ノ上ニ築ク
可キ顯示教ハ未ダ來ラザルナリ。
而シテ今マ一步ヲ進メテ。此哲學ノ新基礎ノ上ニ築ク可キ宗教ハ如何
ナル宗教ナルカ。耶蘇教ニ代リテ文明世界ノ信仰ヲ支配ス可キ宗教ハ
如何ナル宗教ノ命運ニ歸スルカ。豫言セントスルノ前ニ方リテ更ニ

教 宗 ト 學 者

一言以テ上章ノ意ヲ約說セザル可ラズ。蓋シ吾輩ノ見ル所チ以テスレバ。
文明世界ノ有形ニ見ハレ無形ニ見ハル、モノハ。一ツトシテ一神教ニ
傾向スルノ現象ニアラズシテ。凡神教ニ傾向スルノ現象ナラザルハナ
シ。彼ノ佛國革命ノ時ニ道理ノ女神現出シタルモノハ。是レ一神教ノ時
代既ニ去リテ凡神教ノ時代將サニ來ラントスルノ現象ナリ。彼ノ理學
宗教相軋轢シテ。理學遂ニ連戰連勝シタルモノハ。是レ一神教ノ時代既
ニ去リテ凡神教ノ時代將サニ來ラントスルノ現象ナリ。バチカン會議
ニ於テ議決シタル破宗條例ナルモノヲ讀メヨ。是レ一神教ノ時代既ニ
去リテ凡神教ノ時代將サニ來ラントスルノ現象ナリ。彼ノ宗教改革ノ
結果タル四分五裂ノ渙散ヲ見ルニ至ルモノハ。是レ一神教ノ時代既ニ
去リテ凡神教ノ時代將サニ來ラントスルノ現象ナリ。彼ノ耶蘇教中ヨ
リ、ユニテリアン派ノ如キモノヲ現出シタルハ。是レ一神教ノ時代既ニ
去リテ凡神教ノ時代將サニ來ラントスルノ現象ナリ。彼ノ道德法律

第九 章

ニ於テ、最大福祉ヲ基本トスル實利主義漸ク勢力ヲ得ルモノハ、是レ一神教ノ時代既ニ去リテ、凡神教ノ時代將サニ來ラントスルノ現象ナリ。彼ノ政治社會ニ於テ抑壓ヲ減シ自由ヲ與ヘ一個人社會國家人類全體ヲシテ自然ノ發達ヲ促サシムルノ主義漸ク煥發スルモノハ、是レ一神教ノ時代既ニ去リテ、凡神教ノ時代將サニ來ラントスルノ現象ナリ。彼ノ文學美術ニ於テ造化ノ美ヲ頌美シテ却ツテ自己ノ想像ヲ偉大ニシ、基督ノ豪傑タルヲ稱贊シテ却ツテ自己ト同類視スルモノハ、是レ一神教ノ時代既ニ去リテ、凡神教ノ時代將サニ來ラントスルノ現象ナリ。彼ノ理學ニ於テ宇宙萬有ノ變化運動スル皆ナ一定不變ノ大法ニ支配サレ、此大法ハ則チ自然力開發ノ正路ナルヲ證明スルモノハ、是レ一神教ノ時代既ニ去リテ、凡神教ノ時代將サニ來ラントスルノ現象ナリ。彼ノ哲學ニ於テ哲學ガ講究スル所ノ極點ハ、遂ニ凡神教ノ真理ヲ開説スルニ外ナラザルヲ證明スルモノハ、是レ一神教ノ時代既ニ去リテ、凡神教

哲 學 宗 教

將ニ來ラントスルノ現象ナリ、吾輩ハ過去ヲ回憶シ、現在ヲ觀察シ、將來ヲ推測シテ、宗教革命ノ必ス來ル可キヲ信ズ、否必ズ來ラザル可ラザルヲ信ズ。然リ而シテ吾輩ハ猶ホ又ク此ニ一言以テ上章ノ論及シザル所ヲ補ハザルヲ得ザルモノアリ。蓋シ如何ナル論者ニテモ、宗教進化ノ大法ハ多神教ヨリ進ンデ一神教ニ至ルノ順序ニ反對スルモノハ之レ無ラン、彼ノ一神論者或ハマツクスムーラル氏ノ說ヲ以テ反對ヲ證セントスルモ、蓋シ氏ガ說ハ印度一國ノ變例ニシテ、宗教進化ノ法則ヲ論シタルモノニアラザルナリ。然レモ其一神教ヨリ一步ヲ進メテ到達ス可キモノハ、凡神教ニアラバシテ無神論ナリト言ヘルノ論者ナキニアラズ。此論ノ意味ハ勿論世界文明ノ極點ハ、宗教ヲシテ全然無宗教タルニ至ル可シト言フニ外ナラズ。何則無神論ト無宗教トハ互ニ通用セラル、ノ名詞ナレバナリ。然リ文明世界固ヨリ無神論者ナキニアラズ。宗教ト云ヘ

第

九

章

ハ復タ其種類ノ何如ヲ問ハズ。性質ノ何如ヲ論ゼズ。盡ク擧ゲテ之ヲ拋棄スルノ論者ナキニアラズ。然レモ吾輩ガ所見ヲ以テスレバ。此レ一ハ耶蘇教ガ學術ニ反對シテ之レヲ抑壓シ之レヲ迫害シクルハ。反動激ニ過ギテ軌道ノ外ニ飛ビ去リ。一ハ其時代ノ智力。感情ニ適合スル。真正善良ナル宗教ナキヲ以テ。自暴自棄ノ念ヲ生シテ。斯ル結果ヲ見ルニ至ルナラント。思考ス。蓋シ彼ノ無神論ナルモノハ。唯物論ノ結果ナリ。吾輩若シ此萬有現象ニ就ヒテ徒ニ物理的ノ解釋ヲ下スキハ。天地間只物質アルノミ。勢力アルノミ。運動アルノミ。而シテ其說無神ニ陥ルハ言ヲ待タザルナリ。然レモ少シク心理的ノ解釋ヲ雜ユルキハ。決シテ無神ナラズ。且ツ人間ノ體軀ナルモノハ。塊然タル物質ノ分體ニ過ギズシテ。有限的ナリト雖モ。其精神ニシテ知覺アル他ノ高尙ナル部分ハ。此分體ヲ破リテ。宇宙ノ全體ト接シ。彼ノ萬物ヲ以テ一大鏡面トシ。其法則。秩序。統系ノ關係ヲ釋ルガ如キ。自己理性ノ無限作用ヲ發達スルニアラザルハナシ。

哲 學 宗 教

又タ彼ノ家族ヲ愛シ。國民ヲ愛シ。天下ヲ愛スルガ如キ。此レ亦タ彼我ノ別ヲ消滅スルモノニシテ。自己感情ノ無限作用ヲ發達スルニアラザルハナシ。然ラバ。則チ知ト有ト。理想ト現實ト。觀念ト經驗トハ。吾輩ガ今日ニ於テ未ダ一致セシムル能ハザル所ナリト雖モ。人間ハ實ニ無限的ノ命運ヲ有スルモノト謂ハザルヲ得ズ。此ニ由リテ之ヲ觀レバ。無宗教ハ人間ノ天性ニアラズ。無神論ハ完全ナル萬有ノ解釋ニアラズ。左ラバ吾輩ハ彼ノ方今米國ニ於テ耶蘇教ノ一大勁敵ニシテ。無神論ノ大天使タルインガール氏ニ質サン。氏曰ク彼ノ幽靈(耶蘇教三位一體ノ上帝)ヲシテ此世界外ニ驅逐セシメヨ。彼レ去ルモ我兄弟姊妹ハ猶ホ依然トシテ去ラザルナリ。彼レ去ルモ山嶽河海ハ猶ホ依然トシテ去ラザルナリ。彼レ去ルモ自然ノ美景。四時ノ佳興ハ猶ホ依然トシテ去ラザルナリ。彼レ去ルモ清亮哀雅ナル聲ヲ發シテ吾人ノ望ト愛トヲ和奏スルノ音樂ハ猶ホ依然トシテ去ラザルナリ。蓋シ人性ハ大海ノ如ク。信仰ヤ。書籍ヤ。

第

十

章

宗教ハ其上ニ現ズル瞬間ノ波瀾タルニ過ギズト。而シテ知ラズ此大海ノ深濶ナルヲ知ラシムルモノハ何ゾヤ。氏亦ク曰ク。奴隸恐怖愚昧ヲ以テ基礎トスルノ宗教ハ顛覆ス可シ。將來ノ宗教ハ必ズ之レヨリモ一層高尚ニ一層温和ナラント。而シテ知ラズ此將來ノ宗教ナルモノハ何ゾヤ。

第十章 佛教ノ振興

吾輩ハ宗教ノ性質ヲ分析シテ。自然教顯示教ノ二大要素アルヲ發明シ。自然教ハ宗教自然ノ進化法ニ從ツテ凡神教ニ進マザル可ラズ。顯示教ハ開明時代ノ信仰ニ適スルノ理證ヲ有スルノ宗教コソ眞理ニ合スル純全ナル宗教ナル可キヲ發明シ。而シテ此ノ如キ性質ヲ有スルノ宗教ハ。則チ我が佛教ナルヲ發明シタリ。然レモ此レ吾輩ガ宗教ノ性質ヲ考ヘ其眞理ヲ推シテ。發明シタル一個ノ理論タルニ過ギザル而已。然ルニ進ンテ文明世界ノ理學。哲學。文學。技術。道德。習慣。法律。政治其他凡

佛 教 ノ 振 興

ソ宗教思想ノ人心上ニ現ハレ社會上ニ現ハル、モノヲ觀察シタレバ。宗教進化ノ大法ハ既ニ一神教ノ時代ヲ去リテ凡神教ノ時代ニ達シタルヲ發明シタリ。依リテ又タ耶穌教ノ大勢ヲ察スレバ。果シテ人心上社會上ノ信仰モ背馳スル所アルヲ以テ。道途衰頹ノ運ニ就カントスルノ事實アルヲ發明シタリ。然ラバ則チ吾輩ノ理論ハ事實既ニ之レガ證明ヲナシタリ。吾輩更ニ喋々辨解ヲ費スヲ要セザルモノアラン。而シテ更ニ吾輩理論ノ價值ヲ證セント欲セバ。聊カ輓近歐米ニ於テ俄然トシテ佛教ガ振興セントスルノ事實ヲモ示サバ。可ラズ。何トナレバ眞理ニ合スル純全ナル宗教ニシテ將來世界ノ信仰ヲ支配ス可クンハ。未ダ佛教ノ如ク眞理ニ合スル純全ナル宗教アラザレバナリ。

彼ノ佛國文學ノ泰斗タルヴイクトルヒエーゴ云ハズヤ。吾人が遭遇シタル第十九世紀ハ前世紀ヨリモ至大ナル世紀ナリ。現世紀ハ實佛國大革命ヨリ流レ出デタルモノナリ。現世紀ハ實ニ奴隸ヲ釋キ。刑罰ヲ寬ニ

第十 章

シ海賊ヲ驅リ戦争ヲ静メ婦人ノ地位ヲ進メ貴族ノ利ヲ以テ平民ノ利トナシ強者ノ權ヲ以テ義者ノ權トナシ藝文ヲ言ヘバ著述家雄辯家彫刻家音楽家各其輝光ヲ發シ天才ヲ振ヒ尊大優美勢力光杉深遠艶麗姿態具サニ備リテ缺ルコトナク理ト實ト兼併スルノ觀アリ美ト眞ト兼保合スルノ妙アリ學術ヲ言ヘバ蒸氣ヲ驅リテ牛馬トナシ雷氣ヲ走ラシメテ脚夫トナシ大陽ヲ僱フテ畫工トナシ無量大ナル星辰世界ヲ窺フニハ望遠鏡アリ無量小ナル虫多世界ヲ窺フニハ顯微鏡アリ空間モ時間モ禍害モ盡ク文明ノ權威ヲ以テ之レヲ制服セザルハナシト實ニ然リ而シテ今ヤ此第十九世紀ガ漸ク老ヒテ舞臺ヲ謝シ去ラントスルニ臨ンデ茲ニ亦一大現象ヲ呈シタリ此レ他ニアラズ文明世界ニ於テ佛教ノ振興是也

抑モ佛教トハ何ソヤ即チ眞理ニ合スル純全ナル宗教ナリ亦タ野蠻未開妄想卑屈滯滯腐敗ノ宗教ナリ蓋シ現時東洋各國民ハ其體力ヲ以テ

佛 教 ノ 振 興

スルモ其智力ヲ以テスルモ其道德ヲ以テスルモ其社會ヲ以テスルモ到底歐米ニ匹敵スルコトヲ得ルモノニアラズ故ニ其宗教ハ獨リ眞理ニ適スル純全ナル宗教ナリト雖モ之レヲ理會スルノ智力ナク亦タ之レヲ實行スルノ精神ナシ故ニ其名稱ハ佛教信徒ナリト雖モ其實彼等ガ尊奉スル佛教ナルモノハ一種變相的ノ佛教ニシテ所謂野蠻未開妄想卑屈滯滯腐敗ノ宗教タルヲ免レズ然レモ今ヤ佛教ガ眞正ノ輝光ヲ放チ眞正ノ感化ヲ及ボシ全世界ニ翱翔シテ博愛ノ旗ヲ揮フ可キノ一大氣運ハ既ニ到達シタリ蓋シ古ヨリ眞理ノ發スル所ハ必ズシモ堂々タル文明富強ノ大邦ニアラズ彼ノ雅典國民ヲ觀ヨ實ニ海岸ニ濱スル區々タル掌大ノ一小市區ニ過ギズト雖モ其文學哲學ノ赫々タル輝光ハ普ク文明世界ヲ照ラシテ其智識ヲ支配シ其思想ヲ陶冶シ兵力ヲ以テ羅馬ニ制服セラレタルモ却ツテ智力ヲ以テ羅馬ヲ制服シ萬邦學藝ノ淵藪タル名譽ヲ博セシニアラズヤ彼ノ猶太國民ヲ觀ヨ彼レハ耶和華

第十 章

ノ選民タルモ人間世界ノ最モ不幸ナル國民ナリ。文學、哲學ノ觀ル可キモノアルニアラズ。社會政法ノ誇ル可キモノニアラズ。遂ニ他邦ノ擒虜トナリ奴隷トナリテ其獨立不羈ノ體面スラ全フスル能ハズ。然レモ現時ニ至ル迄殆ンド文明世界ノ信仰ヲ支配シタル一大宗教ハ此ノ國民ヨリ發達シタルニアラズヤ。然ラハ則チ今日佛教ノ東洋ヨリ起リテ文明世界ノ宗教ヲラントスル亦タ豈ニ怪ムニ足ラノヤ。

然ラハ則チ佛教ノ歐米ニ於ケル運動ハ如何。吾輩未ダ之レヲ稱シテ運動ト言フ能ハズ。只之ヲ指シテ發動ト言ハントス。而シテ此發動ノ最モ著明ナル代表タルモノハ彼ノ神智學會ナリ。此神智學會ノ代表者タルモノハ彼ノコロチルナルコツト氏其人ナリ。蓋シ氏カ一朝大ニ佛教ノ眞理ニ感ズル所アリテ直チニ太平洋ヲ航シ印度ニ來リテ神智學會ヲ設立シタルハ未ダ僅々數年ノ久ヲ經過セズト雖モ其既ニ耶蘇教ニ改宗シタル印度人民ヲシテ佛教ニ歸順セシメタルハ既ニ貳百萬人以

佛 教 ノ 振 興

上ニ超過シ其歐米ノ兩大陸ハ固ヨリ論ナク亞洲濠洲ノ僻遠遐陬ニ至ル迄神智學會ノ支部ヲ設立シタルヲ既ニ貳百有余ニ超過シ。歐米ニ於テ純然タル佛教新聞ヲ發刊スルヲ既ニ數個ニ達シ。其他眞理ノ光既ニ文明世界ヲ透射シタル彰著ナル一例ヲ舉レバ英京倫敦ニ於テ既ニ佛教出版會社ヲ起スモノアリ。米國ボストンニ於テ既ニ佛教ノ運動ヲ生ゼントスルモノアリ。麒麟ヲ畫キ鳳凰ヲ繡スルノ文字ヲ以テ佛陀ノ神聖ナル傳記ヲ著ハシテ數十萬部ヲ刊布スルモノアリ。此レ皆十數年ノ間ニ發表シタルノ現象ニシテ今後若シ此割合ヲ以テ進歩シタランニハ吾輩ヲシテ佛教ノ前途ニ希望ヲ措カシムル決シテ淺鮮ナリトセズ。之ヲ要スルニ政治コアレ。道德ニアレ。哲學ニアレ。宗教ニアレ。凡新主義ハ天下ニ起ル過去ト現在トニ對シテハ必ズ改革的ノ精神ヲ現ハシ。將來ニ對シテハ必ズ豫言的ノ精神ヲ現ハス。ハ必然ノ勢ニシテ此精神ナクハ新主義ノ價值ヲ見ル能ハズ。現時佛教ノ歐米ニ起ル實ニ亦タ此

精神ヲ以テ來ルモノナリ。吾輩既ニナルコソト氏ヲ以テ新宗教ノ代表者トナシタレバ。今マ當サニ氏ガ言ヲ以テ新宗教ノ精神ヲ示メス可シ。試ニ卿等印度人民ノ眸ヲ轉シテ。泰西世界ノ全面ヲハ精細ニ觀察セヨ。彼ノ各國間ニ生ズル競争ハ獨リ商業ヲ擴張センガ爲メニアラズ。亦タ宗教上ノ大問題ヲ斷定センガ爲メナリ。彼ノ米國ヲ見ヨ。其耶蘇教ハ分裂シテ無數ノ宗派トナリ。理學ハ公衆ヲ教會ヨリ驅逐シテ。唯物主義。虛無主義ノ漢々タル曠野ニ彷徨セシメ。其僧侶ハ日ニ權力ヲ失スルニアラズヤ。彼ノ英國ヲ見ヨ。國教廢棄ノ問題ハ愈々氣餒ヲ生シ。愛蘭土モ亦々漸ク國教ヲ廢シ。彼ノブラドローハ日曜毎ニ倫敦ノ市街ニ大膽ナル無神論ノ說法ヲナスニアラズヤ。彼ノ佛國ヲ見ヨ。其政治上ノ革命一タビ中原ノ鹿ヲ共和黨ニ與ヘテヨリ。彼ノセヌエイトハマシマホンノ後ニ屏息スルニアラズヤ。彼ノ日耳曼ヲ見ヨ。既ニ羅馬法王ト喧嘩ヲ起シ。教會僧侶ノ特權ヲ

廢シタルニアラズヤ。彼ノ魯西亞ヲ見ヨ。虛無黨派ノ鮮血手段ハ國家ト教會ト恐嚇シタルニアラズヤ。其他何クニ往クトシテ學術ト神學ノ猛烈ナル争闘ヲ目撃セザランヤ。而シテ博士ウヰルリヤムドレーパー氏ハ最モ雄辯ニ此争闘ヲ叙シ來リ。此争闘ハ印刷術ノ發明ト共ニ創始シ。其進歩ハ百戰百勝遂ニ學術ニ歸シ。學術ハ人類ノ無量ナル恩惠者トナリテ。萬國ノ交通ヲ便利シ。自然ノ利源ヲ發達シ。福祉ヲ進メ。改良ヲ促カシ。社會ノ最下級ニ教育ヲ與ヘタリト稱賛シタリ。往キニ印度ガ他ノ東洋國民ト共ニ此新文明ノ恩澤ニ浴セザリシハ。世界大勢ノ時務ヲ識ラザルヲ以テナリ。而シテ今ヤ卿等ハ。既ニ泰西ノ理學文學ヲ學習スト雖モ。未ダ之レヲ實際ニ適用スルニ及バズ。此レ卿等ノ眠未ダ醒メザル所以ナリ。嗚呼海潮ハ一進一退シテ須臾クモ其止ムヲ見ズ。蓋シ盛衰消長ハ事物自然ノ法則ナリ。來ルモノハ斯ニ往カザルヲ得ズ。

眠ルモノハ斯ニ醒メザルヲ得ズ。願フニアルヤバルタ(北印度ノ古名)ノ身體ハ眠ルト雖モ其精神ハ猶ホ生活スルモノナレバ必ズ復タ其輝光ヲ放ツナラン。必ズ復タ其繁昌ヲ恢復スルナラン。而シテ再タビ古代智慧ノ燭ヲ點シ其宗教ト學術トヲ以テ泰西世界ニ教フルニ至ルハ此レ亦ク必然ナラン。(右千八百七十九年五月廿三日。孟賣ニ於テ演説)

此レ豈ニ新宗教カ一方ニ於テハ耶蘇教ノ衰頹ヲ嘆シ一方ニ於テハ學術ト一致聯合シテ大ニ天下ニ起ラントスルモノニアラズヤ。

第十九世紀ノ下半期ニ於テ文明世界ハ果シテ如何ナル進歩ヲナシタルカ其進歩ハ果シテ人性ヲシテ完全ノ點ニ向ハシメタルカ。果シテ卿等ノ祖先ヨリモ卿等ヲシテ純潔高尚ナラシメタルカ。若シ智識ノ進歩ヲ以テ進歩トスルカ。方今理學ノ智識ハ真正ナル智識ニ進マントスルノ着歩ニシテ而カモ此ニ止ラハ邪惡ナル結果

ヲ生ズルニ過ギザルナリ。其營々トシテ活動スルモノハ空シシ徒勞ニ歸シテ精神ヲ腦マシニ過ギザルナリ。抑モ理學ガ生ジタル文明トハ何ツヤ。精銳ナル兵器ヲ作りテ巧ニ人ヲ殺スニアルカ。阿片火酒ノ消費ヲ獎勵シテ利ヲ貪ルニアル乎。廉價ナル衣食ヲ拵ヘテ買客ノ眼ヲ眩惑スル乎。輕薄欺詐ノ風ヲ増長シテ其仲間ノ信用ヲ減ズルニアル乎。直覺ノ能力ヲ撲滅シ宗教ノ感情ヲ破壊スルニアル乎。此等ヲ以テ文明トセバ此下半期ハ誠ニ驚ク可キノ長足進歩ヲナシタリト謂ハザルヲ得ズ。然レモ真正ナル道德家ハ却ツテ之ヲ以テ文明ノ進歩ニアラズシテ退歩ナリトスルナラン。確實ナル判斷力ヲ具フルモノハ却ツテ之ヲ以テ古昔印度ノ高尚ナル開明ニ比スレバ可憐可憐ノ有様ナリトスルナラン。夫レ進歩トハ關係的ノ名詞ナリ。故ニ一ノ人民ニシテ驚ク可キノ進歩トスルモ他ノ人民ヨリシテ之ヲ見ルキハ驚クニ足ラザルモノアリ。左レバ余ハ

此進步ナル名稱ヲ以テ智徳共ニ最高ノ域ニ達シ其一個人ノ權理人民全體ノ福祉善ク平等ニ發達シタルノ國民ニ適用セント欲ス。余ハ彼ノ英米二國ノ人民カ五時間ヲ以テ。宗教及ビ世俗ノ教育ニ費スモ亦タ其五時間ヲ以テ酒精ヲ飲ムヲ見レハ文明進步ノ名稱ヲ與フル能ハズ。况ンヤ彼ノ阿片火酒ヨリ生ズル歳入ヲ以テ國力ヲ培養シ經濟學及ビ道德宗教ノ原則ヲ犯シ腕力ヲ以テ他ノ國民ヲ侵掠攘奪スルガ如キニ至リテハ之ヲ以テ野蠻ノ最モ甚キモノナリトセザルヲ得ズ。嗚呼印度錫蘭ノ朋友ヨ卿等青年ハ一方ニ於テハ近世ノ賜ニ係ル實利ヲ採リ。一方ニ於テハ古代ヨリ傳來スル宗教ヲ保テヨ。此レ豈ニ印度國民カ需要ス可キノ文明ニアラズヤ。ソレ古今ヲ極メ萬世ニ亘リテ變ズ可ラザルノ真理ハ卿等ガ特有財産ナリ。彼ノ基督カ教フル所ハ善且美ナラザルニアラズ。然レモ基督カ教フル所ノモノハ基督ノ前ニ既ニ之レヲ教フルモノ

ナリ余ハ又タ道德ノ法言ヲ以テ文明ノ程度ヲ測ルモノニアラズ。乃チ此ヲ實行スルノ程度ヲ以テ之レヲ測ラントスルナリ。左レハ基督教國ガ道德ノ法言タル善且美ナラザルニアラズト雖モ奈何セハ其實際ニ至リテハタルツアアルハミ。アトハストロンガアルハミ。粒彈銃アルハミ。阿片船アルハミ。詭辨的ハ商賣アルハミ。鄙猥的ノ遊戯アルハミ。不正的ノ政治アルハミ。故ニ余ハ基督教國ヲ指シテ其徳義ハ腐敗シ其元氣ハ消亡シタリト云ハントス。耶蘇宣教師等若シ余ノ言フ所ヲ以テ然ラズトセバ。卿等躬ヲ乞フ彼ノ基督教國ニ往ヒテ之レヲ觀ヨ。若シ往クヲ能ハザレバ其適當ノ書ヲ得テ之レヲ讀メ。必ズ余ガ言ノ欺カザルヲ知ルニ足ラン。彼ノ進步女神ガ妖嬌タル形貌ハ假面ハミ。其内裡ハ必ズ既ニ腐敗スルモハアラシ。此ニ於テ余ハ切望ス。卿等ハ學者トナランヨリモ寧ロ善人トナレ。富チ貪ランヨリモ寧ロ其心ヲ潔白ナラシメヨ。惡ニ耽ルハ紳

第十 章

士トナリテ智者ト稱セラレシヨリモ、寧ロ徳ヲ抱クノ農夫トナリテ、愚者ト稱セラレヨ。進歩ト文明トナリテ、以テ揚々自得スル、歐羅巴人トナリテ、眞正ノ福祉眞正ノ進歩ニ臻ラシムル所ノ法則ヲ蹂躪セヨ。リモ、寧ロ依然タル、古代聖賢ノ道徳ヲ實行スルノ、印度國民タレヨ。

〔千八百八十一年九月廿二日、タナコリンニ於テ演説〕

此レ豈ニ耶蘇教ガ既ニ信仰ヲ失シ基督教國ヲ感化スルノ勢力ナキヲ以テ、新宗教カ一層博大ナル眞理、一層高尚ナル道徳ヲ以テ、宗教ノ新天地ヲ開拓セントスルモノニアラズヤ。

余ハ恒ニ歐洲ノ學識アル人士ニ向ツテ余ノ愚見ヲ開陳セント欲ス。然ルニ今ヤ此ニ臨席セラレタル諸賢ハ、英國理學、技術、文學、外交、社會ヲ代表スルノ諸賢ナレバ、余ノ光榮實ニ大ナリ。余ハ實ニ今日ヲ以テ我が神智學會ノ新時代トセント欲ス。今ヤ歐洲ニ於テ唯物主義、實理主義、非宗教主義、不可思議主義ガ耶蘇教ニ反對スルノ論

佛 教 ノ 振 興

鋒ハ甚ダ銳利ニシテ其勢宗教ノ感情ヲ撲滅シ、精神ノ感化ヲ顛覆スルニアラザレバ殆ンド止マザルガ如シ。而シテ耶蘇神學ノ脆弱ナル固ヨリ生物論者進化論者ノ堅甲利兵ニ敵スル能ハズ。彼ノ自由思想ノ徒ハダルザイン、ハツクスリー、ベツケル、ミル、クリフホルドリユース、グレグノ麾下ニ集リテ鼓ヲ鳴ラシ戰歌ヲ唱ヘ、往時耶蘇教ガ異教ヲ亡ボシ其殿堂ヲ以テ教會トナシタルガ如ク、アラトアラズムト云ヘル新神ノ殿堂ヲ築カント欲ス。此レ實ニ人類思想ノ一大變化ナリ。然レ此ノ如ク舊信仰ノ枯死スルト同時ニ新信仰ノ種子ハ既ニ萌芽ヲ發シタリ。即チ方今ノ一大問題ハ無神論ヲ平神智學ヲラシムル乎。二ツアラシムル乎。蓋シ今日ニ方リテ天下宗教ノ一大基礎タルモノハ復タ神智學ノ外ニ求ム可ラズ。此レ一大基礎ニ築カザルノ宗教ハ實ニ空中樓閣ナリト謂ハザルヲ得ズ。耶蘇教徒ハ云ハン「バイブル」ハ神命ナリ。猶太人ハ云ハン「摩西ノ律法

第十 章

ハ上帝ノ躬ヲ授ケシモノナリ。印度人ハ云ハシ。韋陀聖經ハ真理ナリト。然レモ彼ノ懷疑不信ノ徒ハ。實驗ヲ以テ之ヲ示スニアラザレバ決シテ此言ヲ信セザルナリ。而シテ實驗ヲ以テ之ヲ示スモノハ。我が神智學ノ目的トスル所ナリ。即チ吾輩神智學會ノ創立者ハ。此堅牢不拔ナル基礎ニ據リテ天下批評ノ風潮ニ當ラント欲ス。今ヤ本會ノ事業ハ既ニ兩亞歐米。濠洲ニ擴張シ。日ニ新支會ノ設立ヲ見ルニ至ル。而シテ吾輩ノ目的トスル所ハ。色ノ黑白ヲ論ゼズ。信仰ノ同異ヲ問ハズ。萬民同胞ノ友愛ヲ通シ。東洋古代ノ宗教。哲學。理學ヲ講究シテ萬有ノ秘奧ナル法則ヲ發明シ。人間ノ高尚ナル能力ヲ發達スルニ外ナラズ。是ヲ以テ本會創設以來未ダ七年ヲ經過セザルニ。印度。シ。ン。ハ。リ。ス。ノ。青年ハ翕然トシテ本會ニ同盟シ。相共ニ正義博愛。真理ヲ以テ團結シ。泰西懷疑ノ學風ヲシテ漸ク勢力ヲ失ヒシメ。本會ノ氣運ハ駭々トシテ旭日ノ如ク。今ヤ其運動ハ遠ク米國ニ

佛 教 ノ 振 興

波及シ。茲ニ中央本部ヲ組織シ。一ハ緬育ノ勢力アル新聞記者。一ハ學術ノ名譽アル學校教授。相携ヘテ大西洋ヲ航シ。本會ニ來リテ米國將來ノ運動ヲ計畫セリ。而シテ余ハ此レヨリ直チニ日耳曼ニ向ツテ發程シ。彼ノ獨逸思想ノ深廣ナル大洋ニ。聊カ神智學ノ一葉ヲ泛ヘント欲スルナリ。千八百八十四年七月廿一日。倫敦ニ於テ演説抑モナルコトト氏ガ數年前。其郷土米國ヨリ始メテ錫蘭ニ到ルヤ。其大守ハ氏ヲ迎ヘ之ニ語リテ曰ク。君ガ來ル實ニ晩シ。今ヤ佛教ハ既ニ死セリ。君如何ニ盡力スト。雖モ徒ニ勞シテ其益ナカラノミト。蓋シ此時ニ方リテ東洋佛教ノ淵藪タル錫蘭モ。耶蘇教ノ爲メニ蹂躪セラレ。殆ソド死灰冷燼ノ有様ナリキ。然レモ氏ガ卓然タル爛眼ハ。早ク既ニ第十九世紀宗教進化ノ一大氣運ヲ看破スルノ識見ヲ有シタリ。豈ニ區々タル眼前ノ現象ニ眩惑セラレテ落膽失望センヤ。此ニ於テ一身ヲ抛テテ佛教恢復ノ犧牲ニ供シ。風雨ヲ避ケズ。寒暑ヲ厭ハズ。英國官吏ノ冷遇ヲモ願

第十 章

ミズ。耶蘇教宣教師ノ媚嫉ヲモ怖レズ。山野ニ暴露シ。四方ニ奔走シ。至誠熱心ニ佛敎ノ眞理ヲ説キシカバ。印度國民ノ佛敎ニ歸向スルモノ。恰モ水ノ卑ニ就クガ如ク。僅ニ數年久チ出デズシテ既ニ二百五十萬人ノ信徒ヲ得クリ。此ニ於テ氏ハ印度ヲ以テ新宗教運動ノ中心トシ。歐米各國ニ向ツテ其敎ヲ擴張スルヲ以テ自ラ任シ。今ヤ又タスマンガラ僧正ヨリ佛敎教會ヲ全世界ニ創立スルノ全權ヲ委托セラレタレハ。氏ガ將來佛敎ニ於ケルノ運動ハ殆ンド測ル可ラズ。然リト雖モ此レ豈ニ獨リ氏ガ一人ノ力ナラシヤ。宗教進化ノ大勢氏ヲ驅リテ運動セシムルニアラザレハ。固ヨリ此ニ至ラザルナリ。左レハ近日歐米ノ宗教ニ關スル新聞雜誌若クハ其神士貴女ガ我ガ西京ト通信スル所ヲ見ルニ。一ツトシテ佛敎ノ爲メニ前途萬里遙々トシテ大ニ望ミアルノ好報ニアラザルハナシ。試ニ其一例ヲ舉レバ。紐育「サン」新聞ハ則チ合衆國ニ於テハ佛敎ヲ信ズルモノ甚ダ多シ。殊ニボストン府ニ於テ東方宗教(佛敎)ハ既ニ其立

佛 教 ノ 振 興

脚ノ地ヲ得タリト云ヒ。同國「カンサス」新聞ハ則チ我國人ヲ彼等ガ佛敎者トナス多ク且ツ速カナルヲ覺フ。尙ホ佛敎ヲ信ズルモノハ大概我々ノ最上ノ學者若クハ教育アル上位ノ人民ナリト云ヒ。同國「ウギン」ステットプレス新聞ハ則チ亞細亞ニ於ケル基督宣教師ハ多クノ資金ト大ナル勞力トヲ以テ。幾多ノ歲月ヲ費シ。漸ク僅々ノ愚民ヲ改宗セシメタルノミ。而シテ佛敎ハ傳道會社ヲ設ケズ。或ル他ノ威力ヲ借ラズシテ既ニ國內數千ノ人民ヲ感化ス。多クハ是レ博識智慮アル有力者ナリ。其數ハ益々多ク加ヘ其信仰ハ他ノ遙ニ及バザル所ナリ。然ルニ人民中自ラ其思想ノ佛敎線内ニ漸入シ。靡然佛敎的ノ信仰ニ赴ヒテ自ラ知ラザルモノニ至リテハ甚ダ多シト云ヒ。同國佛光新聞ハ則チ北米合衆國ノ人民ニシテ苟モ獨立ノ思想ヲ有シ。正理ヲ愛シ。佛敎ノ書籍ヲ讀見シタルモノハ皆チ其法ヲ奉信セリ。然レモ信仰條目ニ束縛セラレタル基督敎派ノ敵對アルガ爲メニ。其信ズル所ヲ公ニスル能ハズト云ヒ。紐育神

第十 章

智學會員ウヰリアムヂヤツヂ氏ノ書信ニハ則チ我が人民ニシテ果シテ
 佛敎ヲ講究スルニ至レバ我が開明ノ上ニ戴ク可キ榮光ハ即チ此宗
 敎ナルヲ發明スルニ至ラント云ヒ蘇格蘭エヂイスジョンストン嬢ノ
 書信ニハ則チ妾ハ神智學ヲ研究シ衆多ノ宗教ヲ講習シテ真理ヲ探究
 シ佛敎ニ於テ真理ノ存スルヲ發見シタリト云ヒ印度ドンダビツド
 氏ノ書信ニハ則チ今ヤ我が佛敎ノ教義ハ歐米諸國ノ注意ヲ屬スル所
 トナリ幾萬ノ人民ハ既ニ我が美麗ナル真理ヲ了解スルノ針路ニ導レ
 居レリト云ヒ米國エリオトピア氏ノ書信ニハ則チ米國佛敎ノ
 有様ニ就キ余ノ見聞スル所ニテハ現今我が國人ヲ佛敎教會ニ入會セ
 シムルニ適當ナル教師之レナキガ爲メニ真正ノ佛敎徒タルハ誠ニ少
 數ナリ然レモ釋尊ニ敬禮ヲ表シ其教義ヲ尊重スルモノハ甚ダ多シト
 云ヒ英國アランダル嬢ノ書信ニハ則チ最モ驚クベキモノハ近來歐
 洲各國人が相率ヒテ新宗教(佛敎)ニ傾向スルハ一事ナリト云ヒ米國カ

佛 教 ノ 振 興

ールカツソウ會社ノ書信ニハ則チ現今基督教ノ衰頽迅速ニシテ佛敎
 盛ニ興起セリ將來我邦ハ佛敎ノ美田トナラント云フ嗟呼世人ハ之
 チ以テ怪訝ス可キノ現象トスルカ誠ニ然リ唯吾輩ハ既ニ宗教進化ノ
 大法ヲ推究シテ此怪訝ス可キノ現象ノ源因ヲ發見シタレバ亦タ其怪訝
 ス可キノ現象ナルヲ見ザルナリ

耶蘇教ヲ輸入セン乎。佛教ヲ改革セン乎。一大問題ハ。實ニ我邦將來命運ノ要部ヲ占ムルノ問題ナルヲ以テ。我邦人ハ獨リ哲學家トシテ此問題ヲ解釋ス可ラズ。亦ク實務家トシテ此問題ヲ解釋セザル可ラズ。蓋シ宗教ナルモノハ哲學トシテ論ズレバ。實ニ遠大深奥ナル哲學ナリ。理想トシテ論ズレバ。實ニ高尚美麗ナル理想ナリ。然レモ此哲學タル。天上ニ奏スル微妙ナル音樂タルニ止ラザルナリ。此理想タル。人類萬里ノ前途ヲ照ラスノ燈火タルニ止ラザルナリ。即チ其問題ハ實際ト云ヘバ。之レヨリ實際ナル問題ハアラズ。適切ト言ヘバ之レヨリ適切ナル問題ハアラズ。吾輩如何ニシテ笑ハンカ。如何ニシテ泣カンカ。如何ニシテ生ゼンカ。如何ニシテ死センカ。如何ニシテ各個人タラシク。如何ニシテ家族タラシク。如何ニシテ國家ノ臣民タラシク。此レ皆チ宗教ナル最大問題

題ハ一小部分ニアラザルハナシ。彼ノ鶏ヲ聞テ起キ星ヲ戴テ歸ルノ貧窶ナル勞力社會ト雖モ。其卑近ナル職業ニ自ラ高尚ナル義務ヲ寓シ。勤勞ヲ以テ祈禱トナシ。茅屋ノ下ニ家族團樂ノ樂。殆ンド天國ノ小摸範ヲナスガ如キ。彼ノ政黨ノ首領ガ聲ヲ伺ヒ。虛ヲ擣キ。龍鬪虎戰ヲ挑ンデ互ニ仇敵ノ如クナルモ。其心事ニ至リテハ堂々トシテ青天白日ノ如ク。又タ其王室ニ忠シ。國家ヲ愛スルノ丹誠ニ至リテハ。互ニ同胞モ雷ノミナラザルガ如キ。彼ノ家ニ在リテハ清白ナル處女タリ。既ニ嫁シテハ良妻タリ。賢母タリ。婉婉温順ノ中ニ於テ一點凜然トシテ犯ス可ラザルノ義氣ヲ有シ。暗々ノ裡ニ非常ナル勢力ノ源ヲナスガ如キ。彼ノ德育ヲ以テ智育體育ノ精神トシ。俯仰天地ニ愧ヂス。社會ト真理ノ爲メニハ一身ヲ犠牲ニスルノ健兒ヲ薰陶シ。前途國家ノ健全ナル繼續者ヲ生スルガ如キ。若クハ護國ノ爲メニハ。劍銃ヲ荷ヒ。千軍萬馬ノ際ニ出入シテ。死ヲ視ルヲ歸スルガ如キ。兵卒ヲ出スガ如キ。孰レカーツトシテ。靈魂ノ遠大高

尙ナル感化ヨリ來ラザラノヤ之ヲ約言スレバ各個人ニ在リテ其生命
 ヲリ。社會ニ在リテ其元氣ナルモノハ宗教ナリ。而シテ無宗教ノ人物ニ
 ハ真正ノ徳義ハ存セザルナリ。無宗教ノ社會ニハ真正ノ進歩ハ存セザ
 ルナリ。無宗教ノ國民ニハ真正ノ愛國ハ存セザルナリ。無宗教ノ兵卒ニ
 ハ真正ノ勇氣ハ存セザルナリ。無宗教ノ教育ニハ真正ノ感化ハ存セザ
 ルナリ。無宗教ノ智識ニハ真正ノ真理ハ存セザルナリ。無宗教ノ學術ハ
 真正ノ學術ニアラザルナリ。無宗教ノ美術ハ真正ノ美術ニアラザルナ
 リ。故ニ之ヲ約言スレバ宗教ハ各個人ニ在リテハ其生命ナリ。社會ニ在
 リテハ元氣ナリ。
 吾輩ガ所見ヲ以テスレバ歐米ノ文明ハ宗教的ノ文明ナルヲ信ズ。否少
 ノトモ宗教的ノ精神ニ胚胎スルノ文明ノ文明ナルヲ信ズ。試ニ看ズヤ。
 彼レ社會ノ進歩トスル所ハ自由平等博愛ノ三大主義ヲ以テ理想トシ。
 彼レ教育ノ目的トスル所ハ圓滿完備ニ人性ヲ發達シ。至美。至善。至真ヲ

以テ極致トシ。彼レ道德法律ノ思想トスル所ハ上帝ノ命令ヲ奉シ。若シ
 ハ天意ヲ實行スルヲ以テ基礎トシ。彼レ學問技術ノ概念トスル所ハ造
 化ノ法則ヲ注解シ。或ハ造化ノ意象ニ模倣スルヲ以テ本色トシ。彼レ經
 濟商業ノ功業トスル所ハ人類ノ能力ヲ發達シ。萬有ノ實利ヲ調和スル
 ナリ。以テ真理トナシ。人類社會ノ最大禍害タル戰爭スラ。猶ホ勝敗ヲ鮮血
 ニ訴ヘテ上帝ニ義トセラル、ヤ否ヤヲ判決セントスルニアラズヤ。而
 シテ其宗教上ノ儀式ヲ應用スルニ至リテハ帝王ニ軍事ニ國會ニ裁判
 ニ家族ニ交際ニ職業ニ學校ニ婚姻ニ宴會ニ言語ニ文學ニ音樂ニ其他
 日常瑣細ノ事物ニ至ル迄。盡ク感化ヲ及ボサハルハナク。實ニ歐米社會
 ニ於ケル宗教ハ感化ハ廣大ニ瀰リ精微ニ入ルト云ハザルヲ得ズ。ハツ
 シスリー氏曰ク學術ハ其宗教的ナルヲ以テ貴ブ可ク。宗教ハ其家術的
 ナルヲ以テ信ズ可シ。故ニ理學家ノ偉大ナル勳業ハ其智力ノ結果ヨリ
 モ。寧ロ其宗教ノ感情ニ存スト。ヘンリージョルダ一氏曰ク。現時社會ノ

問題ヲ解釋センガ爲メニ要ス可キモノハ智力ニアルヲシテ宗教ハ感情ニアリト。夫レハツシスリー氏ガ有名ナル唯物論者タルハ。天下ノ知ル所ナリ。ジョルヂー氏ガ論ズル所最モ宗教ト關係ナキ經濟上社會上ノ問題ニアルハ。亦タ其書ヲ讀ムモノ、知ル所ナリ。而シテ二氏ノ言此ノ如シ。此レ吾輩ガ絶ヘテ我邦ノ學士論者ニ見ザル所ニシテ。恒ニ歐米ノ學士論者ニ見ル所ナリ。孰レカ歐米ノ文明ハ宗教的ノ文明ニアラズト謂フカ。

然レモ吾輩ハ復タ此ニ今日ノ宗教ノ我邦ニ必要ナルヲ喋々スルヲ欲セズ。唯冒頭ニ掲ゲタル問題。即チ耶蘇教ヲ輸入センカ。佛教ヲ改革センカノ問題ニ就ヒテ。少シク辨論ヲ費サント欲ス。抑モ此ノ問題タル。吾輩始メテ之レヲ提出シタルニアラズ。殆ンド現時我邦ノ學士論者ガ舉ツテ講究セントスル所ノ問題ニシテ。其解釋ノ結果タル。亦タ各々異ナル所アルガ如シ。且チ耶蘇教ノ輸入ニ對シテ。勿論從來ノ佛教ハ既ニ

腐敗シテ國民ノ信仰ヲ喪失シ。今日ニ於テ我邦ノ生命元氣ヲ喚起スルモノハ。唯基督方福音アリ。ト論ジテ。耶蘇宣教師ノ中ニモ最モ學識アリ且チ雄辨ナルイヰト氏ハ。其東京演說ニ自ラ叙シテ曰ク。

日本古來ノ信仰ハ。學者社會ニ道德力ヲ及ボスヲ甚ナク。一般人民ニモ漸ク將サニ其勢力ヲ失ハントスルガ如シ。苟モ社會ニ立チテ至當ノ觀察ヲ下ス人々ハ。皆此事實ヲ明知セザルモノナシ。然ラバ此薄弱ナル信仰ニ代立シテ。能ク一般ノ道德ヲ震興スルニ足ル可キモノハ何ゾヤ。是則目下日本帝國ノ大問題ニシテ。或社會ハ早クモ既ニ運命ノ旦夕ニ迫ルヲ豫察スルガ如シ。夢中ニ彷徨タル夕ハ過テ拂曉ニ達シ。今日日本ハ智識政路ヲ一新シテ。各人開化ノ華ヲ競ヒ。文明ノ諸力益々相加ハリテ無用ノ古風ハ衰頽セル宗教及道德ト共ニ消滅シテ。將ニ實力アル代立者ニ其地位ヲ讓ラントス。

基督教信徒ハ其地位ヲ受ケテ更ニ純良ノ教理ヲ布カンコトヲ企望スルモノナレバ日本ニ在テ忍耐強キ人々ハ未ダ其援助ヲ請ハズ。殊ニ古代ノ偏見未ダ全ク挫ケザルヲ以テ其偏見ヲ懷ク輩ハ常ニ基督教ヲ敵視ス西洋不信者ハ著書弘ク國中ニ行ハレ學術哲學ノ需要少カラザル中ニ就テ該教ニ抗スル所ノ書類極メテ多ク基督教ハ識者ノ措テ問フ可ラザル迷惑説ト思惟セラルハ蓋シ現今日本ノ景況ナリ。

イビー氏ノ言誠ニ然リ吾輩又タ轉シテ佛教ヲ改革ス可シト主唱スル論者ノ中ニ就ヒテ現時佛教ノ新勇將ト稱セラレタル井上圓了氏ノ言ヲ聞ケバ左ノ如シ。

願テ我僧侶ノ内情ヲ察スルニ其過半ハ無學無識ニシテ時勢ヲ知ラズ無資無力ニシテ生計ニ苦ミ其力佛教ヲ改良シテ開明ノ宗教トナス能ハザルハ必然ノ勢ナリ我邦大政維新以來百般ノ學問工

藝皆一時ニ進歩シ國家富強ノ基礎從ツテ定マリ政法治道又大ニ興ル殊ニ去ル十四年國會開設ノ詔一タビ發ノヨリ上下競フテ泰西ノ學ヲ講シ政法ノ理ヲ究メテ立憲ノ制度漸ク全シ而シテ佛者社會ハ明治ノ維新ニ遇フモ依然舊ヲ守リ國會開設ノ期ニ逼ルモ頑眠未ダ醒メズ進ンテ功ヲ國家ニ立ツルモノナク退テ力ヲ護法ニ盡クスモノナシ而シテ其教法ハ孤城落日ノ勢ヲナシ存亡旦夕ニ逼ルモ更ニ知ラザル者ノ如シ嗚呼明治二十三年モ近キニ在リ今後世道人心ノ變革復タ昔日ノ比ニアラザルベシ佛者今ヨリ之ヲ備ヘザレバ何レノ日ニカ佛教ノ再興ヲ期センヤ。

夫レ進ムモノハ進マシメヨ仆ルモノハ自ラ仆レシメヨ此レ則チ自然淘汰ノ大法ナリ此レ則チ優勝劣敗ノ大勢ナリイビー氏何ツ進ンデ大ニ耶蘇教ヲ擴張セザルヤ井上氏又何ツ佛教ニ戀々タルヤ夫レ耶蘇教ニシテ果シテイビー氏ノ言フ所ノ如クナラシメ佛教ヲシテ亦タ果

シテ井上氏ノ言フ所ノ如クナラシメバ吾輩ハ斷然佛教ヲ拋棄シテ耶蘇教ヲ輸入セザルヲ得ズ。然レモ試ニ思ヘイビー氏ノ眼光視線ハ日本國內ノ外ニハ一步ヲモ出ル能ハズ。井上氏ノ眼光視線モ亦タ日本國內ノ外ニハ一步ヲ出ル能ハズシテ耶佛二教ノ盛衰興廢ヲ判斷セントスルハ是レ日本一國ノ問題ハ日本一國ヲ以テ判斷ス可シト信ズルモノナリ。然レモ今日ニ方リテ果シテ日本一國ヲ以テ判斷ス可キ問題アルカ。彼ノ軍備ノ擴張セザル可ラザルヲ説キ。法律ノ改正セザル可ラザルヲ説キ。實業ノ振起セザル可ラザルヲ説キ。教育ノ進歩セザル可ラザルヲ説キ。現時我邦ヲシテ進歩若クハ改革ニ汲々タラシムルハ恰モ大敵ノ既ニ國境ニ逼リテ狼狽防禦セザル可ラザルガ如キモハ何ツヤ直接ニ間接ニ第十九世紀全世界ノ大勢ト交通スルヲ以テナリ。而シテ知ル日本一國ニ於テ維持ス可キモノト雖モ第十九世紀世界ノ大勢ニ於テ維持ス

可ラザルモノナレバ亦タ遂ニ日本一國ニ於テモ維持ス可ラズ。日本一國ニ於テ擴張ス可キモノナレバ遂ニ亦日本一國ニ於テモ維持ス可ラズ。然ラハ則チ耶蘇敎ノ盛ナルモハ亦タ此第十九世紀世界ノ大勢ト共ニ盛トナラザル可ラズ。佛教ノ衰フルモハ亦タ此第十九世紀世界ノ大勢ト共ニ衰ヘザル可ラズ。之ニ反シテ世界ノ大勢ニ於テハ衰フル可キモノモ日本ニ於テハ却ツテ盛ナルガ如キハ此レ一時ノ現象ニシテ永遠ノ現象ニアラザルナリ。大陽既ニ東天ニ上リテ高堂猶ホ窓ヲ推サドレハ室內或ハ暗シ。然レモ世界大勢ノ赫々タル輝光ハ豈ニ一國ノ能ク遮ル所ナランヤ。

吾輩ハ依リテ此問題ヲ以テ渺々タル東洋ノ孤島ニ於テ判斷スルヲ欲セズ。之ヲ第十九世紀世界ノ大勢ニ質問シタルニ。社會。政治。法律。道德。敎

育、理學、哲學、文學、技術、總シテ、彼ノ思想ノ傾向スル所、文明ノ趨向スル所、
 ハ、舊宗教(耶蘇教)ノ世界既ニ去リテ、新宗教(佛教)ノ世界將サニ來ラント
 スルノ休徵ヲ示サバ、ハナシ然ルニ今ヤ願ミテ我邦ヲ察スレバ、泰西
 文明ノ風潮ハ駭々トシテ日ニ進入シ、殆ンド將サニ歐瀾米濤ノ間ニ捲
 キカラレノトスルノ奇觀ナキニアラズ、而シテ彼ノ泰西ニ於テ舊宗教
 ニ反對シテ新宗教ニ趨向シタル思想ト文明トハ、盡ク既ニ我邦ニ來リ
 社會モ來リ政治モ來リ法律モ來リ道德モ來リ教育モ來リ理學モ來リ
 哲學モ來リ文學モ來リ技術モ來リ之ヲ一言スレバ、凡神教ノ時代早ク
 既ニ我邦ニ到達シタリ更ニ比喻ヲ以テ之ヲ譬ヘンニ我邦文明ノ圃思
 想ノ園タル氣候ノ如キ、地味ノ如キ、空氣ノ如キ、其他同園ノ境遇一ツト
 シテ泰西ニ異ナルモノナシ、則チ泰西ニ於テ新ニ萌芽ヲ發シ、其一タビ
 美花ヲ開クニ至リテハ、ソノ王ガ榮華ノ極ニ調製シタル衣服モ及
 ハザル程ノ百合花ヲ以テ之レヲ我ガ日本ニ移植スル亦タ曷ク不可ナ

ラ、ンヤ、而シテ、彼ノ泰西ニ於テ舊宗教ノ朽幹枯根未ダ一掃シ去ラザル
 モ、ハ、此レ千百年間ニ培養シタル慣習ノ猶ホ遺存スルニ由ル而シテ
 我邦既ニ斯ル慣習ノ遺存スルアテ、將タ何ノ苦ム所アリテカ、彼新宗
 教ヲ取ラズシテ、彼舊宗教ヲ取ルヲ要センヤ、此ニ由リテ之ヲ觀レバ、
 泰西ニ於テ舊宗教トスルモノハ、我邦ニ於テハ僅々數十年前ヨリ新ニ
 進入セントスルノ新教ナリ、泰西ニ於テ新宗教トスルモノハ、我邦ニ於
 テ千百餘年既ニ傳來シタルノ舊宗教ナリ、然ラバ則チ新ニ進入スルノ
 新教ヲ輸入スルト既ニ傳來シタルノ舊教ヲ改革スルトハ、其利不利孰
 レ世界ノ大勢ニ於テ維持ス可ラザルノ耶蘇教ヲ維持スルト世界ノ大
 勢ニ於テ擴張ス可キノ佛教ヲ擴張スルト其利不利孰レ茲ニ於テ我邦
 宗教ノ一大問題明白ニ判斷ス

然レモ我邦今日ノ佛教ナルモノハ、所謂停滯腐敗既ニ其真面目ヲ失ス、
 然ラバ何人カ奮ツテ此改革ノ一大事業ニ任ズルモノアル歟、曰ク吾輩

ハ改革家ノ出デザルヲ憂ヘズ。只改革ス可キ時勢ノ一日モ早ク到達セザルヲ憂フ。蓋シ時勢ハ豪傑ヲ生ズルノ機關ナリ。豪傑ハ時勢ヲ生ズルノ勢力ニアラザルナリ。故ニ豪傑ヲ生ズルノ時勢サヘアレハ。千萬人ノ豪傑ハ忽チ奔躍狂舞シテ起ラズンバアラズ。試ニ内外古今ノ歴史ヲ一看セヨ。彼レ學問中興ノ時勢一タビ到達スルヤ否ヤ。暗世ノ長夜猶ホ曉鐘ヲ報セザルニモ係ハラズ。理學家。哲學家。文學家。美術家。早ク既ニ星ノ如ク四方ニ現ハレ。燦爛トシテ滿天ヲ輝シタルニアラズヤ。彼レ宗教改革ノ時勢一タビ到達スルヤ否ヤ。羅馬法王ノ威權猶ホ赫々トシテ歐洲ヲ威壓スルニ係ラズ。ハツス。ズウインクリー。ルーテル。カルビンノ徒。早ク既ニ前後輩出シ。大聲疾呼シテ羅馬教會ニ抗敵シタルニアラズヤ。彼レ權理發達ノ時勢一タビ到達スルヤ否ヤ。チャアレス第一世ハ將サニ神權主義ヲ主張シ。憲法ノ神聖。國民ノ權理ヲ蹂躪シントスルニ方リテ。シロンウエル。ハンブレン。ミルトンノ徒ハ早ク既ニ時勢ノ先鋒トナリ。

自由ノ爲メニ劍芒ヲ脱シ。遂ニ一大改革ヲ成就シタルニアラズヤ。彼レ佛國革命ノ時勢一タビ到達スルヤ否ヤ。路易十四世ガ君主專政ノ餘威ハ猶ホ霜雪ノ草木ヲ壓スルガ如クナルニモ係ハラズ。モンテスキユルウソウ。ウチナルテル。ミラボーノ諸氏ハ。早ク既ニ駭蕩タル春風ノ百花ヲ扇クガ如ク。革命ノ人心ヲ風靡シタルニアラズヤ。彼レ奴隸廢止ノ時勢一タビ到達スルヤ否ヤ。米國南部ノ聯邦ハ之ガ爲メニ非常ナル利益ヲ占ムルニモ係ハラズ。遂ニ鮮血ヲ以テ野蠻暴力ノ汗痕ヲ洗滌セント欲シテ。一大内亂ヲ惹起シタルニアラズヤ。彼レ自由貿易ノ時勢一タビ到達スルヤ否ヤ。保護政策ノ習慣ハ。猶ホ深ク一國多數ノ腦裡ニ印刻スルニモ係ハラズ。ゴブデン。ブライトノ諸氏ハ。早ク既ニ其妄想ヲ喝破シテ。自由貿易ノ真理ヲ發揮シタルニアラズヤ。試ニ又タ我が現時大勢ノ由來スル所ヲ看ヨ。大政維新ノ氣運將サニ來ラントスルヤ。彼ノ高山。蒲生。藤田。佐久間。木戸。西郷。大久保ノ諸氏。後先相踵ヒテ勃興シタルニアラズヤ。之

ナ、譬フレハ、時勢ハ猶ホ颶風ノ如シ、豪傑ハ猶ホ波瀾ノ如シ。彼ハ汪洋ヲ
 ル大海モ平時ハ甚ズ穩靜ナリ。然レモ一旦颶風忽然トシテ起レバ、日月
 ナ呑吐シ、鯨鯢ヲ翻蕩スルノ狂瀾怒濤ヲ見ルニ至ル。亦何グ疑ハシヤ。而
 シテ今ヤ、宗教世界ニ於テ一大革命ノ時勢既ニ到達シ、將サニ第二十世
 紀ノ新天地ヲ開カントス。則チ將來ニ於テ豪傑ノ士奮起スルハ、吾輩ガ
 窃ニ期シテ疑ハザル所。而シテ彼ノ一女丈夫(ブラバツキ)一豫言者(チ
 ルゴット)ハ、豈ニ其人ニアラズヤ。然リ而シテ此一大氣運タル。既ニ我邦
 ニモ駭々進入シ、方今佛教改革ノ時勢ハ、内外交々逼ラントスルノ有様
 ナレバ、我邦モ亦タ宗教維新ノ豪傑ヲ出サズト斷言ス可ラズ。バツクル
 氏曰ク、前途衰微ニ歸セントスル職業ニハ、誓ツテ豪傑ヲ出サズト之ニ
 反シテ、佛教ノ前途ハ希望アルノ前途ナリ。佛教ノ命運ハ、文明世界ノ信
 仰ヲ支配セントスルノ命運ナリ。彼レ將來大ニ輝光ヲ發セントスルノ
 新理ヲ發明シ、若クハ將來ノ時勢ニ適合スルノ制度ヲ建設スルガ爲メ

ニハ、毎ニ千萬人ノ豪傑ヲ生ズルヲ見レバ、佛教ニモ亦タ活潑偉大ナル
 改革家ヲ出サズト斷言ス可ラザルナリ。
 若シ果シテ第二十世紀ニ於テ愈々世界ノ一統宗教タル可キ命運ヲ有
 スルノ佛教ヲ以テ我邦ノ宗教トシ、我邦ノ前途ヲ以テ之レニ委託スル
 ヲ得ハ、我ガ國民ハ實ニ非常ノ天幸ヲ得タルノ國民ナリト謂ハザル
 チ得ズ。蓋シ現時我邦ハ新ニ外交ヲ開キ、世界列國ノ間ニ周旋シ、第十九
 世紀ノ新氣運ニ遭遇スルノ奇局ニ當ルヲ以テ、理勢ノ必到スル所。遂ニ
 國內ニ於テ二大主義ヲ現出シタリ。即チ一ハ外部ノ勢力ニシテ、世界ノ
 大勢ヲ驅リテ我邦ヲ威化セント欲シ、一ハ内部ノ勢力ニシテ、我邦ヲシ
 テ此大勢ニ反抗セシメント欲ス。此二大主義ナルモノハ、實ニ牽引反撥
 ノ二力ニシテ、其權衡ヲ得テ調和スルキハ、我邦ヲシテ獨立ヲ保タシム
 可ク、亦ク我邦ヲシテ文明ニ進マシム可シ。若シ權衡ヲ失フテ調和セザ
 ルキハ、我邦ヲシテ獨立ヲ保タシムルヲ能ハズ。亦ク我邦ヲシテ文明ニ

第十一章

進マシムルヲ能ハズ蓋シ内部主義ノ目的トスル所ハ獨立ニ在リ故ニ
 務メテ國粹ヲ保存シ妄リニ外邦ヲ摸倣スルノ流風ヲ擯斥シテ以テ國
 民愛國ノ感情ヲ扶植養成セフヲ欲ス然レモ其極端ニ馳スルニ方リ
 テハ獨立アルヲ知リテ文明アルヲ忘レ國粹アルヲ知リテ泰西アルヲ
 忘レ保守アルヲ知リテ進歩アルヲ忘レ愛國アルヲ知リテ愛人アルヲ
 忘レ遂ニ恐ラシハ我邦ヲシテ第十九世紀ノ新氣運ト離縁シテ文明世界
 ノ舞臺ニ登リテ競争ヲ試ルヲ能ハザラシムルニ到ラントス之ニ反シテ
 外部主義ノ目的トスル所ハ文明ニ在リ故ニ務メテ進歩ヲ獎勵シ泰西
 ノ制度文物ヲ輸入シテ以テ社會各人ヲ發達改良セフヲ欲ス然レモ
 亦タ其極端ニ馳スルニ方リテハ文明アルヲ知リテ獨立アルヲ忘レ泰
 西アルヲ知リテ國粹アルヲ忘レ進歩アルヲ知リテ保存アルヲ忘レ愛
 人アルヲ知リテ愛國アルヲ忘レ遂ニ恐ラシハ我邦ノ國情ヲ一掃シ歐
 瀾米滿ノ爲メニ漂流セラレ國家ノ獨立ヲ失フニ到ラントス左レハ今

我邦ト佛敎トノ關係

日ニ方リテ我邦ノ急務トスル所ハ此ニ大主義ノ運動ヲシテ權衡ヲ得
 セシメ一方ニ於テハ國家獨立ノ大義ヲ重シ一方ニ於テハ將來文明
 ノ進路ヲ開クニ在ル可キハ吾輩ノ喋々ヲ要セザル所ナリ然ラバ何ヲ
 以テ之ヲ調和ス可キカ吾輩ガ所見ヲ以テスレバ亦タ唯ダ佛敎アル而
 已蓋シ佛敎ナル者ハ世界ヨリシテ之ヲ言ヘバ文明ノ潮流ナリ進歩ノ
 光華ナリ博愛ノ旌旗ナリ我邦ヨリシテ之ヲ言ヘバ獨立ノ生命ナリ國
 粹ノ愛兒ナリ愛國ノ元氣ナリ然ラバ則チ今日ニ於テ内外兩主義ノ蝶
 交トナリ牽引反撥ノ反對作用ヲ調和セシメ其權衡ヲ執リテ以テ我邦
 ノ獨立ヲ保チ文明ヲ進マシメント欲スルモハハ佛敎ヲ措ヒテ又タ何
 者ニ依頼セントスルカ嗟呼佛敎ヲ措ヒテ又タ何者ニ依頼セントスル
 カ

吾輩論シテ既ニ此ニ到レバ聊カ微シシ平生ノ持論ヲ洩ラサバ得
 ズ凡ソ文明ナルモノハ各國國粹ノ集合シタルモノニ外ナラズ更ニ之

ナ詳説スレバ、世界文明ノ氣運ヲシテ現時ノ地位ニ進マシメタルモノハ、各國人民ガ精神、氣力、智慧、道德、實利、真理ヲ發達シタルノ結果ニ外ナラズ。乞フ看ヨ。上古希臘羅馬ノ二國ハ、其文學、美術、法律、政治ノ思想ヲ以テ當代ニ輝キ、後世ヲ化シ、近世ニ及ンデ伊太利ハ學問中興ノ率先者トナリ、西班牙、葡萄牙ハ新世界ヲ發見シテ、航海商業ニ先鞭ヲ着シ、佛蘭西ハ其華麗ノ文學、優美ノ風儀、新奇ノ思想ヲ以テ他邦ニ誇リ、特ニ其革命前後ノ時代ハ歐洲文明ノ大勢ヲ指麾シ、英國ハ其立憲政體ヲ以テ世界各國ニ模範ヲ示メシ、其商業ハ殆ンド海上ノ大權ヲ握リ、獨逸ハ近世自由ノ先覺トナリ、宗教改革ノ先達トナリ、近時ニ至リテハ、其哲學、文學、將ホニ天下ニ冠絶セントシ、魯西亞ハ新國ヲ開ヒテ教化ヲ布キ、野蠻ヲ化シ、其武力ハ雄偉ニシテ當ル可ラズ、北米合衆國ハ西半球ニ新天地ヲ開創シテ、文明ノ運動ヲシテ新鮮快活ナラシメ、更ニ歐洲ノ舊文明ヲ改良シテ、新文明トナサントスルガ如シ、故ニ吾輩ハ現時文明ノ恩惠ニ對シ

テハ、此等ノ國民ニ深ク感謝セザル可ラズ、而シテ我邦ハ將サニ如何ニシテ、此恩惠ニ報酬セントスル乎、此點ニ關シテハ、近頃我邦ニ渡來シタル彼ノ「ユニテリアン」派ノ教師ナツブ氏ハ、頗ル吾輩ノ意ヲ得タルモノナリ、其演説ニ曰ク、

日本ガ三十年前、其長眠ヲ攪破シタルモノハ、決シテ偶然ニアラズ、適々東ヨリ西ニ向ツテ流ル、世界文明ノ大滿潮ニ會シタルモノニシテ、其之ヲシテ然ラシメタルモノハ、世界最新ノ獨立國白人文明ノ終歸トモ云フ可キ米國ナリトハ、誠ニ事實ノ爭フ可ラザルヲ證スルニ足ラン。

日本ハ此文明ノ潮勢ヲ受ケテ、更ニ先導者ノ第一位ニ立チタルモノナリ、左レハ權力、威勢、先導ノ星ハ、尙ホ進ンデ其道ヲ西ニ取ラザル可ラズ、今日ヨリ以後、亞細亞ノ全土ヲ照ラシテ、新ニ文華ノ新天地ヲ作爲スルモノ、豈ニ日本ヲ除キテ、又ダ他アラソヤ。

第十 章

日本既ニ此第一位ヲ占ム。然ラハ則チ日本ハ誠意正心以テ次ノ
 疑問ヲ適當ニ解釋スルヲ洵ニ必要ナルベシ。余ハ將サニ文明ノ活
 劇ニ立チテ重役ヲ勤メントス。元來文明ノ活劇トハ如何ナルモノ
 ノ。又タ如何セバ則チ能ク此重役ヲ勤ムルヲ得ベキヤ。文明トハ
 吾人ノ單ニ他ヲ模倣スルノ謂ヒナル乎。或ハ吾人自ラ創造スル所
 アリテ幾分カ其潮流ノ水層ヲ増サバ可ラザルノ謂ヒナル乎。語
 ナ換ヘテ言ヘバ吾人ノ身ハ本ト虛無零點ノ如クナラン乎。將タ又
 タ吾人ハ自己ノ勢力ヲ張リテ幾分世上ヲ影響スルモノタラン
 乎。

今ヤ一神教ノ時代既ニ去リテ凡神教ノ時代方サニ來リ。宗教世界ニ於
 テ一大運動ヲ見ルノ日ハ將サニ遠キニアラザラントス。此時ニ方リテ
 我が國民ハ却ツテ他邦人士ニ一着ヲ後レタルガ如シト雖モ。將來耶蘇
 教ニ代リテ世界ヲ一統ス可キノ一大宗教ハ我邦ニ於テ千有餘年ヲ經

我邦ト佛敎トノ關係

歷シ現時ト雖モ殆ソド全國民ヲ支配シタルノ宗教ナリ。然ラハ則チ今
 日ニ方リテ苟モ振ツテ之ヲ改革シ之ヲ恢弘シ之ヲ復活シ我邦ヨリシ
 テ他邦ヲ感化スルニ至リテハ彼ノ第二十二世紀ノ曉ニ及ンデ物質的ノ
 文明ヲ進メテ精神的ノ文明トナシ。智力的ノ文明ヲ進メテ道德的ノ文
 明トナシ。此世界ヲ一變スルノ一大偉業ハ將サニ我が國民ノ名譽ニ歸
 シ。其榮光ハ將サニ彼ノ蒼蒼タル雲漢ノ星辰ニ達セントス。起キヨ青年
 ノ士。祝セヨ佛敎ノ前途。

第十二章 舊佛敎ナ一變シテ新佛敎トナサバ可ラズ

第十九世紀ノ世界ニ於テ嶄然トシテ俄ニ頭角ヲ顯ハシ驚ク可キノ進
 歩ヲ以テ各國ニ傳播シ將サニ耶蘇一神教ヲ壓倒シテ將來宇内ノ一統
 宗ヲラントスルモノハ新佛敎也。明治二十二年ノ日本ニ於テ。恭順トシ
 テ振ハズ。外教ノ爲メニ其版圖ヲ削ラル。日ニ月ニ衰頽ニ陥リ。氣息奄々
 トシテ獨リ其滅亡ヲ埃ツトナ知ルモノハ舊佛敎也。之ヲ一言スレバ舊

佛教ハ衰滅ノ線端ニ達シテ。將サニ落チントスルモノナリ。新佛教ハ新興ノ線端ヲ望ンデ。將サニ登ラントスルモノナリ。然リ而シテ吾輩ハ驚キ來ル。現時我邦ノ佛教ナルモノハ。悉ク此レ舊佛教ニシテ新佛教ニアラザルヲ。嗟呼我邦ノ佛教ヲ汝ハ衰滅ノ線端ニ達シテ。將サニ落チントスルカ。將タ新興ノ佛教ヲラントスルカ。甲者ヲ擇ハ、頑乎トシテ動ザル可シ。若シ乃チ乙者ヲ擇ハ、舊佛教ヲ一變シテ新佛教トナサザル可ラズ。

夫レ佛教ハ佛教ナリ。新佛教タルモ舊佛教タルモ。其佛教タルニ於テハ。毫モ異ナル可キ筈ナシ。然レモ舊佛教ハ佛教ノ真面目ニ雜フルニ。頑固偏僻、肉欲腐敗、虛飾、妄信、偽善、其他人間ノ弱點、社會ノ境遇ヨリ生ズル種々ノ惡弊ヲ以テシ。新佛教ハ佛教ノ純潔ナル真理ト真正ナル道德トヲ明ニシ。其形貌ニ拘泥セズシテ。其精神ヲ發揮スルモノナリ。故ニ今日我邦ニ於テ舊佛教ヲ一變シテ新佛教トナサント欲セバ。實ニ人心上社會上ニ猛激ナル一大革命ヲ生ゼザル可ラズ。故ニ此問題ハ姑ク之ヲ他日

ニ譲リ。僅ニ獨リ舊佛教ト新佛教トヲ比較シテ。其差別ヲ示シ。以テ全論ノ局ヲ結ハントス。

第一、舊佛教ハ保守的ニシテ新佛教ハ進歩的ナリ。吾輩ハ佛教ノ精神トスル所。果シテ進歩ト相容レザルモノアルトスレバ。現時我邦ノ佛教ニ向ツテ其不進歩ヲ責ルコト得ズ。然レモ佛教ノ主義タル孰レカ。是レ進歩的ノ主義ニアラザルモノアラシヤ。佛教ノ道德タル孰レカ。是レ進歩的ノ道德ニアラザルモノアラシヤ。而シテ今ヤ我邦佛教ノ現況ヲ察スルニハ。殆ンド既ニ仆レタル死馬ノ如ク。一ハ活動ヲ見ルコトナシ。一ハ進歩ヲ見ルコトナシ。夫レ死物モ電氣ヲ以テ之ヲ感ズルキハ猶ホ或ハ躍ラシム可シ。佛教ト雖モ既ニ社會風潮ノ中ニ在ルモノナレバ。亦タ社會風潮ノ感化ヲ免ル。能ハズ。特ニ彼ノ東西兩派ノ如キハ。毎ニ我が政府ノ爲ス所ヲ汲々摸擬シ。政府位階ヲ設レバ彼レモ亦タ位階ヲ設ケザルニアラズ。政府内閣ヲ更迭スレバ彼レモ亦タ本山ヲ更迭セザルニアラズ。

第二十 章

政府國會ヲ開カントスレバ彼レモ亦タ議會ヲ開カザルニアラズ。政府憲法ヲ制セントスレバ彼レモ宗制寺法ヲ制セザルニアラズ。然レモ政治ト宗教トハ其性質自ラ異ナルモノニシテ其進歩決シテ同一ノ線路ヲ走ル可キモノニアラズ。其運動決シテ同一ノ方向ヲ執ル可キモノニアラザルハ何人ト雖モ知ル所ナラン。良シヤ亦タ一步ヲ讓リテ同一ノ方向ヲ執リ同一ノ線路ヲ走ル可キモノトスルモ彼レ兩派ハ本山ハ毎ニ政府ノ驥尾ニ附スルモノナルヲ免レズ。蓋シ我政府ハ既ニ吾輩臣民ニ政治ノ權ヲ賦與シタリ而シテ彼レ兩派ノ本山ハ何故ニ未ダ其信徒ニ教會ノ權ヲ與ヘザル乎。我ガ政府ハ既ニ封建世襲ノ因習ヲ廢シタリ而シテ彼レ兩派ノ本山ハ何故ニ未ダ僧侶世襲ノ舊習ヲ改革セザル乎。試ニ彼ノ耶蘇教ノ各教會ヲ看ヨ。其大勢ヨリシテ論ズルキハ早晚自滅ノ命運ヲ有スト雖モ其信徒ノ數ハ我邦佛教十分ノ三ニモ及バザルノ教會ニシテ猶ホ能ク數十名ノ傳道師ヲ海外ニ派遣シ或ハ書籍ヲ刊行

舊佛教一變ニシテ新佛教トサントル可ズ

シ或ハ學校ヲ設立シテ其教ヲ維持擴張スルコトニ熱心スルニアラズヤ。今ヤ日本僧侶ノ數ハ殆ンド十萬ノ夥キアリ。耶蘇各派ノ傳道師ハ内外人士合シテ數千人ニ過ギズ。然ルニ彼レハ三府五港ヨリ山涯海濱ニ至ル迄新ナル信徒ヲ得ルニ奔走スレモ此レハ僅ニ有名無實ノ門徒ヲ失ハザランコトヲ憂フルニ過ギズ。彼レハ開明日進ノ新理新說ニ注目シテ其我ガ教理ニ少シニテモ符合スル所アレバ之ヲ附會シ其反對スルモノハ之ヲ駁辨スレモ此レハ從來自家ノ經論サヘモ講究スル能ハズ。彼レハ社會ヲ改良ス可キモノハ我レ自ラ率先シテ悉ク之ヲ唱道シ社會ヲ利スルノ功業ニ由リテ其教ヲ擴張セント欲スレモ此レハ宗教以外ノ事ハ敢テ與ラズ。自ラ進ンテ政治ニ社會ニ文學ニ教育ニ感化ニ及ボサントスルノ勇氣アルコトナシ。嗟呼十萬ノ僧侶ハ果シテ何ハ爲メニ生活スル乎。數千萬ノ信徒ハ果シテ何ヲ以テ斯世ヲ去ル乎。夫レ本山ハ法主ニヨリテ運動シ僧侶ハ本山ニヨリテ運動シ信徒ハ僧侶ニヨリテ運

動ス。故ニ法主ニシテ運動スレバ本山固ヨリ運動セザルヲ得ズ。本山ニシテ運動スレバ僧侶固ヨリ運動セザルヲ得ズ。僧侶ニシテ運動スレバ信徒固ヨリ運動セザルヲ得ズ。然ラバ則テ法主ハ何ニ山リテ運動ス可キカ。私利ニヨリテ運動セシテ歟。名譽ニヨリテ運動セシテ歟。將タ事務ノ止ム可ラザルニヨリテ運動セシテ歟。曰ク不信仰ニヨリテ運動ス。夫レ信ノ一字ハ其勢力偉大以テ天下ヲ動スニ足ル。而シテ此信果シテ那クヨリ來ルカ。曰ク佛陀無限ノ愛ハ一切衆生ヲ濟度ス。故ニ此愛ヲ信セザルモハハ其教ヲ信セザルモノナリ。既ニ其教ヲ信ズレバ當サニ一身ヲ犠牲ニシテ道ノ爲メニ斃レザル可ラズ。故ニ新佛教ノ進歩ハ盡ク真正ノ信仰ヨリ來ル。而シテ舊佛教ハ此信仰ナシ。故ニ亦ク進歩ナシ。

第二舊佛教ハ貴族的ニシテ新佛教ハ平民的ナリ。夫レ佛教ノ眼中ニハ貴族アルコトナシ。故ニ釋尊ハ夙ニ波羅門種族ノ階級ヲ排撃シ玉ヘリ。然ルニ今ヤ我邦ノ佛教ヲ顧レバ何ク貴族的ノ現象多クシテ平民的ノ現象少キヤ。彼レ西京ヲ始メ其他各地ニ於テ巍立スルノ寺院ヲ觀レバ連費雲ニ聳ヘ。金碧日ニ輝キ。宏壯偉麗ナル驚ク可ク。奈良日光ノ巨刹ノ如キハ實ニ我邦ノ美術ヲ代表スルニ足ルモノアリ。而シテ各地方ノ寺院ニ至ル迄財力ヲ殫クシテ建築ノ美ニ誇リ。彼ノ高野山ノ如キハ佛教ノ寺院トシテ保存センヨリモ寧ロ美術古物トシテ保存ス可シト説ク爲スモノアルニ至ル。而シテ東本願寺ノ殿堂再建ハ亦タ殆ソド連年ノ久ニ亘リテ數百萬圓ノ巨貨ヲ費シ。之ガ爲メニ學校ヲモ建設スル能ハズ。之ガ爲メニ布教ヲモ擴張スル能ハズ。不生産的ノ消費日ニ増シテ生産的ノ事業日ニ減ズ。此レ豈ニ貴族的ノ現象ニアラズヤ。又ク彼ノ僧侶ヲ看ヨ。彼レ社會ノ別階級ヲナシ。一小世界ノ裡ニ在リテ互ニ相軋轢シ。佛教ヲ以テ特有財産トシ。其稍學識アルモノハ之ヲ以テ揚々自得シ。其學識ナキモノハ插花茶湯書畫琴碁ヲ以テ藝ヲ施ヒ技ヲ闘ハシメ。復タ民情ノ困弊ヲ哀憐シ。社會ノ情態ヲ改良セント欲スルモノナシ。此レ豈ニ貴族

百七十五

的ノ現象ニアラズヤ。彼レ僧侶既ニ一小世界ヲ爲セリ故ニ其所依經典タル。普通人民ニ解シ難キ漢文ニシテ。一モ之ヲ邦文ニ譯スルモノナク。其所謂佛學ナルモノハ。亦ターノ専門學科ニシテ。普通人民ニ講習セシムル組織ニアラズ。此レ彼ノ歐洲ニ於テ宗教改革ノ未ダ起ラザル前ニ於テ。羅馬教會ガ普通人民ニ經典ヲ讀ムヲ禁シ。獨リ羅句語ヲ以テ經典ヲ譯出シタルノ日ト殆ンド相似タリ。此レ亦タ貴族的ノ現象ニアラズヤ。然ラバ則チ兩派ノ法主ガ自ラ進ンデ華族位階ヲ奉還シ。此世ノ富貴顯榮ヲ以テ揚々自得センヨリモ。寧ロ永遠不朽ノ冠冕ヲ戴クヲ以テ無上榮譽トシ自ラ天下ノ信徒ニ先チテ人爵ヨリモ天爵ノ猶ホ尙ブベキヲ知ラシメ。此土ノ富貴ヨリモ彼ノ土ノ富貴ノ猶ホ希フ可キヲ知ラシムルハ。此レ貴族的ノ佛教ヲ一變シテ平民的ノ佛教トナスモノナリ。彼ノ巍々タル殿堂ヨリモ。彼ノ莊嚴ナル寺院ヨリモ。彼ノ寬寂ナル名山ヨリモ。只一點信仰ノ在ル所ハ。則チ佛陀ノ愛臨シ玉フ所ト信シ。其有形

的ニ消費スル所ノモノヲ以テ之ヲ無形的ニ消費シ。其虛飾的ニ消費スル所ノモノヲ以テ之レヲ實用的ニ消費シ。其驕奢的ニ消費スル所ノモノヲ以テ之レヲ捨施的ニ消費スルハ。此レ貴族的ノ佛教ヲ一變シテ平民的ノ佛教トナスモノナリ。而シテ高尚ナル教理ハ平易ニ説明シ。専門ナル佛教ハ普通ナル學科トナシ。難讀ナル漢文ノ經論ハ易解ナル邦文ニ翻譯シ。務メテ佛教ノ光輝ヲシテ黑塗ノ馬車ヲ繫キタル門前ヨリモ。寧ロ炊煙夢ノ如キ茅屋ノ裡ヲ照ラサシムルモノハ。此レ貴族的ノ佛教ヲ一變シテ平民的ノ佛教トナスモノナリ。之ヲ要スルニ新佛教ハ其平民的ナルガ故ニ起リ。舊佛教ハ其貴族的ナルガ故ニ衰フ。故ニ既ニ衰フルノ佛教ヲ一變シテ將サニ盛ナラントスルノ佛教トナサント欲モハ貴族的ノ佛教ヲ一變シテ平民的ノ佛教トナサレバ可ズ。

第三舊佛教ハ物質的ニシテ新佛教ハ精神的ナリ。夫レ真正ノ宗教ハ物

質的ノ文明ヲ擯斥スルモノニアラズ。然レ正真正正ノ宗教ハ物質的ノ文明ヲ進メテ精神的ノ文明トナサント欲スルモノナリ。故ニ真正ノ宗教ハ精神的ナラザル可ラズ。而シテ佛教ハ特精神的ナラザル可ラズ。今ヤ我邦ノ佛教ハ果シテ精神的ナルカ。抑モ物質的ナルカ。彼ノ殿堂ハ固ヨリ物質ヲ以テ之ヲ莊嚴ス。而シテ此物質ノ莊嚴ト亦タ共ニ道義ノ莊嚴アルカ。彼ノ殿堂ニハ固トヨリ佛像ヲ安置ス。而シテ此佛像ヨリハ果シテ愛ノ生命ヲ流出スルガ。彼ノ僧侶ハ固トヨリ信徒ヲ率ヒテ誦經禮拜ス。而シテ彼等ハ果シテ俯服號泣シ。自ラ其罪ヲ懺悔シ。佛陀ノ愛ヲ感ズルカ。彼等ガ誦經スルヤ實ニ其音聲アリ。而シテ此音聲ハ果シテ精神ヨリ發スル乎。彼等ガ說教スルヤ實ニ其抑揚アリ。而シテ此抑揚ハ果シテ一言感動一句哭泣ヨリ來ル乎。蓋シ自ラ感せずシテ人ヲ感ゼシムルモノハアラズ。自ラ泣カズシテ人ヲ泣カシムルモノハアラズ。故ニ彼等ハ真如ヲ談ズルモ。哲學的ニ真如ヲ理會スルヲ能ハズ。彼等ハ淨土ヲ論ズ

ルモ理想的ニ淨土ヲ説明スルヲ能ハズ。彼等ハ心性ヲ談ズルモ。心理學的ニ心性ヲ解剖スルヲ能ハズ。彼等ハ輪廻ヲ談ズルモ。進化的ニ輪廻ヲ證明スルヲ能ハズ。彼等ハ無量壽ト言フモ。生物學的ニ永生ノ理ヲ説クヲ能ハズ。彼等ハ煩惱ト云フモ。自ラ肉欲ノ苦痛ヲ知ルヲ能ハズ。彼等ハ佛陀ト言フモ。目ヲ揚ゲテ佛陀ヲ觀ルヲ能ハズ。彼等ハ彌陀ト本願他力ト言フモ。此本願勢力ノ至大至剛ナルヤ。其人心ノ邪惡ヲ攻ムル。恰モ雷電ノ萬物ヲ擊ツテ之ヲ破碎スルガ如ク。其失望憂鬱苦患煩惱無明ヲ一掃スル。恰モ太陽ノ積雪ヲ照ラシテ之ヲ釋カスガ如ク。其良心ヲ發達スル。恰モ日光ノ草木ノ萌芽ヲ發達スルガ如ク。ナラザル可ラズ。而シテ方今幾人ノ僧侶ハ果シテ此本願ノ勢力ヲ經驗スルモノアルカ。幾人ノ信徒ハ果シテ此本願ノ勢力ヲ感觸スルモノアルカ。之ヲ要スルニ真正ノ宗教ナルモノハ智識ヨリモ寧ロ經驗ニ存シ。髮膚ヨリモ寧ロ神經ニ存シ。形體ヨリモ寧ロ生命ニ存シ。理論ヨリモ寧ロ實行ニ存シ。笑劇ヨリ

モ寧ロ悲劇ニ存シ美服ヨリモ寧ロ鮮血ニ存スルハ吾輩ノ喋々ヲ要セザル所ナリ故ニ佛教ハ物質的ノ殿堂ヲ要セザルニアラズ然レ其物質的ノ殿堂ヲ要セザルニアラズ然レ其物質的ノ儀式ヲ要セザルニアラズ然レ其物質的ノ儀式ヲ要スルハ則チ精神的ノ交通ヲナサンガ爲メ也物質的ノ感化ヲ及サンガ爲メ也物質的ノ言語ヲ要セザルニアラズ然レ其物質的ノ言語ヲ要スルハ則チ精神的ノ言語ヲ達センガ爲メ也物質的ノ音樂ヲ要セザルニアラズ然レ其物質的ノ音樂ヲ要スルハ則チ精神的ノ音樂ヲ奏センガ爲メ也然ラハ則チ新佛教ハ物質ヲ以テ手段トナシ而シテ舊佛教ハ物質ヲ以テ目的トス二者ノ間ニ於チ大ニ逕庭アルモノハ蓋シ茲ニ在リテ存スル也

第四舊佛教ハ學問的ニシテ新佛教ハ信仰的ナリ今マ夫レ學問ハ智識ノ事也信仰ハ實行ノ事也故ニ學問ハ能ク疑フモ信ズルモ能ハズ能ク知ルモ行フ能ハズ能ク議論スルモ感覺スル能ハズ能ク判斷スルモ觀

念スル能ハズ故ニ真正ナル信仰ハ學問ヲ要スト雖モ學問ハ實ニ其手段ニ過ギザルナリ左レハ新佛教ノ目的トスル所ハ信仰ニアリテ學問ニアラザルヲ以テ其智識ハ智識タルニ止マラズ進ンテ信仰ヲザル可ラズ信仰ハ信仰タルニ止ラズ進ンテ實行ヲザル可ラズ而シテ之ニ反シテ舊佛教ノ目的トスル所ハ信仰ニアラズシテ學問ニアルガ如シ試ニ所謂僧侶社會ノ名僧智識ナルモノヲ看ヨ曰ク某ハ八宗ヲ兼學ス曰ク某ハ一切經ヲ數回閱讀ス曰ク某ハ碩學ナリ曰ク某ハ博識ナリト徒ニ學問ヲ尙ブテ知リテ信仰ヲ重ズルヲ知ラズ其弊ノ到ル所實ニ今日ニ至リテ其極ニ達ス此ニ於テ各宗僧侶ノ有名ナルモノニハ博識家モアリ議論家モアリ雄辨家モアリ文學家モアリ然レ此ノ滔々タル類波ノ中ニ屹立シテ世界佛教ノ一大鐵柱トナリ其金剛不壞ノ信仰ヲ以テ日本全國ノ精神元氣ヲ維持スルモノハ吾輩未ダ其人アルヲ見ザルナリ經曰佛教大海信爲能入ト彼レ雄辨滔々トシテ懸河ノ如ク比

喻、縱、橫、善、巧、ニ、千、萬、人、ノ、聽、衆、ヲ、喜、怒、笑、泣、セ、シ、ム、レ、バ、ト、テ、此、信、ナ、ク、シ、
 テ、果、シ、テ、眞、正、ノ、佛、教、家、タ、ル、ヲ、得、ル、カ、彼、レ、博、識、宏、見、各、般、ノ、學、術、ニ、通、
 シ、千、萬、卷、ノ、經、論、ヲ、諳、ン、ズ、レ、バ、ト、テ、此、信、ナ、ク、シ、テ、果、シ、テ、眞、正、ノ、佛、教、家、
 タ、ル、ヲ、得、ル、カ、嗟、呼、彼、ノ、弘、法、大、師、ト、云、ヒ、見、眞、大、師、ト、云、ヒ、法、念、上、人、ト
 云、ヒ、日、蓮、上、人、ト、云、ヒ、或、ハ、絕、海、ヲ、航、シ、或、ハ、白、刃、ヲ、蹈、ミ、或、ハ、遠、島、ニ、流、サ、
 レ、或、ハ、嚴、刑、ニ、處、セ、ラ、レ、彼、レ、皆、ナ、一、生、ヲ、萬、死、ノ、間、ニ、僥、倖、シ、タル、モ、ノ、ナ、
 リ、然、レ、モ、彼、レ、鮮、血、ヲ、以、テ、佛、教、ノ、眞、理、ヲ、印、證、ス、ル、ノ、信、仰、ア、ル、ヲ、以、テ、
 遂、ニ、不、信、者、誹、謗、者、抗、敵、者、追、害、者、ヲ、シ、テ、生、命、ノ、途、ニ、歸、セ、シ、ム、ル、ヲ、得、
 タ、リ、今、ヤ、我、邦、ニ、於、テ、十、萬、佛、教、僧、侶、ア、リ、數、千、萬、ノ、佛、教、信、徒、ア、リ、而、シ、テ、
 國、民、道、德、ノ、衰、頹、ヲ、救、フ、ヲ、能、ハ、ザ、ル、ハ、豈、ニ、怪、ム、ニ、足、ラ、ン、ヤ、嗟、呼、佛、教、信、
 徒、ノ、向、フ、所、ハ、天、下、ニ、敵、ナ、シ、此、信、以、テ、同、胞、ニ、對、ス、レ、バ、同、感、ノ、情、ト、ナ、リ、
 此、信、以、テ、人、類、ニ、對、ス、レ、バ、無、限、ノ、愛、ト、ナ、リ、此、信、以、テ、國、家、ニ、對、ス、レ、バ、愛、
 國、ノ、義、氣、ト、ナ、リ、此、信、以、テ、眞、理、ニ、對、ス、レ、バ、一、切、ヲ、棄、テ、其、犠、牲、ト、ナ、リ、

此、信、以、テ、正、義、ニ、對、ス、レ、バ、如、何、ナル、處、ニ、於、テ、モ、其、味、方、ト、ナ、リ、此、信、以、テ、
 艱、難、ニ、對、ス、レ、バ、百、折、屈、セ、ズ、此、信、以、テ、迫、害、ニ、對、ス、レ、バ、劍、戟、避、ケ、ズ、此、信、
 以、テ、邪、說、ニ、對、ス、レ、バ、其、妄、見、ヲ、破、シ、此、信、以、テ、外、道、ニ、對、ス、レ、バ、寬、容、忍、耐、
 ト、ナ、ル、而、シ、テ、眞、理、ハ、每、ニ、最、後、ノ、勝、利、者、ヲ、ラ、ザ、ル、ハ、ナ、シ、故、ニ、吾、輩、ハ、斷、
 言、ス、新、佛、教、ノ、興、ル、ハ、此、信、仰、ア、ル、ヲ、以、テ、ナ、リ、舊、佛、教、ノ、亡、ブ、ル、ハ、此、信、仰、
 ナ、キ、ヲ、以、テ、ナ、リ、然、ラ、バ、則、チ、舊、佛、教、ヲ、一、變、シ、テ、新、佛、教、ト、ナ、ス、ハ、學、問、的、
 ノ、佛、教、ヲ、一、變、シ、テ、信、仰、的、ノ、佛、教、ト、ス、ル、ニ、ア、ラ、ズ、シ、テ、何、ゾ、ヤ、
 第、五、舊、佛、教、ハ、獨、個、的、ニ、シ、テ、新、佛、教、ハ、社、會、的、ナ、リ、凡、ソ、宗、教、其、者、ノ、性、質、
 ナ、論、ズ、レ、バ、獨、個、的、ナ、ル、ガ、如、シ、ト、雖、モ、亦、タ、社、會、的、ナ、リ、何、ト、ナ、レ、バ、宗、教、
 ノ、感、化、タ、ル、人、間、良、心、ノ、自、由、ニ、關、ス、ル、モ、ノ、ニ、シ、テ、其、人、若、シ、良、心、ニ、於、テ、
 之、ヲ、信、ゼ、ザ、レ、バ、他、人、何、如、ナル、壓、迫、ヲ、以、テ、ス、ル、モ、奈、何、ト、モ、ス、可、ラ、ズ、此、
 點、ヨ、リ、シ、テ、言、フ、ハ、宗、教、ハ、獨、個、的、ナ、リ、然、レ、モ、既、ニ、其、教、ヲ、信、ズ、レ、バ、必、
 ズ、大、悲、ヲ、發、シ、自、己、ノ、信、ヲ、推、シ、テ、他、人、ニ、及、ボ、シ、又、其、信、仰、ヲ、同、フ、ス、ル、モ、

ノハ精神ノ交通ヲナシテ相共ニ一體一心ヲザル可ラズ故ニ此點ヨリシテ言フキハ宗教ハ亦タ社會的ナリ我ガ佛教此理ヲ指シテ自利利他ト稱ス即チ自愛他愛ノ謂ナリ然ルニ我邦現時ノ佛教ヲ顧レバ其獨個的ニ止リテ社會的ニ進ム能ハザル勝ケテ歎ズ可ラズ外教ノ眼前ニ強梁跋扈スルヲ目撃シ乍ラ恬然トシテ顧ミザルノ信徒アリ佛教ハ果シテ歐米各國ニ勃興スルヤ否ヤヲ頑乎トシテ知ラザルノ僧侶アリ本山ノ維持ハ何如ニシテ之レヲ經綸ス可キヤ社會ノ布教ハ何如ニシテ之レヲ擴張ス可キヤ自教ノ腐敗ハ何如ニシテ之レヲ改良ス可キヤ外教ノ進入ハ何如ニシテ之レヲ防禦ス可キヤノ目下最モ切要ナル問題ヲ以テ方今各寺ノ住職ニ問ハバ彼等ハ一言半句ノ答ヲナス能ハザルナラン更ニ一步ヲ進メテ政治ト宗教ノ關係ハ如何ス可キヤ教育ト宗教ノ脈絡ハ如何ス可キヤ第十九世紀ニ於テ佛教ハ如何ニ運動ス可キヤノ問題ヲ提出セバ恐ラクハ彼等ハ聳ノ如ク啞ノ如ク席ヲ捲ヒテ走

リ出スナラン之ヲ要スルニ今日ノ信徒ハ自己アルヲ知リテ其他ヲ知ラズ今日ノ本山ハ一派アルヲ知リテ其他ヲ知ラズ故ニ舊佛教ト耶蘇教ト以テ之ヲ譬フレバ耶蘇教ハ其兵寡シ然レモ其訓練ノ熟練ナル其隊伍ハ整肅ナル一將令ヲ發スレバ萬兵響應シテ進退スルノ快觀アリ之ニ反シテ舊佛教ハ兵耶蘇教ニ千百倍スルヲ知ラズ然レモ共同ノ驅ケ引ナシ共同ノ運動ナシ故ニ常ニ衆ヲ以テ寡ニ制セラレ強ヲ以テ弱ニ破ラレ殆ンド奔命ニ疲レテ將サニ仆レントス此レ耶蘇教ハ社會主義ニシテ舊佛教ハ獨個主義ナルガ故也而シテ所謂獨個主義ナルモノハ固ヨリ佛教大乘ノ主義ニ合セザルナリ自利利他ノ主義ニ合セザルナリ方今僧侶亦タ何ヲ苦ンテ獨個主義ヲ執ルヲセンヤ然ラバ則チ獨個主義ヲ一變シテ社會主義トナスノ方法如何曰ク學校固ヨリ設立セザル可ラズ教會固ヨリ組織セザル可ラズ信徒固ヨリ會同セザル可ラズ新聞固ヨリ發刊セザル可ラズ書籍固ヨリ印刷セザル可ラズ演

說固ヨリ開會セザル可ラズ。末寺タルモノハ信徒ノ増減、信仰ノ盛衰ヲ以テ、之レヲ本山ニ報告セザル可ラズ。本山タルモノハ會議ノ議決、財政ノ出入ヲ以テ、之レヲ信徒ニ告示セザル可ラズ。管長タルモノハ自身又ハ代理者ヲ以テ、毎歲其教區ヲ巡回セザル可ラズ。信徒タルモノハ其總代ヲ選舉シテ、本山ニ其情實ヲ上達セザル可ラズ。然レモ此レ猶ホ有形上ノ方法タルニ過ギズ。若シソレ新佛教ガ獨個主義ヲ取ラズシテ、社會主義ヲ取ル所以ノモノハ、則チ曰ク吾ガ信ズル所ヲ推シテ、他ニ及ボシテ、佛陀無限ノ愛ニ報ゼンガ爲メ也。一切人類ト共ニ最大無量ノ福祉ヲ享受シ、佛陀ニ於テ一體トナランガ爲メ也。舊佛教家タルモノ豈深ク思ハサル可ケン哉。

第六、舊佛教ハ教理的ニシテ、新佛教ハ歷史的ナリ。夫レ宗教ハ確乎不拔ナル教理ヲ以テ、此レガ基礎トセザル可ラズ。然レモ教理ハ教祖ノ顯示シタル所ヲ歸納シ、演繹シタルモノニ過ギズ。而シテ歷史ハ顯示者ノ降

誕、教育、言語、道德、智慧、艱難、經驗、事業、時勢ヲ記錄スルモノナリ。故ニ教理ハ抽象的也。歷史ハ實體的也。教理ハ理論的也。歷史ハ實際的也。教理ハ智力的也。歷史ハ感情的也。之ヲ書ニ譬フレバ、教理ハ猶ホ影線ヲ以テ、形象ヲ寫シタルガ如シ。歷史ハ猶ホ之ニ彩色ヲ施シ、眉目宛然トシテ、生面ヲ開ク如シ。故ニ教理ハ人ヲシテ、解信ヲ生ゼシムレモ、歷史ハ更ニ人ヲシテ、仰信ヲ生ゼシム。教理ハ人ヲシテ、其道理ニ訴ヘシムレモ、歷史ハ更ニ人ヲシテ、其感情ニ訴ヘシム。教理ハ人ヲ感服スルノ勢力ヲ有スレモ、歷史ハ更ニ人ヲ感化スルノ勢力ヲ有ス。サノヒレイル氏曰ク、釋尊ノ傳記即チ歷史ハ其教ヘ玉ヒシ道德ノ完全ナル摸範ナリ。エドワードウオレツプ氏曰ク、若シ人熱心ニ聖道及ヒ、亞細亞ノ光ニ說示スルガ如キ單純ナル教訓ヲ信受セバ、微妙ナル哲理及ビ超絶ナル推理ヲ要セザル可キナリト。吾輩決シテ教理ヲ拋棄スルモノニアラズ。然レモ亞細亞ノ光一卷ノ内ニハ、實ニ美麗ナル教訓モアリ、高尚ナル道德モアリ、深奥ナル思